第５回　国際標準化対応支援委員会／運営委員会　国際会議報告書

資料 No.	＜TC47 関係＞国際会議報告
5-3／TC47-①	TC47「半導体デバイス」東京国際会議出席報告書 20081027-20081031
5-3／TC47-②	SC47A/WG2「集積回路／EMC 測定方法」東京国際会議出席報告 20081027-20081028
5-3／TC47-③	SC47A/WG9「集積回路／EMC 測定方法」東京国際会議出席報告 20081027-20081028
5-3／TC47-④	SC47D「半導体パッケージ」東京国際会議出席報告 20081027-20081030
5-3／TC47-⑤	SC47E「個別半導体デバイス」東京国際会議出席報告 20081027-20081031
5-3／TC47-⑥	TC47「半導体デバイス」東京国際会議経費収支報告書 20081027-20081031
5-3／TC47-⑦	SC47A、SC47A/WG2、WG9「集積回路」東京国際会議出席報告書 20081027-20081030
資料 No.	＜SC48B 関係＞国際会議報告書
5-3／SC48B-①	TC48&SC48B「コネクタ」サンパウロ国際会議出席報告書 20081117-20081120
資料 No.	＜SC48B 関係＞国際会議報告書
5-3／SC48D-①	TC48&SC48D「電子機器の機械的構造」サンパウロ国際会議出席報告書 20081118-20081120
資料 No.	＜SC62A 関係＞国際会議報告書
5-3／SC62A-①	SC62A/JWG1「リスクマネジメント」サニーベル国際会議出席報告書 20081201-20081203
5-3／SC62A-②	SC62A/WG14「医用電気機器の試験」ミュンヘン国際会議出席報告書 20081125-20081127
5-3／SC62A-③	SC62A/MT23「EMC」東京国際会議出席報告書 20081117-20081121
5-3／SC62A-④	SC62A/MT23「EMC」東京国際会議日本開催経費収支報告書 20081117-20081121
資料 No.	＜SC62D 関係＞国際会議報告書
5-3／SC62D-①	SC62D/JWG6「医用電子機器／呼吸ガスモニタ」ロンドン国際会議出席報告書 20081117-20081120
5-3／SC62D-②	SC62D/MT16「医用電子機器／内視鏡」シュトットガルド国際会議出席報告書 20081118-20081121
資料 No.	＜TC80 関係＞国際会議報告書
5-3／TC80-①	TC80/WG8A「船舶搭載用 AIS」ドイツ／コブレンツ国際会議出席報告書 20081020-20081024
5-3／TC80-②	TC80/WG6「デジタルインターフェース」ドイツ／ボン国際会議出席報告書 20081021-20081024
5-3／TC80-③	TC80/WG4A「GNSS（全地球的航法システム）」英国／ロンドン国際会議出席報告書 20081113－20081114
5-3／TC80-④	TC80/WG8B「船舶搭載用 AIS-SART」アーリントン国際会議出席報告書 20081208-20081209
資料 No.	＜TC91 関係＞国際会議報告書
5-3／TC91-①	TC91/WG1「電子実装技術」米国／サンノゼ国際会議出席報告書 20081015
5-3／TC91-②	TC91/WG2「電子実装技術」米国／サンノゼ国際会議出席報告書 20081016
5-3／TC91-③	TC91/WG3「電子実装技術」米国／サンノゼ国際会議出席報告書 20081013-20081015
5-3／TC91-④	TC91/WG12、TC93/JWG11「電子実装技術」米国／サンノゼ国際会議出席報告書 20081013-20081014
5-3／TC91-⑤	TC91/PT62468「電子実装技術」米国／サンノゼ国際会議出席報告書 20081014
5-3／TC91-⑥	TC91 Plenary「電子実装技術」米国／サンノゼ国際会議出席報告書 20081017

資料 No.	＜TC93 関係＞国際会議報告書
5-3／TC93-①	TC93「デザイン・オートメーション」シンガポール国際会議出席報告書 20081028-20081030
資料 No.	＜TC100＞国際会議報告書
5-3／TC100-①	TC100「AV・マルチメディア・システム・機器 TC100 総会」サンパウロ国際会議出席報告書 20081121
5-3／TC100-②	TC100/AGS、AGM「TC100 戦略諮問会議」サンパウロ国際会議出席報告書 20081117
5-3／TC100-③	TC100/GMT、Plenary「AV・マルチメディアシステム及び機器／ジェネラルメインテナンス会議」サンパウロ国際会議出席報告書 20081117-20081121
5-3／TC100-④	TC100/PT61606-1、-2「デジタルオーディオ測定方法パート 1 一般及びパート 2 コンシューマ用途」サンパウロ国際会議出席報告書 20081120
資料 No.	＜TC100/TA1＞国際会議報告書
5-3／TC100TA1-①	TC100/TA1「放送用エンドユーザ機器」サンパウロ国際会議出席報告書 20081119-20081120
資料 No.	＜TC100/TA2＞国際会議報告書
5-3／TC100TA2-①	TC100/TA2「AV 及びマルチメディアシステム・機器／色彩測定及びカラーマネジメント」サンパウロ国際会議出席報告書 20081117
資料 No.	＜TC100/TA4 関係＞国際会議報告書
5-3／TC100TA4-①	TC100/TA4/MT61937-2「圧縮デジタルオーディオ・インターフェース：データ・タイプ」サンフランシスコ国際会議出席報告書 20081003
5-3／TC100TA4-②	TC100/TA4「デジタルシステムインターフェース＆プロトコル」サンパウロ国際会議出席報告書 20081118
資料 No.	＜TC100/TA5＞国際会議報告書
5-3／TC100TA5-①	TC100/TA5/PT、MT「ケーブルネットワーク」フランクフルト国際会議出席報告書 20081014-20081016
資料 No.	＜TC100/TA6＞国際会議報告書
5-3／TC100TA6-①	TC100/TA6「放送・業務用ストレージ」サンパウロ国際会議出席報告書 20081119
資料 No.	＜TC100/TA7＞国際会議報告書
5-3／TC100TA7-①	TC100/TA7「AV マルチメディア民生用ストレージ」サンパウロ会議出席報告書 20081117-20081121
資料 No.	＜TC100/TA8＞国際会議報告書
5-3／TC100TA8-①	TC100/TA8「マルチメディアホームサーバシステム」サンパウロ国際会議出席報告書 20081117-20081121
資料 No.	＜TC100/TA9＞国際会議報告書
5-3／TC100TA9-①	TC100/TA9「AV アンドマルチメディア機器・システム／エンドユーザ用 AV マルチメディアアプリケーション」サンパウロ国際会議出席報告書 20081120
資料 No.	＜TC100/TA10＞国際会議報告書
5-3／TC100TA10-①	TC100/TA10「AV マルチメディアシステム及び機器／マルチメディア電子出版及び電子書籍」サンパウロ国際会議出席報告書 20081117-20081121
資料 No.	＜TC100/TA11＞国際会議報告書
5-3／TC100TA11-①	TC100/TA11「AV マルチメディアシステムの品質」サンパウロ国際会議出席報告書 20081117-20081121
資料 No.	＜TC103 関係＞国際会議報告書
5-3／TC103-①	TC103「無線通信用送信装置専門委員会」フランクフルト国際会議出席報告書 20081021-20081022

資料 No.	＜TC110 関係＞国際会議報告書
5-3／TC110-①	TC110「フラットパネルディスプレイ」京畿道　高陽市国際会議出席報告書 20081013-20081015
5-3／TC110-②	TC110/WG2「フラットパネルディスプレイ／液晶グループ」京畿道　高陽市国際会議出席報告書 20081013-20081015
5-3／TC110-③	TC110/WG4「フラットパネルディスプレイ／プラズマディスプレイグループ」京畿道　高陽市国際会議出席報告書 20081013-20081015
5-3／TC110-④	TC110/WG5「フラットパネルディスプレイ／有機 EL ディスプレイグループ」京畿道　高陽市国際会議出席報告書 20081013-20081015
資料 No.	＜TC113 関係＞国際会議報告書
5-3／TC113-①	TC113「電気・電子分野の製品及びシステムのナノテクノロジー」ガイザースブルグ国際会議出席報告書 20081113
5-3／TC113-②	TC113/WG3「電気・電子分野の製品及びシステムのナノテクノロジー」ガイザースブルグ国際会議出席報告書 20081110-200081111
5-3／TC113-③	TC113/JWG1「電気・電子分野の製品及びシステムのナノテクノロジー」上海国際会議出席報告書 20081117-20081121
資料 No.	＜JISC/CENELEC 関係＞国際会議報告書
5-3／JISC/CENELEC-①	JISC/CENELEC「日本規格調査会／欧州電気標準化委員会情報交換会」マドリード国際会議出席報告書 20081006

（社）電子情報技術産業協会　　運営委員会・資料番号：5-3／TC47-①（事務局記入）　　様式 4

国際標準化対応支援委員会　御中　　提出日：2008 年 12 月 5 日

（報告者記載）予算番号：H20TC47⑤

国際会議出席報告書

国際会議担当委員名：永広祐一　報告書作成者氏名：北川秀樹　（会社名）ソニー

出席会議名（半角）	区分	組織番号（TC/SC/TA）	TC47（半角）
TC47	☒TC ☐SC ☐TA ☐WG ☐PT ☐その他		
TC47WG2	☐TC ☐SC ☐TA ☒WG ☐PT ☐その他	名称（日本語）	半導体デバイス
TC47WG5	☐TC ☐SC ☐TA ☒WG ☐PT ☐その他		
TC47PT62258	☐TC ☐SC ☐TA ☐WG ☒PT ☐その他	☐単独開催	☒同時開催
開催期日	2008 年 10 月 27 日 ～ 2008 年 10 月 31 日		
開催場所	（国名）日本	（都市名）東京	
ﾁｪｱﾏﾝ／ｺﾝﾍﾞﾅ	米国	幹事国　韓国	
参加国及び参加人数	7ヶ国、主な国名 米国、韓国、英国、フランス、ドイツ、中国、日本、参加人数（57）		
日本人出席者名（会社名）	[○：補助対象者・・・（例）：○ 電子太郎(JEITA 電子)] 北川（ソニー）、宮本（ルネサス）、若井（東芝）、和田（パナソニック）、田中（ルネサス）、永広（東芝）、松山（富士通マイクロ）、登川（パナソニック）、亀山（ルネサス）他		

議事概要（背景・目的・成果・問題点など）（この欄は、見かけは1行ですが、所定欄に改行しながら最大28行まで記入できます。）

TC47:(1)TC47/WG5 のタイトルを”New Wafer Level Reliability for Semiconductor”に変更した（旧;Temperature stability test-MOSFET and Dielectric Breakdown test）。
(2)PT62558(Bare Die products project)の Scope を拡大する為(cover 領域；Multi Die Packaged and unpackaged Products)に新しいWG(TC47/WG6)を設立することが決定された。
(3) 新しい TC107 からのレターをレビューして TC47 からの懸念事項をまとめて Official letter を提出することを決定。
(4)他の TC との共同作業をレビューした(TC86/JWG9,TC91,TC101,TC101,TC111,TC113)
WG2：半導体デバイス環境・耐候性試験法。日本から提案しているボードレベル落下試験、ESD(CDM、HBM、MM)を中心に標準化方針を確認。HBM-TLP は P-member 不足で NP がリジェクトされたため、関係国に協力を再要請し内容も Scope で HBM に関するガイドラインとしての扱いで有る旨を明記して再提案を準備していく。IEC60749 のメンテナンスサイクルは合計８文書に対して出されたコメントの確認を行い、合意出来る物は追記作業を進めていく事となった。
WG5：配線材料のストレスマイグレーション試験の CD“IEC 62418, Ed. 1 Metallization stress void test”に対してドイツ、オランダからコメントが付いていた。回答を審議し CDV 案作成の合意を得た。加えて WG の名称を活動内容に相応しいものにするため審議、“Wafer level Reliability for semiconductor device”と決め、最終日に委員会の承認を得ることができた。
PT62258：半導体ﾍﾞｱﾀﾞｲに関する規格を作成するﾌﾟﾛｼﾞｪｸﾄ。３件のﾒﾝﾃﾅﾝｽ審議を実施し２版の FDIS／CDV として申請。半導体の長期保管に関して IEC 62435 Long Term Storage があったが、今後、ﾍﾞｱﾀﾞｲについては IEC 62258 に１本化される見込みとなった。今後のﾌﾟﾛｼﾞｪｸﾄの運営方法を見直し、TC47 の PT から WG 化に向けての提案を行った。新 WG のﾀｲﾄﾙは「Quality methods for single and multi-die packaged and unpackaged die products.」で、最終日の TC47 本会議で各国の承認が得られた。

[注]：1. 該当者は、出席会議終了後［6週間以内］に国際会議担当委員経由で、国際標準化対応支援委員会事務局宛ご提出下さい。
国際会議出席報告書の審議・承認の後に補助金を支払う。
会議終了後速やかに提出し、直近の運営委員会にて審議・承認を受けることが望ましい。
2. 本報告書は、同一会議に2名以上出席の場合、代表者が提出してください。
3. WG が TC/SC/TA と同時開催の場合は、WG 会議内容は TC/SC 報告に含めて報告書を提出して下さい。
4. 報告書の追加、訂正が生じた場合は、運営委員会開催後1週間以内に事務局に提出して下さい。
5. この報告書は、手続き完了後、JEITA ホームページ「国際標準化対応支援委員会」に掲載し、会員企業への報告に替えます。

国際標準化対応支援委員会事務局：(社)電子情報技術産業協会　知的基盤部標準・安全グループ
〒101-0065 東京都千代田区西神田 3-2-1（千代田ファーストビル南館）　Tel：03-5275-7259　Fax：03-5212-8122

様式 4

（社）電子情報技術産業協会　　運営委員会・資料番号：5-3／TC47-②（事務局記入）
国際標準化対応支援委員会　御中

提出日：2008 年 12 月 5 日

（報告者記載）予算番号： H20TC47⑤

国際会議出席報告書

国際会議担当委員名：齊藤義行　報告書作成者氏名：　市川浩司　（会社名）㈱デンソー

出席会議名（半角）	区　分	組織番号 (TC/SC/TA)	SC47A/WG2 (半角)
SC47A/WG2	☒TC ☐SC ☐TA ☒WG ☐PT ☐その他		
	☐TC ☐SC ☐TA ☐WG ☐PT ☐その他	名　称 (日本語)	集積回路／EMC 測定方法
	☐TC ☐SC ☐TA ☐WG ☐PT ☐その他		
	☐TC ☐SC ☐TA ☐WG ☐PT ☐その他	☐単独開催 ☒同時開催	
開催期日	2008 年 10 月 27 日 ～ 2008 年 10 月 28 日		
開催場所	（国名）日本	（都市名）東京	
ﾁｪｱﾏﾝ／ｺﾝﾍﾞﾅ	三谷真一郎	幹事国　日本	
参加国及び参加人数	6ヶ国、主な国名 会議参加：US (1), FR (1), DE (1), KR (1), JP (6) Net 会議でのみ参加：NL (1), FR (2), DE (1)、参加人数（14）		
日本人出席者名（会社名）	[○：補助対象者･･･（例）：○ 電子太郎(JEITA 電子)] 三谷真一郎(コンベナ、日立製作所)、齊藤義行(パナソニック)、市川浩司(デンソー)、 横溝剛一(STARC)、中村篤(ルネサステクノロジ)、和田修巳(京都大学)		

議事概要（背景･目的･成果･問題点など）（この欄は、見かけは1行ですが、所定欄に改行しながら最大28行まで記入できます。）

議事概要（背景･目的･成果･問題点など）

1. IEC 62433-1 (EMC IC modelling part 1: General modeling framework)の審議
1.1 背景と目的：CD (47A/785/CD)に対するのコメント（47A/790/CC）を審議した。
1.2 成果：3ヶ国、計 80 コメント（内、日本コメント 20）の処置について検討した。特に日本からは CD の内容が Part 1:フレームワークとして相応しくないとコメントし、ドラフトの構成案を提案した。
これらの審議の結果、ドキュメントの修正が大きいため、2CD を作成することとした。
1.3 問題点： ドキュメントの修正が大きいため、
①2CD の期限を事務局、セクレタリと打合せて決める。
②2CD の作成は、WG メンバが協力して作成する必要がある。
2. 新提案 「Black box modeling」の審議
2.1 背景と目的：Part-1 内に記載がある Black box modelling の構成法について日本とフランスがそれぞれ説明した。
2.2 成果：Web 会議で日本とフランスが説明した。フランスからは、IEC 62433-2 (ICEM-CE)の PDN (Passive Distribution Network)のみを S パラメータマトリクスで表現したモデルを Black box model として説明した。
それに対し、日本は ICEM-CE の IA (Internal Activity)と PDN を等価的な IA と PDN に変換するモデル構造を提案。PDN が内部ノードを持たないマトリクスで表現することで Black box 化が可能であると説明した。日本案についてはテクニカルレポートとして ’09 年に発行する予定である。
2.3 問題点
Black box modeling の normative essence を IEC 62433-2 の Revision に追加する方向で検討。
3. その他
3.1 Radiated emission modelling（IEC 62433-3 予定）：フランスの WD を次回会議で議論。
3.2 Immunity modelling (IEC 62433-4 を予定)：フランスが 2009 年初に NP 提案。
3.3 次回会議：2009-04、クラクフ（ポーランド）

[注]： 1. 該当者は、出席会議終了後 [6週間以内] に国際会議担当委員経由で、国際標準化対応支援委員会事務局宛ご提出下さい。
国際会議出席報告書の審議・承認の後に補助金を支払う。
会議終了後速やかに提出し、直近の運営委員会にて審議・承認を受けることが望ましい。
2. 本報告書は、同一会議に2名以上出席の場合、代表者が提出してください。
3. WG が TC/SC/TA と同時開催の場合は、WG 会議内容は TC/SC 報告に含めて報告書を提出して下さい。
4. 報告書の追加、訂正が生じた場合は、運営委員会開催後1週間以内に事務局に提出して下さい。
5. この報告書は、手続き完了後、JEITA ホームページ「国際標準化対応支援委員会」に掲載し、会員企業への報告に替えます。

国際標準化対応支援委員会事務局:(社)電子情報技術産業協会　知的基盤部標準･安全グループ

様式 4

（社）電子情報技術産業協会　　運営委員会・資料番号：5-3／TC47-③（事務局記入）
国際標準化対応支援委員会　御中

提出日：2008 年 12 月 5 日

（報告者記載）予算番号：H20TC47⑤

国際会議出席報告書

国際会議担当委員名：齊藤義行　報告書作成者氏名：齊藤義行　（会社名）パナソニック（株）

出席会議名（半角）	区　分	組織番号 (TC/SC/TA)	SC47A/WG9 (半角)
SC47A/WG9	☐TC ☒SC ☐TA ☒WG ☐PT ☐その他		
	☐TC ☐SC ☐TA ☐WG ☐PT ☐その他	名　称 (日本語)	集積回路／EMC 測定方法
	☐TC ☐SC ☐TA ☐WG ☐PT ☐その他		
	☐TC ☐SC ☐TA ☐WG ☐PT ☐その他	☐単独開催 ☒同時開催	
開催期日	2008 年 10 月 27 日 ～ 2008 年 10 月 28 日		
開催場所	（国名）日本	（都市名）東京	
ﾁｪｱﾏﾝ／ｺﾝﾍﾞﾅ	Christian Marot（仏）、	幹事国　日本	
参加国及び参加人数	5ヶ国、主な国名 日本（8）、フランス（4、3 名は電話会議）、ドイツ（2、1 名は電話会議）、オランダ（1、電話会議）、韓国（2）、参加人数（17）		
日本人出席者名（会社名）	[○：補助対象者･･･（例）：○ 電子太郎(JEITA 電子)] 中村篤(ﾙﾈｻｽ),市川浩司(ﾃﾞﾝｿｰ),横溝剛一(STARC),和田修己(京大),齊藤義行(ﾊﾟﾅｿﾆｯｸ), 三宅信一(三洋半導体),風間智(太陽誘電),白木康博(三菱電機),		

議事概要（背景･目的･成果･問題点など）（この欄は、見かけは1行ですが、所定欄に改行しながら最大28 行まで記入できます。）

1. 前回議事録の確認
   特に修正なく承認
2. 標準化ロードマップのレビュー
   - このロードマップはWG内のメモといった位置付けであったが、学会発表等で参照されることが多くなってきたため、ユーザを混乱させないためにも正確に記述する必要が生じてきている。このため、日本で修正を加えたものをベースに、測定法名, Status, NP・メンテナンス予定等を WG で見直し、正しいものに修正した。
   - 上記修正において、IEC 61967-1,2,3 の 3 つの規格に関して PL（アメリカ委員）が最近国際会議への欠席が多いため PL を続けられるかどうか確認することとなった。
3. NSF (Near Field Scan)のデータフォーマット標準化についての議論
   - 前回の Nantes 会議で提案があった NSF のデータフォーマット標準化について、実際の例を含めたフォーマット詳細がフランスより説明された。今後、TR として NP を出す前に DC（Document for comment）をフランスから出し、次回の会議にてコメントを議論することとなった。
   - IEC 62132-6(LIHA)と 62215-3(Non-synchronous transient injection)の NP はともに P メンバーの参加人数が不足したため否決されたが、今回のコメントに対応した NP 文書を作成し、新規 NP を出すこととなった。
   - IEC 62215-3 について、現在 PL はアメリカ委員だが、アメリカ委員および USNC の意向を確認の上、ドイツ委員に変更する方向で検討することとなった。
4. IEC 61967-8、62132-8 (IC Stripline)についての議論
   - それぞれの NP はともに APPROVE されており、それぞれの NP に対する各国からのコメント（トータル約 40 件）について議論を行い、Observation を FIX した。次は CD ステージに移行することとなった。
5. 次回の会議は 2009 年 4 月末に Karkow（ポーランド）で WG2 と合わせて開催する予定

[注]：1. 該当者は、出席会議終了後 [6週間以内] に国際会議担当委員経由で、国際標準化対応支援委員会事務局宛ご提出下さい。
国際会議出席報告書の審議・承認の後に補助金を支払う。
会議終了後速やかに提出し、直近の運営委員会にて審議・承認を受けることが望ましい。
2. 本報告書は、同一会議に2名以上出席の場合、代表者が提出してください。
3. WG が TC/SC/TA と同時開催の場合は、WG 会議内容は TC/SC 報告に含めて報告書を提出して下さい。
4. 報告書の追加、訂正が生じた場合は、運営委員会開催後1週間以内に事務局に提出して下さい。
5. この報告書は、手続き完了後、JEITA ホームページ「国際標準化対応支援委員会」に掲載し、会員企業への報告に替えます。

国際標準化対応支援委員会事務局：(社)電子情報技術産業協会　知的基盤部標準･安全グループ
〒101-0065 東京都千代田区西神田 3-2-1（千代田ファーストビル南館）　Tel：03-5275-7259　Fax：03-5212-8122

様式 4

（社）電子情報技術産業協会　　運営委員会・資料番号：5-3／TC47-④（事務局記入）
国際標準化対応支援委員会　御中

提出日：2008 年 12 月 5 日

（報告者記載）予算番号：H20TC47⑤

国際会議出席報告書

国際会議担当委員名：吉田　浩芳　　報告書作成者氏名：吉田　浩芳　（会社名）パナソニック株式会社

出席会議名（半角）	区　分	組織番号 (TC/SC/TA)	SC47D (半角)
SC47D	☐TC ☒SC ☐TA ☐WG ☐PT ☐その他		
SC47D/WG1	☐TC ☐SC ☐TA ☒WG ☐PT ☐その他	名　称 (日本語)	半導体パッケージ
SC47D/WG2	☐TC ☐SC ☐TA ☒WG ☐PT ☐その他		
	☐TC ☐SC ☐TA ☐WG ☐PT ☐その他	☐単独開催 ☒同時開催	

開催期日	2008 年 10 月 29 日 ～ 2008 年 10 月 30 日	
開催場所	（国名）日本	（都市名）東京
ﾁｪｱﾏﾝ／ｺﾝﾍﾞﾅ	中村伸一	幹事国　日本
参加国及び参加人数	4ヶ国、主な国名 日本、ドイツ、韓国、米国、参加人数（19）	
日本人出席者名（会社名）	[○：補助対象者･･･（例）：○ 電子太郎(JEITA 電子)] 中村(ユニテクノ)、吉田、藤原、冨田(パナソニック)、大塚(東芝)、中島(NEC ｴﾚｸﾄﾛﾆｸｽ)、山田(ルネサス)、前(ﾘｺｰ)、北川、石川(SONY)、大野(エルピーダ)、寺田(経産省)、古角(JSA)	

議事概要（背景･目的･成果･問題点など）（この欄は、見かけは1行ですが、所定欄に改行しながら最大28 行まで記入できます。）

1.規格化審議　10 件
① PUBLISH 2 件の確認
② 独提案ディスクリート SMD は日本提案規格に吸収することになった。独と協調必要。
③ 米国提案のマルチメディアカード外形は、Expert 不足で Reject されたが、再提案を検討する。
④ 日本提案のパッケージ外形図の作成様式は、各国の賛同を得て CDV に進むことになった。
⑤ 日本提案の積層パッケージのデザインガイド、BGA のデザインガイド、パッケージ熱時反り測定法は、投票中に付き、状況の説明が行われた。
⑥ 日本提案の SOJ/SOP の各測定法は、Expert がぎりぎり 4 人集まったため、Approved された。CD ステージへ移行することになった。

2.その他
① メンテナンスサイクルにおける日本担当案を提示。ドラフトを作成することになった。
② パッケージ個別規格のデータベース化は、今年度中に幹事の方で準備することになった。
③ リエゾン TC/SC 確認時に、新たな SC である SC47F との協調強化が提案された。

【総括・課題】
●日本が幹事になって初の日本開催であったが、4 ヶ国の協調姿勢が感じられ、実りの多い会議であった。
●会議成立・NP 成立に最低必要な 4 ヶ国しかアクティブではないため、国際規格化を活性化するには、親日国の参加を図っていく必要がある。
●今回の会議で、審議案件全てのスポンサーが日本になってしまい、幹事・議長・PL の全てを日本人が占める事になった。今後の進め方について、予め検討しておく必要がある。

[注]：1. 該当者は、出席会議終了後［6週間以内］に国際会議担当委員経由で、国際標準化対応支援委員会事務局宛ご提出下さい。
国際会議出席報告書の審議・承認の後に補助金を支払う。
会議終了後速やかに提出し、直近の運営委員会にて審議・承認を受けることが望ましい。
2. 本報告書は、同一会議に2名以上出席の場合、代表者が提出してください。
3. WG が TC/SC/TA と同時開催の場合は、WG 会議内容は TC/SC 報告に含めて報告書を提出して下さい。
4. 報告書の追加、訂正が生じた場合は、運営委員会開催後1週間以内に事務局に提出して下さい。
5. この報告書は、手続き完了後、JEITA ホームページ「国際標準化対応支援委員会」に掲載し、会員企業への報告に替えます。

国際標準化対応支援委員会事務局：(社)電子情報技術産業協会　知的基盤部標準･安全グループ
〒101-0065 東京都千代田区西神田 3-2-1（千代田ファーストビル南館）　Tel：03-5275-7259　Fax：03-5212-8122

様式 4

（社）電子情報技術産業協会　　運営委員会・資料番号：5-3／TC47-⑤（事務局記入）
国際標準化対応支援委員会　御中

提出日：2008 年 12 月 5 日

（報告者記載）予算番号：H20TC47⑤

国際会議出席報告書

国際会議担当委員名：石井一史　報告書作成者氏名：石井一史　（会社名）三菱電機株式会社

出席会議名（半角）	区分	組織番号 (TC/SC/TA)	SC47E (半角)
SC47E	□TC ☒SC □TA □WG □PT □その他		
WG1, WG2	□TC □SC □TA ☒WG □PT □その他	名称 (日本語)	個別半導体
WG3, WG4	□TC □SC □TA ☒WG □PT □その他		
JWG5/MT6	□TC □SC □TA ☒WG □PT □その他	□単独開催 ☒同時開催	
開催期日	2008 年 10 月 27 日 ～ 2008 年 10 月 31 日		
開催場所	（国名）日本	（都市名）東京	
ﾁｪｱﾏﾝ／ｺﾝﾍﾞﾅ	ﾁｪｱﾏﾝ 大和田/ｺﾝﾍﾞﾅ WG1:Park(韓国), WG2:大芝,WG3:古賀,WG4:小黒,JWG5:吉田	幹事国 韓国	
参加国及び参加人数	6ヶ国、主な国名 日本、韓国、中国、米国、独国、CO、参加人数（34）		
日本人出席者名（会社名）	[○：補助対象者･･･（例）：○ 電子太郎(JEITA 電子)] 大和田邦樹（帝京大学）、大芝克幸（ソニー）、小黒洋一（東芝）、梅田章（産総研）、佐々木孝朗(富士通)、宮龍也(NEC)、古賀健司(日立)、石井一史（三菱電機）、脇山成一郎（東芝）、竹内南（マイクロマシンセンター）、樋口泰之（ローム）、牧野洋三（明電舎）、真喜屋勝則（シャープ）、小川(NEC)、高田(アバゴ) 吉田淳一(千歳科学技術大学)、小川文雄(スタンレー)、寺田康裕(経産省)		

議事概要（背景・目的・成果・問題点など）（この欄は、見かけは1行ですが、所定欄に改行しながら最大28行まで記入できます。）

【背景・目的】各 WG の年間活動報告、各 PJ の文書審議と次のｽﾃｯﾌﾟの確認。ﾒﾝﾃﾅﾝｽと個別半導体共通課題の審議。

【成果・問題点】[SC47E](Plenary) 10/27 の Opening Plenary で各 WG の 1 年間の活動を報告し、10/31 の Closing Plenary で会期中の各 WG での審議結果報告と文書進捗・ﾒﾝﾃﾅﾝｽ計画の確認を行った。NP:2 件中 1 件可決。CDV:8 件中 7 件が可決、1 件が投票中。

[WG1] 1. 60747-14-3Ed.2(圧力ｾﾝｻｰ)は、CDV が可決され、反対無し・技術ｺﾒﾝﾄ無しで FDIS を飛ばして IS が発行されることになった。2. 60747-14-1Ed.2(ｾﾝｻｰ Generic)の CDV は、投票ｺﾒﾝﾄに対する修正案を検討・審議。その後、次の FDIS へ進める。3. 60747-14-4Ed.1(加速度ｾﾝｻｰ)の CDV は、IEC-SMB から ISO-TMB へ解決案の提案(SMB/3740/DC)がされており、ISO-TC108 の回答が来るまで次のアクションが取れない。回答があり次第、SMB からの指示を待って次のアクションに進める。4. 次回は来年 6 月に韓国で開催の予定。

[WG2] 1. 60747-16-5Ed.1(発振器)が、2 年越し 3 回目の NP が可決され、既に日本が準備した CD 案を回付することが決まった。2. 60747-16-3Ed.1Am.1(周波数変換器)と 60747-16-4Ed.1Am.1(ｽｲｯﾁ)は CDV が可決され、反対無し・技術ｺﾒﾝﾄ無しで FDIS を飛ばして IS が発行されることになった。3. 次回は来年 6 月に韓国で開催の予定。

[WG3] 1. 60747-7Ed.3(BTR),60747-8Ed.3(FET),60747-15Ed.2(絶縁型電力用半導体)の CDV は、投票ｺﾒﾝﾄに対する修正案を検討・審議。いずれも次の FDIS へ進める。2. 前記の 3 つの CDV は、修正ｺﾒﾝﾄが多く、ﾌﾟﾛｼﾞｪｸﾄ参加国の合意を得るため、来年 1 月にドイツで会議を開催する。

[WG4] 60747-5-5Ed.1(ﾌｫﾄｶﾌﾟﾗ)のﾒﾝﾃﾅﾝｽは、米国から修正提案が行われた。

[JWG5/MT6] 60747-5-1～5-3 の再編に、日本の JEITA 個別半導体小委で規格化された LED 規格(ED-4912)を取り込むことが提案され、再編案とその MCR 発行が合意された。日本の JEITA 個別半導体小委および MT6 国内小委員会の協業で英文化を進め、LED 規格の CD 提案を行う。

[注]：1. 該当者は、出席会議終了後［6週間以内］に国際会議担当委員経由で、国際標準化対応支援委員会事務局宛ご提出下さい。
国際会議出席報告書の審議・承認の後に補助金を支払う。
会議終了後速やかに提出し、直近の運営委員会にて審議・承認を受けることが望ましい。
2. 本報告書は、同一会議に2名以上出席の場合、代表者が提出してください。
3. WG が TC/SC/TA と同時開催の場合は、WG 会議内容は TC/SC 報告に含めて報告書を提出して下さい。
4. 報告書の追加、訂正が生じた場合は、運営委員会開催後1週間以内に事務局に提出して下さい。
5. この報告書は、手続き完了後、JEITA ホームページ「国際標準化対応支援委員会」に掲載し、会員企業への報告に替えます。

国際標準化対応支援委員会事務局：(社)電子情報技術産業協会　知的基盤部標準･安全グループ
〒101-0065 東京都千代田区西神田 3-2-1（千代田ファーストビル南館）　Tel：03-5275-7259　Fax：03-5212-812

㈳電子情報技術産業協会　　運営委員会・資料番号：5-3／TC47-⑥（事務局記入）

様式 9

国際標準化対応支援委員会　御中

提 出 日：	2008 年 12 月 5 日
予算番号：	H20TC47⑤

国際会議日本開催
経費収支報告書

1. 組　　織：　番 号　TC47
　名 称（日本語）　半導体デバイス

2. 会　議　名：　TC47 & Subcommittees Tokyo Meeting（☐単独開催 ☒同時開催）
　☒TC ☒SC ☐TA ☒WG ☒PT ☐その他

3. 開 催 期 日：　2008 年 10 月 27 日 ～ 2008 年 10 月 31 日

4. 開 催 場 所：　東京　三田共用会議所

単位:円

収 入 の 部		支 出 の 部	
科　目	金　額	科　目	金　額
国際標準化対応支援委員会	2,004,381 円	会議費（お茶・昼食代）	1,224,762 円
IEC/半導体	2,004,381 円	機材レンタル費	555,601 円
	円	文房具費	209,659 円
	円	通信費	15,643 円
	円	会合費（レセプション代）	1,851,097 円
	円	交通費（送迎バス代）	152,000 円
	円		円
	円		円
	円		円
	円		円
	円		円
合計（a）	4,008,762 円	合計（b）	4,008,762 円
		（a）－（b）	0 円

補助限度額:［会議出席者数（日本人登録メンバー50 人＋外国人 30 人）］×会議開催日数 5 日×1.5 万円=6,000,000 円

補助請求金額　2,004,381 円
［補助基準･運用規定の補助率（50 %）。上限は 300 万円。］

以上の通り報告致します。　　2008 年 12 月 5 日

申請責任者：　永広　祐一

※本報告書は、(様式4)「国際会議報告書」に添付して下さい。

（TSC-06 様式 2007.9）

様式 4

（社）電子情報技術産業協会　　運営委員会・資料番号：5-3／TC47-⑦（事務局記入）
国際標準化対応支援委員会　御中

提出日：2008 年 12 月 10 日

（報告者記載）予算番号：　H20TC47⑤

国際会議出席報告書

国際会議担当委員名：斉藤義行　報告書作成者氏名：　春日壽夫　（会社名）NEC ｴﾚｸﾄﾛﾆｸｽ

出席会議名（半角）	区　分	組織番号 (TC/SC/TA)	SC47A (半角)
SC47	☐TC ☒SC ☐TA ☒WG ☐PT ☐その他		
SC47AWG2	☐TC ☐SC ☐TA ☒WG ☐PT ☐その他	名　称 (日本語)	集積回路
SC47AWG9	☐TC ☐SC ☐TA ☒WG ☐PT ☐その他		
	☐TC ☐SC ☐TA ☐WG ☐PT ☐その他	☐単独開催 ☒同時開催	

開催期日	2008 年 10 月 27 日 ～ 2008 年 10 月 30 日	
開催場所	（国名）日本	（都市名）東京
ﾁｪｱﾏﾝ／ｺﾝﾍﾞﾅ	Roger George(英国)	幹事国　日本
参加国及び参加人数	6ヶ国、主な国名 日本、ドイツ、フランス、韓国、米国、英国、参加人数（11）	
日本人出席者名（会社名）	[○：補助対象者･･･（例）：○ 電子太郎(JEITA 電子)] 中村篤(ルネサステクノロジ)、三谷真一郎(日立、WG2 コンビナ)、寺田康裕(経産省)、 春日壽夫(NEC エレクトロニクス、SC47A 国際幹事)	

議事概要（背景･目的･成果･問題点など）（この欄は、見かけは1行ですが、所定欄に改行しながら最大28 行まで記入できます。）

1．目的：　半導体集積回路の標準化
2．成果：
1）会議開催状況：
WG2:　5 カ国　10 人内日本 6 人　（＋1 カ国、＋5 人：Web 会議）10/29～30
WG9:　5 カ国　12 人内日本 8 人　10/27～28
SC47A　6 カ国　11 人内日本 4 人　10/30
2）組織
SC47A(集積回路)　議長：英国、幹事：日本/春日 NECEL
WG2(デジタル IC、モデリング)　議長：日本/三谷（日立）
WG4(ADC/DAC：アナログ－デジタル変換)　議長：英国
WG7(先端ﾊｲﾌﾞﾘｯﾄﾞ：IC/MCM、3D-PKG、SiP)　議長：日本(春日 NECEL)
WG9(EMC 測定方法)　議長：フランス
3）全体会議概要
・IS が 3 件発行（その他詳細は、WG2 及び WG9 の報告書参照）
・SC47A：WG2、WG9 が中心で活動中であるが、米国の参加が停滞していることが課題となっている。
・WG2：日本主導の案件を進める過程でヨーロッパ各国の協力を得る事ができ、再び発な活動が行なえるようになった。運営方針は、①現有規格の価値評価と最新化、②EMC モデル規格の開発と整備、③時代のニーズである低電力化に寄与する新案件の発掘と推進
・WG4：アナログ－デジタル変換装置に関する審議をしており、アナログからデジタル変換装置については、IS 発行完了したが、デジタルからアナログ変換についての新規提案を検討中。
・WG7：WG7 のスコープにある MCM(SiP)、3D-PKG 等を含む「3 次元デバイス」の標準化につき日本からの提案を検討中。
・WG9：無線通信の利用拡大に伴い半導体の動作電流が機器の受信性能に影響するアプリが携帯機器等に拡大。EMI 評価の高周波対応とイミュニティ測定法の拡充に対して国内サプライヤ、ユーザの意見反映を積極的に行なっている
4）次回開催
2009 年 4 月：（ポーランド/Cracow）WG2，WG9
2009 年 10 月：（イスラエル/テルアビブ）SC47A 全体及び WG 会議
5）課題
・2010 年以降に大量の現有規格の更新期限を迎える。2008 年の SC47A 国際会議で各国へのアンケート調査方式による期限延長、改訂、廃止の手続き作業を開始した。
・新規提案におけるエキスパート不足、韓国および東南アジアへの IEC 参加推進活動をしていく必要がある
・新しい技術体系（3 次元デバイス、トレーサビリティ、ナノエレクトロニクス）等における関連 TC（TC113、TC91、SC47F、TC40 等）との国際標準化連携活動推進

様式 4

（社）電子情報技術産業協会　　運営委員会・資料番号：5-3／SC48B-①（事務局記入）
国際標準化対応支援委員会　御中

提出日：2008 年 12 月 10 日

（報告者記載）予算番号：H20SC48B②

国際会議出席報告書

国際会議担当委員名：河合　徹　報告書作成者氏名：　河合　徹　（会社名）日本航空電子工業株式会社

出席会議名（半角）	区　分	組織番号 (TC/SC/TA)	SC48B (半角)
TC48	☒TC ☐SC ☐TA ☐WG ☐PT ☐その他		
SC48B	☐TC ☒SC ☐TA ☐WG ☐PT ☐その他	名　称 (日本語)	コネクタ
SC48B/WG3,5,6	☐TC ☐SC ☐TA ☒WG ☐PT ☐その他		
	☐TC ☐SC ☐TA ☐WG ☐PT ☐その他	☐単独開催 ☒同時開催	
開催期日	2008 年 11 月 17 日 ～ 2008 年 11 月 20 日		
開催場所	（国名）ブラジル	（都市名）サンパウロ	
ﾁｪｱﾏﾝ／ｺﾝﾍﾞﾅ	B.Joynes/G.Weking/D.Jooren /U.Blosfeld	幹事国　アメリカ	
参加国及び参加人数	7ヶ国、主な国名 ｱﾒﾘｶ、ﾄﾞｲﾂ、ｲｷﾞﾘｽ、ﾌﾗﾝｽ、ｲﾀﾘｱ、中国、日本、参加人数（16）		
日本人出席者名（会社名）	[○：補助対象者･･･（例）：○ 電子太郎(JEITA 電子)] ○安田圭一(NTT-AT)、○小島禎雄(MK ｱｿｼｴｲﾂ)、○佐藤賢一(ﾋﾛﾋ電機)、○河合徹(日本航空電子)		

議事概要（背景･目的･成果･問題点など）（この欄は、見かけは1行ですが、所定欄に改行しながら最大28 行まで記入できます。）

1. WG3(コネクタ)

(1) 61076-3-118 Ed1.0、角形 push-pull ﾀｲﾌﾟ 4 芯＋PE power コネクタ(48B/1876/CD、48B/1949/CC)：フランスより文書構成の修正及び TC23 とのリエゾン設立もしくはフロントページへの TC23 の掲載が提案され審議の結果、文書構成については最新の Blanck detail spec に則っていること、また TC23 の件は本規格内容が SC48B の Scope を逸脱していないことから否決された。またイタリアから寸法ゲージ径が該当コンタクト寸法より小さいこと及びコンタクト保持力測定用ゲージについて記載が無いとの指摘があり審議の結果、修正・追加することで承認された。

(2)New work item Proposals：WG3 委員長 Mr.Weking(ドイツ)より SC48D との新規規格作業について、SC48D(ドイツ)は将来有望視されている PICMG Specification MTCA.0 R1.0:Micro Telecommunications Computing Architecture Base Specification を実現するため IEC60297-3-101 に準拠した 19inch Subrack 内への micro-format plug-in units の集積化が重要との認識を持っており、本件を実現するため SC48B に対してカードエッヂ形バックプレーンコネクタの IEC 規格開発を要請しているとの報告があった。Subruck の NP 文書は SC48D/WG4(ドイツ)が、バックプレーンコネクタの NP 文書は SC48B/WG3(ドイツ)が担当する予定。但し、micro-format plug-in units を実現できる別のコネクタ規格があれば、ドイツ以外の P メンバーからも提案可能であり、日本からの提案が期待されている。

2. WG5(試験法)

(1) 60512-X-X Ed1.0、Whisker test(48B/1884/NP、48B/1935/RVN)：本日本提案は RVN においてかろうじて承認及びプロジェクトに必要なエキスパート(5 名)を得たが、主要国メンバーからは現状の内容では規格化に賛成できない旨のコメントがあった。審議の結果、Scope にてコネクタ製品を用いた試験法であることの明確化及び規格案本文から機械的負荷試験部分を削除することが満場一致(日本は棄権)で決定し、日本がこの審議結果を受け入れるならば規格化への道が開かれることとなった。

(2)各種規格審議：60512-7-2(機械的衝撃強度)、60512-8-2(静的荷重),3(操作レバー強度)、60512-9-2(電流負荷と温度),4(コンタクト保持力)、60512-17-2,3,4(ケーブルクランプ強度)、60512-19-1(耐浸水性)、60512-20-1,3(燃焼性)以上 11 アイテムの CC 文書について審議。

3.WG６(接続技術)

(1) 60352-8、Compression mount connections：本日本提案は 48B/1789/CC に基づき、修正した後 2nd CD(48B/1948/CD)として各国へ回覧中（コメント締め切りは 2009 年 1 月 9 日）。

(2) 60352-5、Press-in connections(48B/1805A/FDIS、48B/1830/RVD)：RVD 発行後イタリアから提案されたエディトリアルコメント及びドイツから提案されたより細い径のプレスインポストの規格への追加ついて審議した結果、2 つの提案とも重要且つ必要との結論に至り、MCR に則り早急に変更処置するよう SC48B セクレタリーへ要請することとなった。

[注]：1. 該当者は、出席会議終了後 [6週間以内] に国際会議担当委員経由で、国際標準化対応支援委員会事務局宛ご提出下さい。
国際会議出席報告書の審議・承認の後に補助金を支払う。
会議終了後速やかに提出し、直近の運営委員会にて審議・承認を受けることが望ましい。
2. 本報告書は、同一会議に 2 名以上出席の場合、代表者が提出してください。
3. WG が TC/SC/TA と同時開催の場合は、WG 会議内容は TC/SC 報告に含めて報告書を提出して下さい。

様式 4

（社）電子情報技術産業協会　　運営委員会・資料番号：5-3／SC48D-①（事務局記入）
国際標準化対応支援委員会　御中

提出日：2008 年 12 月 1 日

（報告者記載）予算番号：H20SC48D①、②、③、④、⑤

国際会議出席報告書

国際会議担当委員名：末光　吾郎　　報告書作成者氏名：　末光　吾郎　（会社名）NEC

出席会議名（半角）	区　分	組織番号（TC/SC/TA）	TC48/SC48D（半角）
TC48	☒TC ☐SC ☐TA ☐WG ☐PT ☐その他		
SC48D/WG2	☐TC ☒SC ☐TA ☒WG ☐PT ☐その他	名　称（日本語）	電子機器の機械的構造
SC48D/WG4	☐TC ☒SC ☐TA ☒WG ☐PT ☐その他		
SC48D/WG5	☐TC ☒SC ☐TA ☒WG ☐PT ☐その他	☐単独開催 ☒同時開催	
開催期日	2008 年 11 月 18 日 ～ 2008 年 11 月 20 日		
開催場所	（国名）ブラジル	（都市名）サンパウロ	
ﾁｪｱﾏﾝ／ｺﾝﾍﾞﾅ	Wallers 氏（SWD）/Mazura 氏（GER）	幹事国　ブラジル	
参加国及び参加人数	6ヶ国、主な国名 中国、イギリス、ドイツ、スウェーデン、フランス、日本、参加人数（16）		
日本人出席者名（会社名）	[○：補助対象者・・・（例）：○ 電子太郎(JEITA 電子)] ○杉浦伸明（愛知工科大学）　○島田章夫（シュロフ）　○犀川慎一（三菱電機）　○高田潤二（三菱電機）　○黒木擁祐（NEC エンジアリング）　○末光吾郎（NEC）		

議事概要（背景・目的・成果・問題点など）（この欄は、見かけは1行ですが、所定欄に改行しながら最大28 行まで記入できます。）

WG 2：(1)IEC 60917-2-4: Adaptation dimensions for subracks applicable in cabinets in accordance with IEC 60297-3-100(48D/375/NP):新規日本提案が認められ、コメントを基に CD を年内に作成する。来年 3 月 CDV を目標とする。
(2)メンテナンス対象ドキュメントとして、IEC61587-2 耐震試験法について、日本委員会が見直しドキュメントを作成することとなった。スケジュールとして、2009 年が見直し、2011 年発行を目指す。

WG4:(1) IEC 60297-3-100 Ed.1 (48D/380/FDIS):Basic dimenstions of front panels,subracks,chassis,racks and cabinets.(ドイツ提案) は、2008 年 10 月 31 日投票完了。IS は 08 年末発行。
(2)IEC 50297-3-105 Ed. 1 (48D/381/FDIS): Dimensions and design aspects for 1U chassis (日本提案) 2008 年 10 月 31 日投票終了。IS は 08 年末発行。
(3) Adaptation dimensions for subracks of the IEC 60297 series applicable in metric cabinets in accordance with IEC 60917-2-1(48D/373/NP)（日本提案）:コメントを反映した CD を年内に作成。CDV を 09 年 3 月を目標とすることとなった。
(4)48D/WG4 はマイクロ・フォームファクタの構造新規格および SC48B での関連コネクタの規格化を進めるため、これらの仕様を最初に決めた PICMG（US の業界団体）と適正な連携を図ることを TC48 に提案した。

WG 5 (1) Dimensional definition for cabinets for the application of advanced cooling systems (48D/377/NP)意見を反映し CD 作成。09 年 3 月を CDV 目標とする。
(2) Design guide: Method of determining of forced air-cooling structure from the aspect of thermal management for cabinets in accordance with IEC60297 and IEC60917 series (48D/384/NP)（日本提案）:NP の投票とコメント集約が来年 1 月。これを受けて 09 年 3 月に CDV を作成することが決定した。

MT6　IEC61969 :Outdoor 規格シリーズの見直しを行うメンテナンスの作業について議論され以下の件が決定した。
Part 1: Design guide／Part 2: Dimensions for outdoor case and cabinets／Part 3: Environmental requirements and tests の構成とし、Part 1 について 09 年 3 月を CD とすることを目指すことが決定した。

[注]：1. 該当者は、出席会議終了後 [6週間以内] に国際会議担当委員経由で、国際標準化対応支援委員会事務局宛ご提出下さい。
国際会議出席報告書の審議・承認の後に補助金を支払う。
会議終了後速やかに提出し、直近の運営委員会にて審議・承認を受けることが望ましい。
2. 本報告書は、同一会議に 2 名以上出席の場合、代表者が提出してください。
3. WG が TC/SC/TA と同時開催の場合は、WG 会議内容は TC/SC 報告に含めて報告書を提出して下さい。
4. 報告書の追加、訂正が生じた場合は、運営委員会開催後1週間以内に事務局に提出して下さい。
5. この報告書は、手続き完了後、JEITA ホームページ「国際標準化対応支援委員会」に掲載し、会員企業への報告に替えます。

国際標準化対応支援委員会事務局：(社)電子情報技術産業協会　知的基盤部標準・安全グループ
〒101-0065 東京都千代田区西神田 3-2-1（千代田ファーストビル南館）　Tel：03-5275-7259　Fax：03-5212-8122

様式 4

（社）電子情報技術産業協会　　運営委員会・資料番号：5-3／SC62A-①（事務局記入）
国際標準化対応支援委員会　御中

提出日：2008 年 12 月 9 日

（報告者記載）予算番号：H20SC62A⑥

国際会議出席報告書

国際会議担当委員名：市川義人　報告書作成者氏名：　市川義人　（会社名）オリンパスメディカルシステムズ（株）

出席会議名（半角）	区　分	組織番号 (TC/SC/TA)	SC62A (半角)
SC62A/JWG1	☐TC ☐SC ☐TA ☒WG ☐PT ☐その他		
	☐TC ☐SC ☐TA ☐WG ☐PT ☐その他	名　称 (日本語)	医用電子機器共通事項
	☐TC ☐SC ☐TA ☐WG ☐PT ☐その他		
	☐TC ☐SC ☐TA ☐WG ☐PT ☐その他	☒単独開催 ☐同時開催	
開催期日	2008 年 12 月 1 日 ～ 2008 年 12 月 3 日		
開催場所	（国名）米国	（都市名）サニーベル	
ﾁｪｱﾏﾝ／ｺﾝﾍﾞﾅ	Alfred M Dolan	幹事国　米国	
参加国及び参加人数	8ヶ国、主な国名 独、米、英、ノルウエー、フランス、日、カナダ、日本、参加人数（17）		
日本人出席者名（会社名）	[○：補助対象者･･･（例）：○ 電子太郎(JEITA 電子)] ○市川義人（オリンパスメディカルシステムズ）		

議事概要（背景･目的･成果･問題点など）（この欄は、見かけは1行ですが、所定欄に改行しながら最大28 行まで記入できます。）

1．目的：ISO 14971 第2版の作成に伴い、GUIDE63 規格作成者へのリスクマネジメントの正しい適用　の見直しを行う。今回は、ホワイトペーパー２を GUIDE63 に反映したものを WG 内で審議したコメントに基づいて修正を行う。

2．成果：

・全 48 項目の各国指摘事項の審議が終了した。修正後の GUIDE63 は後日委員に配布し再度内容確認を行い、次回 TC210 総会と同時開催で行う WG で最終見直しを行う。内容的には特に問題無し。その後国際審議にかける。

・ホワイトペーパー１ 一般向けのリスクマネジメントの正しい適用のための資料は、前回ニュージーランドでの会議で基本的に内容は合意に達しているが、これも再度見直しを行い、今後配布方法を検討する事となった。

・IEC/DTR 80002 ソフトウエアへのリスクマネジメント CD の内容確認終了した。

・IEC/CD 80001 IT ネットワーク機器の内容確認終了した。

3．その他問題点　問題点は特に無し、次回は 2009 年 5 月にニューオリンズでの TC210 とあわせて会議を行う事となった。

[注]：1. 該当者は、出席会議終了後 [6週間以内] に国際会議担当委員経由で、国際標準化対応支援委員会事務局宛ご提出下さい。
国際会議出席報告書の審議・承認の後に補助金を支払う。
会議終了後速やかに提出し、直近の運営委員会にて審議・承認を受けることが望ましい。
2. 本報告書は、同一会議に2名以上出席の場合、代表者が提出してください。
3. WG が TC/SC/TA と同時開催の場合は、WG 会議内容は TC/SC 報告に含めて報告書を提出して下さい。
4. 報告書の追加、訂正が生じた場合は、運営委員会開催後1週間以内に事務局に提出して下さい。
5. この報告書は、手続き完了後、JEITA ホームページ「国際標準化対応支援委員会」に掲載し、会員企業への報告に替えます。

国際標準化対応支援委員会事務局：(社)電子情報技術産業協会　知的基盤部標準･安全グループ
〒101-0065 東京都千代田区西神田 3-2-1（千代田ファーストビル南館）　Tel：03-5275-7259　Fax：03-5212-8122

様式 4

（社）電子情報技術産業協会　　運営委員会・資料番号：5-3／SC62A-②（事務局記入）
国際標準化対応支援委員会　御中

提出日：2008 年 12 月 5 日

（報告者記載）予算番号：H20SC62A⑯

国際会議出席報告書

国際会議担当委員名：市川義人　報告書作成者氏名：内藤正章　（会社名）日本光電工業㈱

出席会議名（半角）	区分	組織番号 (TC/SC/TA)	SC62A (半角)
SC62A/WG14	☐TC ☐SC ☐TA ☒WG ☐PT ☐その他		
	☐TC ☐SC ☐TA ☐WG ☐PT ☐その他	名称 (日本語)	医用電気機器の共通事項
	☐TC ☐SC ☐TA ☐WG ☐PT ☐その他		
	☐TC ☐SC ☐TA ☐WG ☐PT ☐その他	☒単独開催 ☐同時開催	
開催期日	2008 年 11 月 25 日 ～ 2008 年 11 月 27 日		
開催場所	（国名）ミューヘン	（都市名）ドイツ	
ﾁｪｱﾏﾝ／ｺﾝﾍﾞﾅ	Mr.M. Sippl	幹事国 米国	
参加国及び参加人数	4ヶ国、主な国名 独、イスラエル、オーストリア、日本、参加人数（6）		
日本人出席者名（会社名）	[○：補助対象者･･･（例）：○ 電子太郎(JEITA 電子)] ○内藤正章（日本光電工業）		

議事概要（背景･目的･成果･問題点など）（この欄は、見かけは1行ですが、所定欄に改行しながら最大28 行まで記入できます。）

1．背景･目的

医用電気機器の試験についての検討を行っている。特に IEC60601-1 の第３版AMD１への対応が求められている。

2．成果

･医用電気機器一般試験手順 TR62354 Ed.2 の CD 検討(62A/628/CC)：

313 のコメントが出された。多くのコメントはエディとーリアルなものであり、採用することとなった。一般的なものを検討し、検討を完了し、ＣＤＶとすることになった。

･60601-1 第三版のAMD１：

過去の検討過程で出された問題点（issue sheet）は 155 ヶあり、10 月フランクフルトの SC62A の CAG で、どこが担当するか割り振られた。WG14 は 14 個対象となり、これらについての対応が検討され、その方向を決めた。

主な点は①漏れ電流の図の変更、②クリーニングの methylated sprit に関する記述の追加、③バッテリー機器の漏れ電流の図の追加など。

また、CAG ではAMD１の検討する範囲は、現在の要求事項の範囲内とし、新しいことは取り扱わないことが決議された。これまでに、この WG で取り上げられた 23 のテーマについて、AMD1 の検討課題とするかどうか検討した。ほとんどのものはAMD１に提案することとなった。

3．問題点

･リスクマネジメントについて：

第３版のリスクマネジメントの試験機関での評価について、IECEE RM タスクフォースで検討されてきた。10 月に行われた IECEE RM タスクフォースのトロント会議の報告があった。これまでのＴＦの会議でまとめられた報告書 IECEE-CMC/853A/RCMC が紹介された。この報告書には２つの Annex があり、Annex A（80 ページ）と Annex B(20 ページ）が添付されている。これらについて議論したが、まだ多くの問題があるように思われた。当 WG としては、今年１月にまとめた意見を AnnexB に反映するようにタスクフォースに申し入れることとした。またこれらの内容をベースに、各国の試験機関を対象としたリスクマネジメントワークショップが来年４月に開催される予定である。

[注]：1. 該当者は、出席会議終了後［6週間以内］に国際会議担当委員経由で、国際標準化対応支援委員会事務局宛ご提出下さい。
国際会議出席報告書の審議・承認の後に補助金を支払う。
会議終了後速やかに提出し、直近の運営委員会にて審議・承認を受けることが望ましい。
2. 本報告書は、同一会議に2名以上出席の場合、代表者が提出してください。
3. WG が TC/SC/TA と同時開催の場合は、WG 会議内容は TC/SC 報告に含めて報告書を提出して下さい。
4. 報告書の追加、訂正が生じた場合は、運営委員会開催後1週間以内に事務局に提出して下さい。
5. この報告書は、手続き完了後、JEITA ホームページ「国際標準化対応支援委員会」に掲載し、会員企業への報告に替えます。

国際標準化対応支援委員会事務局：(社)電子情報技術産業協会　知的基盤部標準･安全グループ
〒101-0065 東京都千代田区西神田 3-2-1（千代田ファーストビル南館）　Tel：03-5275-7259　Fax：03-5212-8122

（社）電子情報技術産業協会　　運営委員会・資料番号：5-3／SC62A-③（事務局記入）　　様式 4

国際標準化対応支援委員会　御中

提出日：2008年 12月 5日

（報告者記載）予算番号：H20SC62A④

国際会議出席報告書

国際会議担当委員名：市川 義人　報告書作成者氏名：冨沢 修幸　（会社名）パナソニック(株)

出席会議名（半角）	区分	組織番号 (TC/SC/TA)	SC62A/MT23 (半角)
SC62A/MT23	☐TC ☐SC ☐TA ☒WG ☐PT ☐その他		
	☐TC ☐SC ☐TA ☐WG ☐PT ☐その他	名称 (日本語)	共通事項：EMC
	☐TC ☐SC ☐TA ☐WG ☐PT ☐その他		
	☐TC ☐SC ☐TA ☐WG ☐PT ☐その他	☒単独開催 ☐同時開催	

開催期日	2008年 11月 17日 ～ 2008年 11月 21日	
開催場所	（国名）日本	（都市名）東京
ﾁｪｱﾏﾝ／ｺﾝﾍﾞﾅ	Jeffrey Silberberg	幹事国 アメリカ
参加国及び参加人数	4ヶ国、主な国名 アメリカ、ドイツ、スウェーデン、日本、参加人数（10）	
日本人出席者名（会社名）	[○：補助対象者・・・（例）：○ 電子太郎(JEITA電子)] 中田 和成（(株)東芝）、冨沢 修幸（パナソニック(株)） オブザーバ参加：日本MT23委員会から連日約10名	

議事概要（背景・目的・成果・問題点など）（この欄は、見かけは1行ですが、所定欄に改行しながら最大28行まで記入できます。）

1. 背景と目的
   結合規格IEC 6XXXXのイミュニティ要求事項および試験レベルへの日本コメント・提案の審議
2. 審議結果
   1)日本より事前に、下記のコメント及び提案を連絡し、会議での審議を行なった。
   ①イミュニティ試験レベルを、製造業者がリスクマネジメントプロセスを用いて決定する。
   →日本提案のリスクマネジメントプロセスを用いてイミュニティ試験レベル決定方法について、フローチャートを用いて 2 日間に亘り説明・審議を行なった。MT23 は興味を示したが、イミュニティ試験レベルは、その医療機器が使用される環境によって決められるとのコンセプトにより東京会議で採用には至らず。
   ②新規格案、IEC 6XXXXの現状案では、安全性と性能が、同じ章に入っているため安全と性能の要求事項の区別が不十分であり、別の章にするべきである。
   →会議前にconvenerより章を分けることは出来ないとの結論が出された。
   ③使用環境について、大病院と大病院以外の二つのカテゴリーに分類されているが、矛盾が生じるため、a）大病院、b）家庭、医院及びクリニック、c) 移動機器：可搬型、車載型及びその他の三つのカテゴー分けを提案。
   →使用環境のカテゴリーを見直し、a）大病院、b）医院及びクリニック、c)家庭、d)移動機器：可搬型、車載型及びその他の四つのカテゴリーとした。
   ④現状の案では、国際規格でないMIL(米国軍規格)やRTCA DO-160D(米国航空機規格)を引用しているが、IEC規格に、国際規格でないMIL(米国軍規格)やRTCA DO-160D(米国航空機規格)を引用するのは不適切。
   →項目は削除せず、規格の引用については継続検討することになった。
   ⑤放射電磁界イミュニティの試験周波数範囲をIEC 61000-4-3の要求と合わせることを明記するべき。
   →80MHzから1GHzの周波数では基本規格IEC 61000-4-3の要求を採用し、380MHzから6GHzの周波数範囲では不連続な周波数、変調方法、試験レベルで近傍電磁界試験(試験方法は検討中)を採用する。
   ⑥Ed.3 より高いイミュニティ試験レベルの設定根拠の説明が不十分であるため、十分な説明を MT23 メンバーに対して行ない、また ANNEX にも記載するべき。
   →EMCのIEC規格技術レポート(IEC/TR 61000-2-5; Classification of electromagnetic environments. Basic EMC publication)の考え方を引用し、根拠を説明された。日本委員会としては、納得できる内容ではないが、国際規格のTRを根拠としているため、反論したが他国のメンバーを納得させることは困難な状況である。
3. 次回および次々回開催予定
   2009年1月にカリフォルニア州Carlsbad、3月にドイツ又はアメリカで開催予定。

[注]：1. 該当者は、出席会議終了後「6週間以内」に国際会議担当委員経由で、国際標準化対応支援委員会事務局宛ご提出下さい。
国際会議出席報告書の審議・承認の後に補助金を支払う。
会議終了後速やかに提出し、直近の運営委員会にて審議・承認を受けることが望ましい。
2. 本報告書は、同一会議に2名以上出席の場合、代表者が提出してください。
3. WGがTC/SC/TAと同時開催の場合は、WG会議内容はTC/SC報告に含めて報告書を提出して下さい。
4. 報告書の追加、訂正が生じた場合は、運営委員会開催後1週間以内に事務局に提出して下さい。
5. この報告書は、手続き完了後、JEITAホームページ「国際標準化対応支援委員会」に掲載し、会員企業への報告に替えます。

国際標準化対応支援委員会事務局：(社)電子情報技術産業協会 知的基盤部標準・安全グループ
〒101-0065 東京都千代田区西神田 3-2-1（千代田ファーストビル南館） Tel：03-5275-7259 Fax：03-5212-8122

(TSC-06 様式 2008.1)

㈳電子情報技術産業協会　　運営委員会・資料番号：5-3／SC62A-④（事務局記入）

様式 9

国際標準化対応支援委員会　御中

提 出 日：	2008 年 12 月 5 日
予算番号：	H20SC62A④

国際会議日本開催
経費収支報告書

1. 組　　織：　番　号　TC62&SC62A
　　名　称（日本語）　医用電気機器共通事項

2. 会　議　名：　SC62A/MT23（☒単独開催　☐同時開催）
　　☐TC　☐SC　☐TA　☒WG　☐PT　☐その他

3. 開 催 期 日：　2008 年 11 月 17 日 ～ 2008 年 11 月 21 日

4. 開 催 場 所：　東京

単位:円

収入の部		支出の部	
科　目	金　額	科　目	金　額
国際標準化対応支援委員会	201,486 円	会議室使用料金	300,000 円
ME標準化委員会	302,231 円	懇親会費用	65,000 円
	円	会議中飲食費	138,177 円
	円	雑費	540 円
	円		円
	円		円
	円		円
	円		円
	円		円
	円		円
	円		円
合計（a）	503,717 円	合計（b）	503,717 円
		（a）－（b）	0 円

補助限度額:［会議出席者数（日本人登録メンバー2 人＋外国人 8 人）］×会議開催日数 5 日×1.5 万円＝75 万 円

補助請求金額　201,486 円
［補助基準･運用規定の補助率（40 %）。上限は 300 万円。］

以上の通り報告致します。　　2008 年 12 月 5 日

申請責任者：　柴田　優

※本報告書は、（様式4）「国際会議報告書」に添付して下さい。

（TSC-06 様式 2007.9）

様式 4

（社）電子情報技術産業協会　　運営委員会・資料番号：5-3／SC62D-①（事務局記入）
国際標準化対応支援委員会　御中

提出日：2008 年 12 月 4 日

（報告者記載）整理番号：H20SC62D⑪

国際会議出席報告書

国際会議担当委員名：内藤正章　報告書作成者氏名：中谷 敬　（会社名）日本光電工業株式会社

出席会議名（半角）	区分	組織番号 (TC/SC/TA)	SC62D (半角)
SC62D/JWG6	☐TC ☐SC ☐TA ☒WG ☐PT ☐その他		
	☐TC ☐SC ☐TA ☐WG ☐PT ☐その他	名称 (日本語)	医用電子機器
	☐TC ☐SC ☐TA ☐WG ☐PT ☐その他		
	☐TC ☐SC ☐TA ☐WG ☐PT ☐その他	☒単独開催 ☐同時開催	
開催期日	2008 年 11 月 17 日 ～ 2008 年 11 月 20 日		
開催場所	（国名）イギリス	（都市名）London	
ﾁｪｱﾏﾝ／ｺﾝﾍﾞﾅ	Terry Longman	幹事国　アメリカ	
参加国及び参加人数	8ヶ国、主な国名 アメリカ、イギリス, ドイツ、スウェーデン、日本、参加人数（11）		
日本人出席者名（会社名）	[○：補助対象者･･･（例）：○ 電子太郎(JEITA 電子)] ○ 中谷 敬(日本光電工業株式会社)		

議事概要（背景･目的･成果･問題点など）（この欄は、見かけは1行ですが、所定欄に改行しながら最大28 行まで記入できます。）

背景：呼吸ガスモニタに関する国際規格 IEC/ISO 80601-2-55 の制定作業が開始された。安全通則 IEC 60601-1:2005 第 3 版の個別規格として、現行規格 ISO 21647 を改定する。IEC/SC62D と ISO/TC121/SC1 の Joint Working Group JWG6 で担当する。Working Draft(WD)が 9 月に発行され、各国エキスパートより提出されたコメントに対して会議で審議した。

目的：安全通則第 3 版との編集上の整合性を取ることが、今回の改定の主目的である。各国より提出されたコメントを基に、次のような点を討議した。

(1) 基本性能（essential performance）の規定　(2) EMC immunity 試験下での基本性能の維持規定
(3) 安全通則第 3 版に対応する副通則の適用規定　(4) その他技術上、編集上の修正

成果：討議結果を基に CD 案を作成した。CD は、2、3 ヶ月内に ISO/IEC の各国国内委員会に回付される予定である。日本からは、現行規格 ISO 9919 の JIS 化翻訳の過程で明らかになった問題点にも修正を求めた。要求事項の原文解釈に疑義が生じる点については、代替案を示して記述の明確化を求めた。主要なものは概ね受け入れられた。

問題点：現行規格 ISO 9919 が、安全通則 IEC 60601-1:2005 第 3 版原案に基づいて作成されたため、会議で意見が紛糾するような大きな問題点はなかった。ただし、個別規格での essential performance(基本性能)に、呼吸ガスモニタの精度と機器アラーム状態の発生が記載されており、その理由と必要性についてかなり集中的な意見が交わされた。精度が基本性能として規定されると、第 3 版の適用下では EMC の immunity 試験でその性能を維持しなくてはならない。制度と機器アラーム状態発生の関係についても、議論され、附属書にその rationale を記載することで、CD 案は作成された。

[注]：1. 該当者は、出席会議終了後［6週間以内］に国際会議担当委員経由で、国際標準化対応支援委員会事務局宛ご提出下さい。
国際会議出席報告書の審議・承認の後に補助金を支払う。
会議終了後速やかに提出し、直近の運営委員会にて審議・承認を受けることが望ましい。
2. 本報告書は、同一会議に 2 名以上出席の場合、代表者が提出してください。
3. WG が TC/SC/TA と同時開催の場合は、WG 会議内容は TC/SC 報告に含めて報告書を提出して下さい。
4. 報告書の追加、訂正が生じた場合は、運営委員会開催後1週間以内に事務局に提出して下さい。
5. この報告書は、手続き完了後、JEITA ホームページ「国際標準化対応支援委員会」に掲載し、会員企業への報告に替えます。

国際標準化対応支援委員会事務局：(社)電子情報技術産業協会　知的基盤部標準・安全グループ
〒101-0062 東京都千代田区神田駿河台 3-11（三井住友海上別館ビル）　Tel：03-3518-6435　Fax：03-3295-8727

(TSC-06 様式 2007.7)

様式 4

（社）電子情報技術産業協会　　運営委員会・資料番号：5-3／SC62D-②（事務局記入）
国際標準化対応支援委員会　御中

提出日：2008 年 11 月 26 日

（報告者記載）予算番号：H20SC62D③

国際会議出席報告書

国際会議担当委員名：内藤正章　報告書作成者氏名：市川義人　（会社名）オリンパスメディカルシステムズ（株）

出席会議名（半角）	区分	組織番号（TC/SC/TA）	SC62D（半角）
SC62D/MT16	☐TC ☐SC ☐TA ☒WG ☐PT ☐その他		
	☐TC ☐SC ☐TA ☐WG ☐PT ☐その他	名称（日本語）	医用電子機器
	☐TC ☐SC ☐TA ☐WG ☐PT ☐その他		
	☐TC ☐SC ☐TA ☐WG ☐PT ☐その他	☒単独開催 ☐同時開催	
開催期日	2008 年 11 月 18 日 ～ 2008 年 11 月 21 日		
開催場所	（国名）独	（都市名）シュトットガルト	
ﾁｪｱﾏﾝ／ｺﾝﾍﾞﾅ	Matthias.Marzinko	幹事国　独	
参加国及び参加人数	3ヶ国、主な国名 独、米、日、参加人数（6）		
日本人出席者名（会社名）	[○：補助対象者･･･（例）：○ 電子太郎(JEITA 電子)] ○市川義人（オリンパスメディカルシステムズ）		

議事概要（背景･目的･成果･問題点など）（この欄は、見かけは1行ですが、所定欄に改行しながら最大28行まで記入できます。）

1．目的：IEC 60601-1 第3版 2005 の改定にあわせ、IEC 60601-2-18 第3版の改定を早急に行う。今回は各国 CDV に対するコメントの審議を行う。

2．成果：

全３５項目の各国指摘事項（内日本意見は 11 個）の審議及び当日日本から指摘した装着部の温度試験の環境条件に関して審議した。日本コメント 11 個のうち 10 個が了承された。以下主要な結果

- DEKRA から業務プレゼンテーションがあった。（宣伝の一環）
- DEKRA の試験センターの紹介（実際に試験設備を紹介）
- 日本コメントでインターコネクションコンディション（内視鏡と共に私用する他の機器、アクセサリーの関係）が不明確であることの方向付けとして、附属書に図があるか解りにくいため、具体的な例を挙げて（考え方のフローチャート）インターコネクションコンディションであるか無いかの説明を入れる事にした。（実際にチャートを作成した）
- アディッショナルエッセンシャルパフォーマンスは製造業者が決めるべき、個別規格で決める必要は無いとの日本の意見に対し、何も規定が無いと何を要求されるかわからないので、記載は残すが、表現の変更と、附属書への解説を追加した。安全通則の基本性能が曖昧なため、現状では曖昧さを無くすことができない状況である。
- アラームシステムに対して 2-18 で制限を加えるべきとの日本の要求、親規格で適用可能であればとの制限がある。内視鏡にはインフォメーションシグナルしかない、アラームは無いのでアネックスに内視鏡にはアラームは無いためアラームシステムを適用する必要が無い。注記でインフォメーションシグナルには適用しなくい。といった記載を入れた。
- 次の IEC プレナリーは 2009 年 6 月 8 日から 19 日、6 月 11,12 日、15 日予備日で MT16 実施予定。（日本より経費節減のため渡航回数を減らすために、総会とあわせて個別会議を開催する事を依頼した結果。
- IEC 60601-2-18 第3版 CDV の投票結果で P メンバー（主要国）の賛成が 100%であったため、FDIS は不要となり、IS として３月に発行される事となった。

3．その他問題点　現コンビーナーがシュトルツからドレーガーメディカルに異動になり、今後コンビーナーを辞任する事となった。次期コンビーナーを来年６月の SC６２A 総会で提案する予定であるが、現状候補者がいない。

[注]：1. 該当者は、出席会議終了後［6週間以内］に国際会議担当委員経由で、国際標準化対応支援委員会事務局宛ご提出下さい。
国際会議出席報告書の審議・承認の後に補助金を支払う。
会議終了後速やかに提出し、直近の運営委員会にて審議・承認を受けることが望ましい。
2. 本報告書は、同一会議に2名以上出席の場合、代表者が提出してください。
3. WG が TC/SC/TA と同時開催の場合は、WG 会議内容は TC/SC 報告に含めて報告書を提出して下さい。
4. 報告書の追加、訂正が生じた場合は、運営委員会開催後1週間以内に事務局に提出して下さい。
5. この報告書は、手続き完了後、JEITA ホームページ「国際標準化対応支援委員会」に掲載し、会員企業への報告に替えます。

国際標準化対応支援委員会事務局：(社)電子情報技術産業協会　知的基盤部標準･安全グループ
〒101-0065 東京都千代田区西神田 3-2-1（千代田ファーストビル南館）　Tel：03-5275-7259　Fax：03-5212-8122

様式 4

（社）電子情報技術産業協会　　運営委員会・資料番号：5-3／TC80-①（事務局記入）
国際標準化対応支援委員会　御中

提出日：2008 年 11 月 7 日

（報告者記載）整理番号：H20TC80⑩

国際会議出席報告書

国際会議担当委員名：矢内　崇雅　報告書作成者氏名：　矢内　崇雅　（会社名）沖電気工業（株）

出席会議名（半角）	区　分	組織番号 (TC/SC/TA)	TC80（半角）
WG8A	☐TC ☐SC ☐TA ☒WG ☐PT ☐その他		
	☐TC ☐SC ☐TA ☐WG ☐PT ☐その他	名　称（日本語）	船舶搭載用 AIS
	☐TC ☐SC ☐TA ☐WG ☐PT ☐その他		
	☐TC ☐SC ☐TA ☐WG ☐PT ☐その他	☒単独開催 ☐同時開催	
開催期日	2008 年 10 月 20 日 ～ 2008 年 10 月 24 日		
開催場所	（国名）ドイツ	（都市名）コブレンツ	
ﾁｪｱﾏﾝ／ｺﾝﾍﾞﾅ	Alan Stewat	幹事国 UK	
参加国及び参加人数	6ヶ国、主な国名 日本、米国、UK、ﾄﾞｲﾂ、ｽｳｪｰﾃﾞﾝ、ﾉｰﾙｳｪｰ、、参加人数（12）		
日本人出席者名（会社名）	[○：補助対象者・・・（例）：○ 電子太郎(JEITA 電子)] ○矢内 崇雅（沖電気工業）、○古山 賢二（日本無線）		

議事概要（背景・目的・成果・問題点など）（この欄は、見かけは1行ですが、所定欄に改行しながら最大28行まで記入できます。）

1　背景：海上交通における航行安全、船舶識別及びセキュリティの有効手段として、AIS の普及促進と性能向上が IMO にて推進されている。この考えに沿って策定された IMO　PS をベースに IEC では船舶搭載、陸上設置及び救難捜索向け等の各種 AIS 規格を開発をしている。

2　目的：IMO 条約にて規定された船舶への搭載が義務付けられている AIS　Class-A　Ed.2 の CDV 案の開発、2010 年 1 月 1 日から搭載が施行される AIS-SART 装置の CDV 案の開発をを行う。又、今後の各種の AIS 装置に関する IEC 規格開発を行うためのスケジュールの確定も実施する。

3　成果：（1）本コブレンツ会議以降の会議日程と主要検討課題に関する関する議論の結果、①次回会議：2008 年 12 月 8 日～9 日　米国　アーリントン（確定）、②次々回会議：2009 年 2 月 2 日～6 日　米国　サラソータ（確定）、③次次々回会議：2009 年 5 月 3 日～8 日　米国　フロリダ（確定）にて開催することで合意が得られた。

（2）検討項目の優先順位は、①IEC61097-14　Ed.1　AIS-SART の CDV 案の作成：2008 年末まで、②IEC61993-2　Ed.2 CDV 案の作成：2009 年 3 月末まで、③IEC62320-3　Ed.1　AIS　Repeater　Station2009 年 5 月の会議以降にに本格的に作業を開始する。

（3）次回の TC80 総会への NP として IEC 規格開発を提案する項目として、①IEC62287-2　Ed.1　AIS　Class-B"SO"（80/519/RVN にて却下された案件）、②Inland　AIS　Station：内陸河川適用の AIS 装置　の 2 点について確認がなされた。

（4）IEC62320-1　A1　Ed.1 の投票結果を確認。TC80　WG6 にて検討されている PI センテンスに関する PAS103 との整合については IEC62320-1　Ed.2 のメンテナンスサイクルにて検討することにした。

（5）IEC61097-14　Ed.1　AIS-SART の USCG からのコメントである基準送信電力を 2W にする件は IMO 要求の距離性能を満足し、Trial 試験で高度 2500ft からの検出が十分であるとして、従来どおりの 1W で結論づけた。

（6）IEC61993-2　Ed.2 の開発は、①検討が先送りされていた無線関係のテスト要件の検討が終了、②前回のエディンバラ会議にて未検討であった係留指定と通報率との関係及び AIS 専用表示機での表示項目に関して、一応の結論を出した。これにより提案されたコメントへの結論出しは終了した。2009 年 2 月の会議にて今回の結論項目も含めて、全体レビューを行い CDV 案の完成を行うことで WG メンバーでの意見確認がなされた。

4　次回の会議予定：2008 年 12 月 8 日～9 日　米国　アーリントン
　審議項目：AIS-SART　CD コメントに対する検討と CDV 案の作成

[注]：1. 該当者は、出席会議終了後［6週間以内］に国際会議担当委員経由で、国際標準化対応支援委員会事務局宛ご提出下さい。
国際会議出席報告書の審議・承認の後に補助金を支払う。
会議終了後速やかに提出し、直近の運営委員会にて審議・承認を受けることが望ましい。
2. 本報告書は、同一会議に2名以上出席の場合、代表者が提出してください。
3. WG が TC/SC/TA と同時開催の場合は、WG 会議内容は TC/SC 報告に含めて報告書を提出して下さい。
4. 報告書の追加、訂正が生じた場合は、運営委員会開催後1週間以内に事務局に提出して下さい。
5. この報告書は、手続き完了後、JEITA ホームページ「国際標準化対応支援委員会」に掲載し、会員企業への報告に替えます。

様式 4

（社）電子情報技術産業協会　　運営委員会・資料番号：5-3／TC80-②（事務局記入）
国際標準化対応支援委員会　御中

提出日：2008 年 11 月 4 日

（報告者記載）整理番号：H20TC80④

国際会議出席報告書

国際会議担当委員名：矢内　崇雅　報告書作成者氏名：　田北　順二　（会社名）日本無線（株）

出席会議名（半角）	区　分	組織番号 (TC/SC/TA)	TC80（半角）
WG6	☐TC ☐SC ☐TA ☒WG ☐PT ☐その他		
	☐TC ☐SC ☐TA ☐WG ☐PT ☐その他	名　称（日本語）	デジタルインタフェース
	☐TC ☐SC ☐TA ☐WG ☐PT ☐その他		
	☐TC ☐SC ☐TA ☐WG ☐PT ☐その他	☒単独開催　☐同時開催	

開催期日	2008 年 10 月 21 日 ～ 2008 年 10 月 24 日	
開催場所	（国名）ドイツ	（都市名）ボン
ﾁｪｱﾏﾝ／ｺﾝﾍﾞﾅ	Mr S. Steier	幹事国　スウェーデン
参加国及び参加人数	9ヶ国、主な国名 英国、米国、ロシア、ドイツ、スウェーデン、ノルウェー、フィンランド、韓国、日本等、参加人数（11）	
日本人出席者名（会社名）	［○：補助対象者…（例）：○ 電子太郎(JEITA 電子)］ 田北 順二（日本無線）	

議事概要（背景･目的･成果･問題点など）（この欄は、見かけは1行ですが、所定欄に改行しながら最大28行まで記入できます。）

1．背景 ： 船舶搭載機器のデジタルインタフェースに関する規格作成委員会である。

2．目的

IEC 61162-1 用の新センテンスの審議、IEC 61162-3 及びイーサーネットを使用した軽量インタフェースの検討、及び IMO（国際海事機関）で採択された INS 性能基準や審議中のアラート・マネージメント性能基準のためのインタフェースの審議を行う。

3．成果

1)IEC 61162-1

①NAVTEX 用センテンス中の Note の誤記については、修正内容を盛り込んだ文書を発行することになった。

②AIS 基地局、AtoN 用のセンテンス PAS103 の取り扱いについては、WG6 と TC80 Secretary で対応を検討することになった。

③WG4A で審議中のガリレオ受信機用のセンテンスについては、引き続き、WG4A と協議を継続することになった。

2) IEC 61162-3(NMEA2000)　（5 月に発行済）

①NMEA 2000 グループがアラート・マネージメント用の追加 PGN(Parameter Group Number)を検討しているとの報告があった。

②NMEA 2000 が改訂された場合の IEC 61162-3 の改訂方法を検討することになった。

3) 軽量イーサーネット(LWE)

①9 月の LWE 会議で作成した最新ドラフトについて、見直しを行った。

②規格シリーズ化の提案があり、次回の WG6 会議で審議することになった。

4) アラートマネージメント

レイセオンメンバー提案のアラートマネージメント処理の概念と IEC 61162-1 センテンス案を審議した。WG6 メンバーは、次回の会議までにコメントを出すことになった。

5) IMO コレスポンデンスグループとの合同会議

同じ場所で会議を開催していた IMO IBS コレスポンデンスグループと合同会議を開催し、意見交換を行い、今後の IMO 性能基準に必要なインタフェース規格について情報交換等の協力することで合意した。

［注］：1. 該当者は、出席会議終了後［6週間以内］に国際会議担当委員経由で、国際標準化対応支援委員会事務局宛ご提出下さい。
国際会議出席報告書の審議・承認の後に補助金を支払う。
会議終了後速やかに提出し、直近の運営委員会にて審議・承認を受けることが望ましい。
2. 本報告書は、同一会議に2名以上出席の場合、代表者が提出してください。
3. WG が TC/SC/TA と同時開催の場合は、WG 会議内容は TC/SC 報告に含めて報告書を提出して下さい。
4. 報告書の追加、訂正が生じた場合は、運営委員会開催後1週間以内に事務局に提出して下さい。
5. この報告書は、手続き完了後、JEITA ホームページ「国際標準化対応支援委員会」に掲載し、会員企業への報告に替えます。

様式 4

（社）電子情報技術産業協会　　運営委員会・資料番号：5-3／TC80-③（事務局記入）
国際標準化対応支援委員会　御中

提出日：2008 年 11 月 16 日

（報告者記載）整理番号：H20TC80②

国際会議出席報告書

国際会議担当委員名：矢内崇雅　報告書作成者氏名：田北 順二　（会社名）日本無線（株）

出席会議名（半角）	区分	組織番号 (TC/SC/TA)	TC80（半角）
WG4A	☐TC ☐SC ☐TA ☒WG ☐PT ☐その他		
	☐TC ☐SC ☐TA ☐WG ☐PT ☐その他	名称（日本語）	GNSS(全地球的航法システム)
	☐TC ☐SC ☐TA ☐WG ☐PT ☐その他		
	☐TC ☐SC ☐TA ☐WG ☐PT ☐その他	☒単独開催 ☐同時開催	

開催期日	2008 年 11 月 13 日 ～ 2008 年 11 月 14 日	
開催場所	（国名）英国	（都市名）ロンドン
ﾁｪｱﾏﾝ／ｺﾝﾍﾞﾅ	John Klepsvik	幹事国 英国
参加国及び参加人数	5ヶ国、主な国名 日本、ドイツ、ノールウェー、米国、英国、参加人数（6）	
日本人出席者名（会社名）	[○：補助対象者・・・（例）：○ 電子太郎(JEITA 電子)] ○矢内 崇雅（沖電気工業）、○田北 順二（日本無線）	

議事概要（背景・目的・成果・問題点など）（この欄は、見かけは1行ですが、所定欄に改行しながら最大28行まで記入できます。）

1．背景：　世界の GNSS(Global Navigation Satellite System)として Galileo システムの運用開始が 2013 年とアナウンスされ、Galileo 衛星の性能基準が IMO（国際海事機関）にて決議、採択されたことを受けて、Galileo 対応の船用受信装置の IEC 規格開発を行うことになった。

2．目的：　2007 年 11 月 30 日付けにて回章された 80/508/CD への関係機関/団体、及び委員からのコメント対策及びシミュレータメーカと検定機関を交えたテスト要件・手順についての 4 月の前回会合の結果を受けて、2009 年 3 月の CDV 回章を実現するための審議を行う。

3．成果：

1) 欧州のガリレオプロジェクトの状況
比較的順調に進捗しており、2010 年の 4 個の衛星による性能評価、2013 年からの実用化の計画に変更はないであろうとの報告があった。

2) ガリレオ関係規格の審議組織説明
ガリレオの海事関係の規格の制定組織の説明があり、IMO, ITU, IEC, IALA, RTCM 等の規格制定組織毎に対応がなされており、8 か国から 20 の組織がガリレオ規格化に参画しているとの説明があった。

3) 規格制定計画
TC80 Secretary の Kim Fisher より、IEC 61108-3 の開発の促進の要請があり、Convenor より当初計画どおり、2010 年の IS を目指すとの説明があった。

4) IEC 61108-3 CD の内容審議：①主に外部機器とのインタフェースについて審議し、IEC 61108-3 のために新規に制定する IEC 61162-1 センテンス及び現在あるセンテンスに一部変更を加えてそのまま流用するセンテンスの内容を審議し、センテンスの内容が確定した。この内容を IEC 61162-1 審議をする WG6 に送り、検討を要請することになった。また、IEC 61162-3 のインタフェースの PGN の内容についても案を作成した。
②IEC 61108-3 の Annex A-C の３つの Informative Annex の内容の見直しを行い、誤記等を修正した。
③IEC 61108-3 の前回 4 月の会合で作成したドラフト Ver.2_3 の本文の規格の見直しを行い、Vdr2_4 を作成した。この内容を WG4A メンバーに回章し、コメントを求めることになった。

3．次回の会合予定：　2 月 3, 4 日に WG4A 会合を英国・ロンドンで開催することになった。初日の 2 月 3 日は、WG6 との合同会合とすることになった。

[注]：1. 該当者は、出席会議終了後［6週間以内］に国際会議担当委員経由で、国際標準化対応支援委員会事務局宛ご提出下さい。
国際会議出席報告書の審議・承認の後に補助金を支払う。
会議終了後速やかに提出し、直近の運営委員会にて審議・承認を受けることが望ましい。
2. 本報告書は、同一会議に2名以上出席の場合、代表者が提出してください。
3. WG が TC/SC/TA と同時開催の場合は、WG 会議内容は TC/SC 報告に含めて報告書を提出して下さい。
4. 報告書の追加、訂正が生じた場合は、運営委員会開催後1週間以内に事務局に提出して下さい。
5. この報告書は、手続き完了後、JEITA ホームページ「国際標準化対応支援委員会」に掲載し、会員企業への報告に替えます。

様式 4

（社）電子情報技術産業協会　　運営委員会・資料番号：5-3／TC80-④（事務局記入）
国際標準化対応支援委員会　御中

提出日：2008 年 12 月 15 日

（報告者記載）整理番号：H20TC80⑦

国際会議出席報告書

国際会議担当委員名：矢内崇雅　報告書作成者氏名：矢内崇雅　（会社名）沖電気工業（株）

出席会議名（半角）	区　分	組織番号 (TC/SC/TA)	TC80（半角）
WG8B	☐TC ☐SC ☐TA ☒WG ☐PT ☐その他		
	☐TC ☐SC ☐TA ☐WG ☐PT ☐その他	名　称（日本語）	船舶搭載用 AIS-SART
	☐TC ☐SC ☐TA ☐WG ☐PT ☐その他		
	☐TC ☐SC ☐TA ☐WG ☐PT ☐その他	☒単独開催 ☐同時開催	
開催期日	2008 年 12 月 8 日 ～ 2008 年 12 月 9 日		
開催場所	（国名）米国	（都市名）アーリントン	
ﾁｪｱﾏﾝ／ｺﾝﾍﾞﾅ	Peggy Browine	幹事国　英国	
参加国及び参加人数	4ヶ国、主な国名 日本、UK、ドイツ、米国、、参加人数（6）		
日本人出席者名（会社名）	[○：補助対象者・・・（例）：○ 電子太郎(JEITA 電子)] ○矢内 崇雅（沖電気工業）、○古山 賢二（日本無線）		

議事概要（背景・目的・成果・問題点など）（この欄は、見かけは1行ですが、所定欄に改行しながら最大28行まで記入できます。）

1　背景：海上交通における航行安全、船舶識別及びセキュリティの有効手段として、AIS の普及促進と性能向上が IMO にて推進されている。この考えに沿って IMO は捜索救難への AIS の適用を検討し、PS を策定。2010 年 1 月 1 日以降の新造船への搭載を義務付けていることから IEC ではこのスケジュールに沿って AIS-SART 装置の規格開発を推進する。

2　目的：。2008 年 7 月 18 日に回章された IEC61097-14　Ed.1　AIS-SART の CD へのコメントが 10 月 24 日に締め切りがが実施されたことを受けて、80/552/CC にてコメントへの回答が示された。現行の CD とコメントとの整合を図り、当初予定の 2009 年 1 月の CDV 回章に向けた作業を行う。

3　成果：（1）前回のドイツ　コブレンツ会議にて非公式に寄せられたコメントへの対応と内容の検討が進んだこと、技術的な課題が CDV 回章に当たってほぼ解決を見ているとの理解から、今回の会議は限定したエキスパートにてコメント CDV 案を作成するとして、会議開催案内がなされて推進された。

（2）2008 年 10 月のコブレンツ会議にて作成された Navigation　Status 情報に関する Liaison　Statement は COMSAR13 への ITU からの入力文書の内容と異なることから、CDV 案での扱いをどのような方向にするかのコメントを WG 委員に求めることにした。

（3）米国が希望している現行の SART システムである EPIRB との機能・テスト要件の整合性については、その目的が異なるとして、今回の Ed.1 では無理に整合性を取ることはしないとした。

（4）米国がコメントしている捜索救難用航空機による検出要件に対する CDV 案での記述は IMO での最終の要求仕様には記載されていないことから、参考として実験結果から得られた数値をベースに記述することし、その他のエディトリアルな修正部分に関しても WG メンバーへの確認項目とした。

（5）回章された 80/552/CC への WG としてのコメント追記と、回章された CD への修正とエディトリアル的なアップグレード行った CDV 案を追記したコメント文書と一緒に WG 各委員にメール回章を行い、確認コメントを待って TC80 事務局への DV 回章の依頼を原則、2009 年 1 月初旬にすることにしたが、コメントの内容によっては 2009 年 2 月の Sarasota 会議後に延期をも選択肢とすることにした。

4　次回の AIS-SART に関する会議予定：2009 年 7 月頃の CDV　Resolution 会議を予定。場所はスウェーデン、ノルウェー及びシンガポールとして、時期及び場所については今後に精緻化を図る。但し、コメントの内容によっては 2009 年 2 月の Sarasota 会議にて検討を行う。

[注]：1. 該当者は、出席会議終了後［6週間以内］に国際会議担当委員経由で、国際標準化対応支援委員会事務局宛ご提出下さい。
国際会議出席報告書の審議・承認の後に補助金を支払う。
会議終了後速やかに提出し、直近の運営委員会にて審議・承認を受けることが望ましい。
2. 本報告書は、同一会議に2名以上出席の場合、代表者が提出してください。
3. WG が TC/SC/TA と同時開催の場合は、WG 会議内容は TC/SC 報告に含めて報告書を提出して下さい。
4. 報告書の追加、訂正が生じた場合は、運営委員会開催後1週間以内に事務局に提出して下さい。
5. この報告書は、手続き完了後、JEITA ホームページ「国際標準化対応支援委員会」に掲載し、会員企業への報告に替えます。

国際標準化対応支援委員会事務局：(社)電子情報技術産業協会　知的基盤部標準・安全グループ

様式 4

（社）電子情報技術産業協会　　運営委員会・資料番号：5-3／TC91-①（事務局記入）
国際標準化対応支援委員会　御中

提出日：2008 年 10 月 28 日

（報告者記載）予算番号：H20TC91②

国際会議出席報告書

国際会議担当委員名：荒金　秀幸　　報告書作成者氏名：　土生　正　（会社名）株式会社村田製作所

出席会議名（半角）	区　分	組織番号 (TC/SC/TA)	TC91（半角）
TC91/WG1	☐TC ☐SC ☐TA ☒WG ☐PT ☐その他		
	☐TC ☐SC ☐TA ☐WG ☐PT ☐その他	名　称 (日本語)	電子実装技術
	☐TC ☐SC ☐TA ☐WG ☐PT ☐その他		
	☐TC ☐SC ☐TA ☐WG ☐PT ☐その他	☐単独開催 ☒同時開催	
開催期日	2008 年 10 月 15 日 ～ 2008 年 10 月 15 日		
開催場所	（国名）米国	（都市名）サンノゼ	
ﾁｪｱﾏﾝ／ｺﾝﾍﾞﾅ	W. Huck （ドイツ）	幹事国　日本	
参加国及び参加人数	3ヶ国、主な国名 日本、ドイツ、フィンランド、参加人数（8）		
日本人出席者名（会社名）	[○：補助対象者･･･（例）：○ 電子太郎(JEITA 電子)] ○土生正、山本克己（テクノオフィスヤマモト）、荒金秀幸（ソニー）、大島寛（ニチコン）、前嶋和彦（TC91 国際幹事）		

議事概要（背景･目的･成果･問題点など）（この欄は、見かけは1行ですが、所定欄に改行しながら最大28 行まで記入できます。）

1. 背景・目的

IEC 61760-3 (スルーホールリフロー部品の要求事項)の CD に対する各国コメントへの対応審議、及び今後の WG1 のプロジェクトとして特に MSL の分類と包装に関するプロジェクトの方向付けを審議する。

2. 審議結果

1) WG1 メンバーリストの確認：近藤氏，潮氏などの登録抹消手続きをする。
2) IEC 62090（バーコード）：改定が必要か否か、DC 文書を発行して意見を問うこととした。
3) IEC 61760-3：各国コメントを審議。日本コメントは全て受け入れられ、他のコメントに対する見解も問題のない内容で合意され、ドイツが CDV ドラフトを今年中に準備することで合意した。
4) IEC 62468（表示）：プロジェクトチームでの合意事項が WG1 で承認され、アッセンブル基板に使用するはんだ材料の表示については、WG2 に審議を移すことを依頼し、WG1 のプロジェクトとしては終了することとした。
また，SC3C からの 3C/1587/DC で IEC 60617 への追加に対する賛否問い合わせについて，TC91 として，"鉛フリー表示"の追加には反対を表明するよう Plenary に勧告する。
5) リペアプロセスを考慮した部品への要求事項：規格開発に対する具体的な要求がないことから、このテーマは進めないことで合意した。
6) RFID に関する技術レポート：ドイツからの具体的な情報提供がなく、引き続きサプライチェーンでの動向を見守ることとした。
7) MSL の分類と包装：Moisture sensitivity classification, labelling and packaging of electronic components という仮タイトルで、リーダを Huck 氏でプロジェクトを進めることに合意し、日本、アジア市場における実態の調査を土生が行うことで合意した。
8) SC47F の MEMS の標準化について：現在進行中の規格に対しては特に WG1 からコメントを提出する案件がないことを確認した。
9) SBP の item E の WG1 について審議し、合意した。
10)次回の会議は 2009 年 10 月の Plenary meeting に合わせて開催することとした。

[注]：1. 該当者は、出席会議終了後［6週間以内］に国際会議担当委員経由で、国際標準化対応支援委員会事務局宛ご提出下さい。
国際会議出席報告書の審議・承認の後に補助金を支払う。
会議終了後速やかに提出し、直近の運営委員会にて審議・承認を受けることが望ましい。
2. 本報告書は、同一会議に2名以上出席の場合、代表者が提出してください。
3. WG が TC/SC/TA と同時開催の場合は、WG 会議内容は TC/SC 報告に含めて報告書を提出して下さい。
4. 報告書の追加、訂正が生じた場合は、運営委員会開催後1週間以内に事務局に提出して下さい。
5. この報告書は、手続き完了後、JEITA ホームページ「国際標準化対応支援委員会」に掲載し、会員企業への報告に替えます。

国際標準化対応支援委員会事務局：(社)電子情報技術産業協会　知的基盤部標準･安全グループ

様式 4

（社）電子情報技術産業協会　　運営委員会・資料番号：5-3／TC91-②（事務局記入）
国際標準化対応支援委員会　御中

提出日：2008 年 10 月 20 日

（報告者記載）予算番号：H20TC91②

国際会議出席報告書

国際会議担当委員名：荒金　秀幸　　報告書作成者氏名：　梅垣　淳一　（会社名）日本電気株式会社

出席会議名（半角）	区　分	組織番号（TC/SC/TA）	TC91（半角）
TC91/WG2	□TC □SC □TA ☒WG □PT □その他		
	□TC □SC □TA □WG □PT □その他	名　称（日本語）	電子実装技術
	□TC □SC □TA □WG □PT □その他		
	□TC □SC □TA □WG □PT □その他	□単独開催 ☒同時開催	
開催期日	2008 年 10 月 16 日 ～ 2008 年 10 月 16 日		
開催場所	（国名）合衆国	（都市名）サンノゼ	
ﾁｪｱﾏﾝ／ｺﾝﾍﾞﾅ	D. Bergman （米国）	幹事国　日本	
参加国及び参加人数	4ヶ国、主な国名 日本、米国、ドイツ、韓国、参加人数（16）		
日本人出席者名（会社名）	[○：補助対象者・・・（例）：○ 電子太郎(JEITA 電子)] 多田邦雄（金沢工業大学）、山本克己（テクノオフィスヤマモト）、荒金秀幸（ソニー）、○梅垣淳一（NEC）、○山本敬一（富士通）、于強（横浜国立大学）、鶴田加一（溶接協会）、前嶋和彦（TC91 国際幹事）、高木寛治（オムロン）		

議事概要（背景・目的・成果・問題点など）（この欄は、見かけは1行ですが、所定欄に改行しながら最大28行まで記入できます。）

日本提案のボイド評価基準は CDV（承認済み）のコメント審議を終了し FDIS 段階へ進むこととなった。韓国提案の DC 文書（91/800/DC）は賛成されなかったが、「はんだ材料への特許権対象表示」自体は削除する案で文書審議をすすめることになった。また、WG1 で進めていた実装基板への表示が WG2 に移管された。

1）Pj#61190-1-4 ：導電性接着剤材料

・導電性接着材料の選択と評価について、ドイツをはじめ各国から積極的な提案なく、その場で NP 案の目次等を作成したが、各国に参加と提案を呼びかける。

2）ボイドの評価基準

・CDV 文書（91/766/CDV）の各国コメントを審議し、オブザベーションが確定した。審議結果に基づき FDIS 案を作成しメンバーに確認後回覧する。実質審議を終了し FDIS ステージに進む。

・ラウンドロビンテストは、独、英など 5 カ国が参加して実施中で、ドイツ、日本から一部試験結果の報告があった。

3）IEC-61191s and 61192s のメンテナンス

・「はんだ付け品質基準（61191s と 61192s）の改訂」は当面-1、-2 からはじめることとし、改訂内容提案とリーダ引受けを各国に求めていく。主な改訂点は、鉛フリー対応と引用文書 update。日本も改訂作業を分担する方向で検討中。

4）Pj#61190-1-3：鉛フリーはんだ材料の改訂と韓国提案

・日本提案のフロー実装用低銀鉛フリーはんだの追加提案は現在 CD 文書回覧中。

・「はんだ材料への特許権対象表示」について、IEC の Directive では特許の有効性や適用範囲を特定しない原則があることから、「特許の存在と所有者を明記すれば十分」との提案があり、今後の原案に反映し確認することとなった。

5）有害物質の含有／非含有表示

・WG1 コンビナのフック氏から PT 62468 の状況と「基板への表示」部分の WG2 への移管について説明があった。

6）次回会議

・2009 年 5 月 22 日（金）グルノーブルの見込み。2009 年 10 月：ベルリン。（10/5 の週で調整中）

[注]：1. 該当者は、出席会議終了後 [6週間以内] に国際会議担当委員経由で、国際標準化対応支援委員会事務局宛ご提出下さい。
国際会議出席報告書の審議・承認の後に補助金を支払う。
会議終了後速やかに提出し、直近の運営委員会にて審議・承認を受けることが望ましい。
2. 本報告書は、同一会議に2名以上出席の場合、代表者が提出してください。
3. WG が TC/SC/TA と同時開催の場合は、WG 会議内容は TC/SC 報告に含めて報告書を提出して下さい。
4. 報告書の追加、訂正が生じた場合は、運営委員会開催後1週間以内に事務局に提出して下さい。
5. この報告書は、手続き完了後、JEITA ホームページ「国際標準化対応支援委員会」に掲載し、会員企業への報告に替えます。

国際標準化対応支援委員会事務局：(社)電子情報技術産業協会　知的基盤部標準・安全グループ
〒101-0065 東京都千代田区西神田 3-2-1（千代田ファーストビル南館）　Tel：03-5275-7259　Fax：03-5212-8122

様式 4

（社）電子情報技術産業協会　　運営委員会・資料番号：5-3／TC91-③（事務局記入）
国際標準化対応支援委員会　御中　　提出日：2008 年 10 月 31 日

（報告者記載）予算番号：H20TC91②

国際会議出席報告書

TC/SC/TA 担当委員名：荒金　秀幸　報告書作成者氏名：　春日　壽夫　（会社名）NEC ｴﾚｸﾄﾛﾆｸｽ(株)

会議名（半角）	区分	組織番号 (TC/SC/TA)	TC91
TC91/WG3	☐TC ☐SC ☐TA ☒WG ☐PT ☐その他		
TC91	☒TC ☐SC ☐TA ☐WG ☐PT ☐その他	名称（日本語）	電子実装技術
	☐TC ☐SC ☐TA ☐WG ☐PT ☐その他		
	☐TC ☐SC ☐TA ☐WG ☐PT ☐その他	☐単独開催 ☒同時開催	
開催期日	2008 年 10 月 13 日 ～ 2008 年 10 月 15 日		
開催場所	（国名）米国	（都市名）サンノゼ	
ﾁｪｱﾏﾝ／ｺﾝﾍﾞﾅ	春日 壽夫	TC91 幹事国　日本	
参加国	6 ヶ国、主な国名 日本、ドイツ、英国、フィンランド、ブラジル、韓国　(22 名)		
日本出席者	○気賀(ソニー)、○坂本(オムロン)、大島(ニチコン)、荒金(ソニー)、多田(金沢工大) 萩尾(ニホンゲンマ)、山本(克)(ﾃｸﾉｵﾌｨｽﾔﾏﾓﾄ)、梅垣(NEC)、前嶋(ソニー：TC91 国際幹事)、山本(敬)(富士通)、 土生(村田)、柴田(JPCA) 、○春日(NEC ｴﾚｸﾄﾛﾆｸｽ：WG3 国際ｺﾝﾋﾞﾅ)、 高木(オムロン)、宮川(JEITA)		

議事概要（背景･目的･成果･問題点など）

1．目的：電子実装技術にかかわる実装後の試験方法につき審議している。

2．成果： TC91WG3（電子実装技術/試験方法）国際会議(10/13 事前会議、10/14～15 WG3 会議)

●鉛フリーはんだに関する標準化提案

[IS 1 件：日本担当、審議 8 件中：日本担当 6 件＋1 件共同リーダ、新規提案 3 件中：日本 2 件]

①Pj# IEC 60068-2-20(リーダ:ドイツ、共同リーダ/日本：大島)：リード付きデバイスのはんだ付け性とはんだ耐熱性試験（IS 発行完 2008-07-21）[PPUB]

②Pj# IEC60068-2-44 改正(リーダ：ドイツ)：はんだ付け試験のガイダンス [PWI]

・ガイダンスである IEC 60068-3 シリーズとすることで WD を 11 月、CD を 2 月に準備予定。

③Pj# IEC60068-2-58(Solderability:はんだ耐熱性試験（リーダ：大島)

・91/732/DC(2007-09-28 回覧)の各国コメントが審議され、WD 文書を 2 月に作成予定。

④Pj#IEC60068-2-83（リーダ：大島)：SMD のはんだ付け性試験/ソルダペーストを用いる平衡法(91/682/CD)　[1CD]
91/682/CD 文書のコメントに基づき 2 CD として再審議することになった。

⑤Pj# IEC62137-1part3(Cyclic drop test:落下試験)(リーダ：気賀): [CDIS]

・91/708/CDV から 91/802/FDIS が回覧されている（投票期限：2008-10-31）

⑥Pj# IEC62137-1part4(Cyclic bending test:繰り返し曲げ試験（リーダ：気賀)：[CDIS]

・91/746/CDV から 91/815/FDIS が回覧されている（投票期限：2008-10-31）

⑦Pj# IEC62137-1part5(Mechanical shear fatigue test せん断疲労試験)（リーダ：苅谷)： [ADIS]

・91/743/CDV に関する 91/778/RVC に基づき、FDIS を送付することになった(2007-10-21)

⑧Pj#　IEC62137-3(IEC62137 部品接合強度試験方法のガイダンスドキュメント)（リーダ：山本）

・91/748/PAS が発行され 91/821/RVD(2008-10-03)により、PAS が承認

・91/785/NP が同時発行され投票期限 2008-10-31

⑨Pj# IEC611989-11(はんだ合金の融点測定方法)（リーダ:萩尾）[PNW]

・91/823/NP が回覧されており、投票期限 2009-01-16

⑩ウィスカ発生における外部機械的応力（リーダ：坂本、ドイツ）[PWI]

⑪電気化学マイグレーション（リーダ：ドイツ）[PWI]

3．次回会議

②2009 年 5 月の 18 日の週、フランス／グルノーブル(JIC、TC47WG2 と同時開催)

様式 4

（社）電子情報技術産業協会　　運営委員会・資料番号：5-3／TC91-④（事務局記入
IEC 活動推進委員会　御中

提出日：2008 年 10 月 23 日

（報告者記載）整理番号：H20TC91②

国際会議出席報告書

TC/SC/TA 担当委員名：荒金　秀幸　報告書作成者氏名：山内　秀雄　（会社名）ソニーEMCS（株）

出席会議名（半角）	区　分	組織番号 (TC/SC/TA)	TC91（半角）
TC91/WG12 TC91/TC93/JWG11	☐TC ☐SC ☐TA ☒WG ☐PT ☐その他		
	☐TC ☐SC ☐TA ☒WG ☐PT ☐その他	名　称 (日本語)	電子実装技術/プリント基板設計
	☐TC ☐SC ☐TA ☐WG ☐PT ☐その他		
	☐TC ☐SC ☐TA ☐WG ☐PT ☐その他	☐単独開催 ☒同時開催	
開　催　期　日	2008 年 10 月 13 日 ～ 2008 年 10 月 14 日		
開　催　場　所	（国名）アメリカ	（都市名）サンノゼ	
ﾁｪｱﾏﾝ／ｺﾝﾍﾞﾅ	Dieter W.Bergman	幹事国　日本	
参　加　国及び 参　加　人　数	4ヶ国、主な国名 アメリカ/ドイツ/韓国/日本、参加人数（8）		
日　本　人 出席者名（会社名）	[○：補助対象者・・・（例）：○ 電子太郎(JEITA 電子)] ○山内 秀雄（ソニー）、山本 敬一（富士通）、柴田明一（JPCA）、山本 克己（TOY）		

議事概要（背景・目的・成果・問題点など）（この欄は、見かけは1行ですが、所定欄に改行しながら最大28行まで記入できます。）

・背景：WG12 として、IEC 61188-5 シリーズ，及び IEC61188-8 の進め方を審議する。　JWG11 としては，IEC61182-2 シリーズの進め方を審議する。

・目的：① IEC 61188-5-1 今後の進め方審議
② IEC 61188-7 Zero Orientation 状況確認
③ IEC61188-8 3D 形状ルールの審議
④ IEC61182-2-2 基板製造のための CAD データ提供フォーマット提案（US）

・成果：(1) IEC 61188-5-1(Printed boards and printed board assemblies -Design and use -Part 5-1 Attachment (land/joint) considerations Generic requirements について，今後の進め方を審議した。
ドイツより，従来の規格体系では，新規部品発生に即座に対応できないため，代表部品による記載が望ましいという提案及び，IPC ではリード部品を別の基準書としてまとめつつあるが，リードと SMDMIX タイプの部品も考慮し，「合わせたほうが良い」という提案があった。
そこで，その対応を盛り込んだ形の体系を日本提案として説明した。設計ロジック体系を簡素化し，新規部品が発生しても，基本的には新しい設計ロジックを作るのではなく，基本的な設計ロジック分類の中の小分類として記載する。合意が得られたので，設計ロジック体系の全体版を作成し，委員に回覧する。（11 月末まで）

(2) IEC 61188-7 Zero Orientation
CDV コメントの盛り込み対応は東京会議で確認済。　FDIS へ進める。（US）

(3) IEC 61188-8(Component Shape Data Specification for 3D CAD Library)の審議
1) IEC61188-5-1 との関連が重要であり，今回の IEC61188-5-1 設計ロジック体系の日本提案をこの 3D にも適用させる。　3D にもコートヤードの概念を盛り込む。（日本提案通り）
2) 現在の NP（IEC61188-8）を IEC61188-8-1 として，部品形状データルールの通則とし，形状レベルに関しては，個別規格を設け，できればXML 記述に関しても追加したい，と US から提案があり，同意した。IEC61188-8-1generic として，修正版を作成し，回覧する。（09/01E 予定：日本）

(5) JWG11(Data Transfer) IEC61182-2-2(Printed board assembly products – Manufacturing description data and transfer methodology; Part 2-2: Sectional Requirements for Implementation of Printed Board Fabrication Data Description)の US 提案
予定通り，US より IEC61182-2-2 のドラフトを提案してきた。コンテンツは，IPC-2584 そのものと思われる。NP 提案として提出する。（US）

(6) WG12 と JWG11 を合体させるかどうかの件
事前に行ったアンケートの内容を重視し，当面分けた形とし、TC93 への報告も行う。

(7) 次回予定
JWG11 Feb3-4, 2009, NIST, Gaithersburg, VA
WG12　Feb5-6, 2009, Phoenix, AZ

―以上―

[注]：1. 該当者は、出席会議終了後 [6週間以内] に TC/SC/TA 担当委員経由で、IEC 活動推進委員会事務局宛ご提出下さい。
国際会議出席報告書の審議・承認の後に補助金を支払う。

様式 4

（社）電子情報技術産業協会　　運営委員会・資料番号：5-3／TC91-⑤（事務局記入）
国際標準化対応支援委員会　御中

提出日：2008年 11月 21日

（報告者記載）予算番号：H20TC91②

国際会議出席報告書

国際会議担当委員名：荒金　秀幸　　報告書作成者氏名：　大島　寛　（会社名）ニチコン株式会社

出席会議名（半角）	区　分	組織番号 (TC/SC/TA)	TC91 (半角)
PT62468	☐TC ☐SC ☐TA ☐WG ☒PT ☐その他		
	☐TC ☐SC ☐TA ☐WG ☐PT ☐その他	名　称 (日本語)	電子実装技術
	☐TC ☐SC ☐TA ☐WG ☐PT ☐その他		
	☐TC ☐SC ☐TA ☐WG ☐PT ☐その他	☐単独開催 ☒同時開催	

開催期日	2008年 10月 14日 ～ 2008年 10月 14日	
開催場所	（国名）米国	（都市名）San Jose
ﾁｪｱﾏﾝ／ｺﾝﾍﾞﾅ	日本	幹事国　日本
参加国及び参加人数	5ヶ国、主な国名 日本，ドイツ，英国，フィンランド，韓国、参加人数（16）	
日本人出席者名（会社名）	[○：補助対象者・・・（例）：○ 電子太郎(JEITA 電子)] ○ 大島 寛(ﾆﾁｺﾝ)，○ 荒金 秀幸(ｿﾆｰ)，山本 克己(ﾃｸﾉｵﾌｨｽﾔﾏﾓﾄ)，前嶋 和彦(ｿﾆｰ)，土生 正(村田製作所)，萩尾 浩一(ﾆﾎﾝｹﾞﾝﾏ)	

議事概要（背景・目的・成果・問題点など）（この欄は、見かけは1行ですが、所定欄に改行しながら最大28行まで記入できます。）

背景・目的
規格案 CDV の否決を受け，ソウル会議での規格の分割方針及び今後の進め方について並びにドイツから提案のはんだ規格の附属書とする提案に対する見解を求める DC 文書（91/761/DC 及び 91/804/DC）を回覧して，各国の意見を求めた。今回は，各国からの意見を検討して今後の進め方を決定する。
結果
成果・問題点
91/761/DC 及び 91/804/DC に対する各国コメントを検討した結果，次の点での合意ができた。
・Part 2（材料）及び Part 3（部品の包装ラベル）
　欧米各国の反対が強いため，取り下げる
・Part 1（実装済み基板へのはんだ材料表示）
　－　基板関係はWG1 の作業範囲ではなく，WG2 の作業範囲となる
　－　独立した規格制定よりも，はんだ材料規格 IEC 61190-1-3 に“はんだ合金材料の短縮名称を実装済み基板へのはんだ材料表示に使用できる”ことを附属書（参考）として追加する。
　－　上記の提案を日本国内委員会から，行う
　－　以上の内容を，WG1 から全体会議に報告してこの作業を WG2 に引き継ぐことを提案する
その他
a) 91/767/PAS (J-STD-609)（鉛フリー及び基板材料などの表示）
・PAS の投票結果承認され，IEC/PAS 62588 として発行される。
・各国コメントは，規格化のときの参考にすることの指示が IEC/CO からあった。
b) IEC 60417（機器、装置用図記号）：SC3C が回覧した，IEC 60417 に収録されていない，国際規格に使われている図記号に対す見解を求める 3C/1587/DC の内容について確認した。TC91 幹事に SC3C 幹事へ，次の見解を伝えて頂く。
・3C/1587/DC に鉛フリー表示としての記載がある。
・TC91 は，3C/1587/DC に関連 TC としての記載がなく，コメントできなかった。
・鉛フリー表示は，次の理由で IEC 60417 に追加することに反対である；
　－　IEC/PAS は，あくまでも暫定規格であって正規の国際規格ではない
　－　IEC 80416 の原則と相容れない

今回の会議で，この PT の活動を終了する。

様式 4

（社）電子情報技術産業協会　　運営委員会・資料番号：5-3／TC91-⑥（事務局記入）
国際標準化対応支援委員会　御中

提出日：2008 年 11 月 7 日

（報告者記載）予算番号：H20TC91②

国際会議出席報告書

国際会議担当委員名：荒金　秀幸　　報告書作成者氏名：　前嶋　和彦　（会社名）ソニー(株)

出席会議名（半角）	区　分	組織番号 (TC/SC/TA)	TC91 (半角)
TC91 Plenary	☒TC ☐SC ☐TA ☐WG ☐PT ☐その他		
	☐TC ☐SC ☐TA ☐WG ☐PT ☐その他	名　称 (日本語)	電子実装技術
	☐TC ☐SC ☐TA ☐WG ☐PT ☐その他		
	☐TC ☐SC ☐TA ☐WG ☐PT ☐その他	☐単独開催 ☒同時開催	
開催期日	2008 年 10 月 17 日 ～ 2008 年 10 月 17 日		
開催場所	（国名）米国	（都市名）サンノゼ	
ﾁｪｱﾏﾝ／ｺﾝﾍﾞﾅ	Dieter Bergman	幹事国　日本	
参加国及び参加人数	7ヶ国、主な国名 米国、ドイツ、フィンランド、ブラジル、韓国、中国、日本、参加人数（29）		
日本人出席者名（会社名）	[○：補助対象者・・・（例）：○ 電子太郎(JEITA 電子)] ○前嶋（ソニー(株)）、○多田先生（金沢工大）、梅垣(NEC),春日（NEC エレ）、鶴田（千住金属）、萩尾（日本ゲンマ）、○山本(テクノオフィス山本)、田宮（パナソニック電工）、池田（日立ケミカル）、土生（村田製作所）、荒金（ソニー）、大島(ニチコン)、○宮川（JEITA）		

議事概要（背景・目的・成果・問題点など）（この欄は、見かけは1行ですが、所定欄に改行しながら最大28行まで記入できます。）

IEC/TC91(Electronical Assembly Technology)Plenary 会議を各 WG 及び Project 会議と合わせて米国（サンノゼ）にて開催した。Plenary 会議の概要は以下に記す。

1．議長開催の挨拶
議長の D.Bergman 氏より今回の議題案と前回の TC91　Plenary 会議(ソウル開催)の議事録の概略説明があり、承認された。

2．IEC 中央事務局からの連絡と報告
IEC-ReCNA(IEC-APRC の代理出席)の T.J.Rotti 氏より最新の PAS 文書発行手順、IEC,ISO,ITU 共通の特許権利ポリシー等が報告された。

3．Secretary からの報告
Secretary より前回の Plenary 会議の SMB への報告書の概要説明があった。

4．各 WG からの活動報告

4.1 WG1
WG1 の Convenor W.Huck 氏より WG1 の活動概要の報告があった。IEC 61760-3 Ed.1(スルーホールに対する部品の要求仕様）の 91/777/CD についての observation comments について議論がされ、08/11/E までに CDV ドラフトを準備することになった。
IEC 62468(特定化学物質の表示、マーキング)については WG1 での推進は中止とし、WG2 の IEC 61190-1-3(鉛フリーはんだ材料）の Annex に追加する方向で進めることとなった。

4.2 WG2
WG2 の Convenor 代理の D.Bergman 氏より WG2 の活動概要の報告があった。日本提案の IEC 61191-6Ed.1 (ボイド評価規準)の 91/766/CDV の observation comments についての議論がなされ合意のもと修正確定された。日本提案の IEC 61190-1-3(鉛フリーはんだ材料)への二種類の材料追加提案は CD 文書回覧中であり、08/12/09 に voting　close であることが確認された。また IEC 61190-1-3 に対する韓国からの提案（91/800A/DC）の特許の詳細事項記述の削除については削除する方向で合意された。具体的な進め方は今後の協議。

WG1 の PT62468 については WG2 の IEC 61190-1-3 の Annex に追加する方向の提案が WG1 よりなされ合意された。

4.3 WG3

WG3 の Convenor の春日氏より WG3 の活動概要の報告があった。IEC 60068-2-44(はんだ付けテストのガイドライン)、2ー58(表面実装部品のはんだ付け性テスト)はメンテナンスサイクルに従い各々WD が 08/11/E,, 09/02/E に発行される予定となった。外部応力による Whisker に関しては新たに Project を発足させ 09/01/E にドラフトを完成させることで合意した。

IEC 62137-1-3(表面実装部品の周期的落下試験)、1-4(表面実装部品の周期的曲げ試験)の FDIS がが発行されたことが報告された。また IEC 62137-1-5(表面実装部品の機械的疲労試験)は 08/10/E に FDIS が発行されることが報告された。新たに提案されていた IEC /PAS 62137-3(はんだ結合強度試験法ガイダンス)は PAS として承認されたことと NP の RVN は 08/10/E に発行される予定であることが報告された。新たな業務提案である 91/823/NP は 09/01/16 が voting close であることが確認された。

4..4 WG4

WG4 の Convenor の D. Sober 氏より WG4 の活動概要の報告があった。IEC 61249 シリーズ（プリント配線板材料）の文書進捗報告があった。IEC 61249-2-31,2-32,2-33,2-34 については今回提案された変更を盛り込んだ上で FDIS に移行することが合意された。

4.5 WG5

WG5 の Convenor の柴田氏より WG5 の活動概要が報告された。IEC 60194 Ed.6（プリント配線板の用語定義）を 08/E までに発行できるよう準備中であることが報告された。

4.6 WG10

WG10 の Convenor の柴田氏より WG10 の活動概要が報告された。IEC 61189-2(プリント配線板と他の電子部品材料の試験方法）の３つの文書の進捗状況が報告された。

4.8 WG12

WG12 の Convenor の D.Bergman 氏より WG12 の活動概要が報告された。IEC 61188-5(部品形状とパターン設計ランド形状）の文書進捗状況と部品形状とパターン設計ルールに関する新規検討状況が報告された。

4.9 JWG11

JWG11 の Convener の D.Bergman 氏より JWG11 の活動概要が報告された。他の TC(TC3,TC52,TC93)との歴史的経緯も含めて詳細活動報告があった。IEC 61182 シリーズ（プリント配線板部品形状データ）の現状についての報告があった。

５．TC91 関連文書の全体進捗

議長の D.Bergman 氏より新規 Project の文書進捗一覧(91/813/PW)と既存文書のメンテナンス日程（91/814/INF）の紹介があり、改めて日程の遵守と見直しが促された。

６．SBP の改定

議長の D.Bergman 氏より SMB からの要請事項である SBP の改定についての WG からの Action　Plan の改定案が紹介された。今後３ヶ月以内に SBP の改定案をまとめて SMB に報告発行する予定。

７．次回開催について

次回 2009 年の国際会議は１０月５日～１０月９日にドイツのベルリンにて開催される予定。

以上

[注]：1. 該当者は、出席会議終了後［6週間以内］に国際会議担当委員経由で、国際標準化対応支援委員会事務局宛ご提出下さい。
国際会議出席報告書の審議・承認の後に補助金を支払う。
会議終了後速やかに提出し、直近の運営委員会にて審議・承認を受けることが望ましい。
2. 本報告書は、同一会議に2名以上出席の場合、代表者が提出してください。
3. WG が TC/SC/TA と同時開催の場合は、WG 会議内容は TC/SC 報告に含めて報告書を提出して下さい。
4. 報告書の追加、訂正が生じた場合は、運営委員会開催後1週間以内に事務局に提出して下さい。
5. この報告書は、手続き完了後、JEITA ホームページ「国際標準化対応支援委員会」に掲載し、会員企業への報告に替えます。

様式 4

（社）電子情報技術産業協会　　運営委員会・資料番号：5-3／TC93-①（事務局記入）
国際標準化対応支援委員会　御中

提出日：2008 年 12 月 8 日

（報告者記載）予算番号：H20TC93①

国際会議出席報告書

国際会議担当委員名：太田光保　報告書作成者氏名：太田光保　（会社名）パナソニック

出席会議名（半角）	区　分	組織番号（TC/SC/TA）	TC93（半角）
TC93	☒TC ☐SC ☐TA ☐WG ☐PT ☐その他		
WG1,WG2,WG3	☐TC ☐SC ☐TA ☒WG ☐PT ☐その他	名　称（日本語）	デザイン・オートメーション
WG6,WG7	☐TC ☐SC ☐TA ☒WG ☐PT ☐その他		
JWG11	☐TC ☐SC ☐TA ☒WG ☐PT ☐その他	☐単独開催 ☒同時開催	

開催期日	2008 年 10 月 28 日 ～ 2008 年 10 月 30 日	
開催場所	（国名）シンガポール	（都市名）シンガポール
ﾁｪｱﾏﾝ／ｺﾝﾍﾞﾅ	唐津 治夢 Chair/WG7 Con 小島 智　WG2 Con 高橋 満　WG6 Con	幹事国　米国
参加国及び参加人数	5ヶ国、主な国名 日本、米国、中国、韓国、シンガポール、参加人数（15）	
日本人出席者名（会社名）	[○：補助対象者・・・（例）：○ 電子太郎(JEITA 電子)] ○唐津治夢（SRI インターナショナル）、○神戸尚志（近畿大）、○古井芳春(STARC/ソニー)、○小島 智（NEC システムテクノロジー）、○高橋満(日立)、 柴田明一（JPCA）、○太田光保(パナソニック)	

議事概要（背景・目的・成果・問題点など）（この欄は、見かけは1行ですが、所定欄に改行しながら最大28行まで記入できます。）

<背景>電子機器・部品の設計や試験の仕様記述、設計情報や部品 Lib 流通方式等、標準化ニーズは一層高まっている。
<目的>JEITA や JPCA 等の関連委員会との緊密な連携をもって、日本産業界の意向を反映させるべく議論を行う。
<成果>
全体：①WG6 高橋 Con の努力で、韓国が P 国となって参加。中国・シンガポールの出席もあり深い議論ができた。
②日本から「一つの目的には一つの標準」を主張。EDA ツールベンダの影響の強い米国の、「最終的には市場が選択する」という趣旨の意見と対立したが、WG1 の検討課題として残した。
WG1：①RTL 検証と合成に関する設計言語間 Harmonization の完了を確認。
②今後、De Jure 標準、Forum 標準と De Facto 標準の Interoperability に活動の軸足を移すことを確認。
WG2：①2009 年以降の案件について確認。Dual Logo 案件 4 件（新規 1 件、メンテ 3 件）、その他メンテ 1 件
②二つの Power Format 標準(UPF と CPF)の課題については、Interoperability が実現されない限り、IEEE1801(UPF)を支持しないという JPNC の立場を主張。(USNC から CPF 側からの働き掛けありとの意見があった)
WG3：① 材料や製造に関する情報交換方法の標準化を推進中。Ver.2.0 を開発中であり標準化はほぼ完了。
②今後は、KEA と連携を図ることを確認。
WG5：コンベナーが都合で欠席のため会合なし。
WG6：①日中韓 3 カ国の共同提案として、電子カタログの相互流通のための国際標準の早期確立を提起し、WG6 の検討テーマとして採択。（共同提案は CJK-SITE/AH07-2 での検討結果）
②今後、製品技術属性情報の交換方式標準化の早期確立を図ることを確認。
WG7：①今後の案件として、　IEEE/SCC20 の状況を確認。ATML(Automatic Test Markup Language)関係として 8 つ以上の WG が活動中で、2009 年投票の見込み。デュアルロゴ標準として提案されると見込み。
②SCC20 との関係円滑化のために、IEC 側の迅速適切な対応が必要なことを確認。
JWG11：①今後の案件として、IEC61182 の状況を確認。USNC は IEC61182-1 の置き換えとして、IEC61182-2(Generic Requirements)を提案予定。IEC61182-10(JPCA フォーマット)は IEC61182-2 にマッピングする方針。
②JWG11 と TC91/WG12(Design of printed board and printed board assemblies)への統合の投票は、否決であったことを確認。今後も、JWG11 と WG12 は独立して活動。
<課題>①日本（EDA ツールユーザ主体）と米国（EDA ベンダ主体）の事業形態の違いから、標準の選定方法で意見の相違が拡大。標準化が必要な言語・フォーマットの選定で、日本側で主導できるための方策が必要。
②P メンバー国の更なる増加に向けたアクションが必要。TC93 としては、V. Berman 幹事が欧州等にアプローチする。

[注]：1. 該当者は、出席会議終了後 [6週間以内] に国際会議担当委員経由で、国際標準化対応支援委員会事務局宛ご提出下さい。

様式 4

（社）電子情報技術産業協会　　運営委員会・資料番号：5-3／TC100-①（事務局記入）
国際標準化対応支援委員会　御中

提出日：2008 年 12 月 9 日

（報告者記載）予算番号：H20TC100③

国際会議出席報告書

国際会議担当委員名：向井 幹雄　報告書作成者氏名：平川 秀治　（会社名）（株）東芝

出席会議名（半角）	区分	組織番号（TC/SC/TA）	TC 100（半角）
JISC/CENELEC 総会、ICT-WG	☒TC ☐SC ☐TA ☐WG ☐PT ☐その他		
	☐TC ☐SC ☐TA ☐WG ☐PT ☐その他	名称（日本語）	AV・マルチメディア・システム・機器 TC100 総会
	☐TC ☐SC ☐TA ☐WG ☐PT ☐その他		
	☐TC ☐SC ☐TA ☐WG ☐PT ☐その他	☐単独開催 ☒同時開催	
開催期日	2008 年 11 月 21 日 ～ 200 年 月 日		
開催場所	（国名）ブラジル連邦共和国	（都市名）サンパウロ市	
ﾁｪｱﾏﾝ／ｺﾝﾍﾞﾅ	Mr. Mark Hyman (USA)	幹事国 日本NC	
参加国及び参加人数	13ヶ国、主な国名 日本、米国、中国、UK、参加人数（55）		
日本人出席者名（会社名）	[○：補助対象者・・・（例）：○ 電子太郎(JEITA 電子)] ○安田 浩（東京電機大学）、○平川 秀治（東芝）、○江崎 正（ソニー）、補助非対象者含め 21 名		

議事概要（背景・目的・成果・問題点など）（この欄は、見かけは1行ですが、所定欄に改行しながら最大28行まで記入できます。）

TC 100 関連会議が先行して 11 月 17 日から 20 日に開催され、TC 100 総会はその最終日の 21 日午前に開かれる。最終日は、午後、カウンシル公開セッションが開催されるため、TC 100 総会は 21 日午前 9 時から 12 時 50 分までの半日のみでタイトなスケジュールであった。

はじめに、TA 8 TS が本田氏から榊原氏に交替になったことが紹介され、承認された。AGS からは、Jack Holm 氏に替わり、Megan Hayes 女史が新しい委員になったと紹介があった。

木曜日午後に開催した TC 100 High Level Meeting について報告があった。この会合は SMB 132 Decision 9 を実行するために ITU-T SG 16 のラポータ 2 名、ISO/IEC JTC 1 議長、TC 100 の Home Network、デジタル放送受信機関係者を集めて実施された、第一回会合である。Ad-hoc スタイルでの共同作業について合意し、次回は 2009 年 4 月下旬にジュネーブで会合を開くことになったと、報告があり、承認された。

Stage 0 として活動している Accessibility について、米国 J. Baronas 女史、UK の K. Grant 女史から共同報告があった。WD を 2009 年 2 月に出す予定である。

SMB 傘下で省エネを検討している SG 1 への対応として、TC 100 に省エネ検討の Ad-hoc を組織することになり、議長に J. Baronas 女史、Secretary は報告者がつとめることになった。

TC 100 総会では新しいリエゾンの審議、従来からのリエゾンの見直しを行っている。PC の消費電力関連の Ecma TC 38 からの要請のあったDリエゾンは、Ecma 383 が AV&マルチメディアに直接関係しないことから、TC 100 運用規定にある Dependency とした。IEC TC 111 とは省エネの用語を統一する必要性から、TC 59 は待機モードについて広く規定した規格があることから、それぞれ、Internal リエゾンとした。Ecma TC 38、IEC TC 111 リエゾン担当は、Schnider 氏（Sony、DE）が担当する。

[注]：1. 該当者は、出席会議終了後［6週間以内］に国際会議担当委員経由で、国際標準化対応支援委員会事務局宛ご提出下さい。
国際会議出席報告書の審議・承認の後に補助金を支払う。
会議終了後速やかに提出し、直近の運営委員会にて審議・承認を受けることが望ましい。
2. 本報告書は、同一会議に2名以上出席の場合、代表者が提出してください。
3. WG が TC/SC/TA と同時開催の場合は、WG 会議内容は TC/SC 報告に含めて報告書を提出して下さい。
4. 報告書の追加、訂正が生じた場合は、運営委員会開催後1週間以内に事務局に提出して下さい。
5. この報告書は、手続き完了後、JEITA ホームページ「国際標準化対応支援委員会」に掲載し、会員企業への報告に替えます。

国際標準化対応支援委員会事務局：(社)電子情報技術産業協会　知的基盤部標準・安全グループ
〒101-0065 東京都千代田区西神田 3-2-1（千代田ファーストビル南館）　Tel：03-5275-7259　Fax：03-5212-8122

様式 4

（社）電子情報技術産業協会　　運営委員会・資料番号：5-3／TC100-②（事務局記入）
国際標準化対応支援委員会　御中

提出日：2008 年 11 月 20 日

（報告者記載）予算番号：H20TC100④

国際会議出席報告書

国際会議担当委員名：向井幹雄　報告書作成者氏名：小町祐史　（会社名）大阪工大

出席会議名（半角）	区分	組織番号 (TC/SC/TA)	TC100/AGS (半角)
TC100/AGS TC100/AGM	☒TC ☐SC ☐TA ☐WG ☐PT ☐その他		
	☒TC ☐SC ☐TA ☐WG ☐PT ☐その他	名称 (日本語)	TC100 戦略諮問会議
	☐TC ☐SC ☐TA ☐WG ☐PT ☐その他		
	☐TC ☐SC ☐TA ☐WG ☐PT ☐その他	☐単独開催 ☒同時開催	
開催期日	2008 年 11 月 17 日 ～ 2008 年 11 月 17 日		
開催場所	（国名）ブラジル	（都市名）サンパウロ	
ﾁｪｱﾏﾝ／ｺﾝﾍﾞﾅ	小町祐史	幹事国　日本	
参加国及び参加人数	3 地域、主な地域名 北米(4), ヨーロッパ(3), アジアパシフィック(3) 、参加人数（36） (注: TC100/AGS への参加は, 国ではなく, 地域からの代表による。)		
日本人出席者名（会社名）	[○：補助対象者･･･（例：○ 電子太郎(JEITA 電子)] ○小町祐史(大阪工大), 平川秀治(東芝), 由雄淳一(パイオニア), 向井幹雄(ソニー), 伊賀弘幸(東芝), 南典政(松下), 野谷正明(松下), 稲垣(ソニー), 飯田(電通), 河野(JEITA), 植村(電機大)		

議事概要（背景･目的･成果･問題点など）（この欄は、見かけは1行ですが、所定欄に改行しながら最大28 行まで記入できます。）

TC100 のスコープ内の新技術に関して次の議論と決定を行った。

1. 前回案件のフォロー

(1) マルチパート化する T-DMB の 1 パートとして Common API が提案された。API の定義が不明確であるので, [328]を TA1 に送付して, さらに議論してもらうこととした。

(2) SMPTE DC28 の digital cinema および ISO/TC36 の cinematography の活動内容が報告された。さらに SMPTE の 3D TV の現状報告がなされた。

(3) TC100 が開発する security を含む規格の構成案(3～4 clause からなる Annex の構成法)が示された。構成の例示に用いた security の内容へのコメントはあったが, 構成案に関する反対はなく, この Annex の構成法を TC100 guidelines and procedures の次の改訂に含めてもらうため, 100/AGS(Secr.)324 を AGM に送付することとした。

(4) SMB SG.1 の報告として 100/AGS(Secr.)326, 334 が示され, TC100 に関連する SMB SG.1 の決定 15c, 16, 17, 18 への TC100 としての回答を提示する必要があることが報告された。そこで SMB SG.1 への回答 drafting グループを募り, 回答案を TC100 プレナリに提出して承認を求めることにした。

(5) 前回の提案で AGS から NP 提出を求められていたトピック: Energy saving system for home appliances and home network devices の詳細化が示された。US, 日本からの改善提案を含めた NP の提出が再度求められた。

(6) 前回 AGS から SMB に対して求めた IPTV 標準化に関する IEC/TC100 と ITU-T との coordination 活動について, 報告を受けた。TC100 内に IPTV そのものに関する標準化プロジェクトがないことの問題が指摘されたが, まずは現状の coordination 活動をさらに推進することが求められた。

2. 新規案件

(1) 中国から DRA audio standard についてプレゼンを受け, それについて既に NP 提案が行われていることを確認した。

[注]：1. 該当者は、出席会議終了後［6週間以内］に国際会議担当委員経由で、国際標準化対応支援委員会事務局宛ご提出下さい。
国際会議出席報告書の審議・承認の後に補助金を支払う。
会議終了後速やかに提出し、直近の運営委員会にて審議・承認を受けることが望ましい。
2. 本報告書は、同一会議に2名以上出席の場合、代表者が提出してください。
3. WG が TC/SC/TA と同時開催の場合は、WG 会議内容は TC/SC 報告に含めて報告書を提出して下さい。
4. 報告書の追加、訂正が生じた場合は、運営委員会開催後1週間以内に事務局に提出して下さい。
5. この報告書は、手続き完了後、JEITA ホームページ「国際標準化対応支援委員会」に掲載し、会員企業への報告に替えます。

国際標準化対応支援委員会事務局：(社)電子情報技術産業協会　知的基盤部標準･安全グループ
〒101-0065 東京都千代田区西神田 3-2-1（千代田ファーストビル南館）　Tel：03-5275-7259　Fax：03-5212-8122

様式 4

（社）電子情報技術産業協会　　運営委員会・資料番号：5-3／TC100-③（事務局記入）
国際標準化対応支援委員会　御中

提出日：2008 年 12 月 8 日

（報告者記載）予算番号：H20TC100⑩、⑪

国際会議出席報告書

国際会議担当委員名：向井　幹雄　　報告書作成者氏名：　稲永 潔文　（会社名）ソニー株式会社

出席会議名（半角）	区　分	組織番号 (TC/SC/TA)	TC100/GMT (半角)
TC100/GMT TC100/Plenary	☒TC　☐SC　☐TA　☐WG　☐PT　☐その他		
	☒TC　☐SC　☐TA　☐WG　☐PT　☐その他	名　称 (日本語)	オーディオビデオ・マルチメディアシステム及び機器/ジェネラルメインテナンス会議
	☐TC　☐SC　☐TA　☐WG　☐PT　☐その他		
	☐TC　☐SC　☐TA　☐WG　☐PT　☐その他	☐単独開催　☒同時開催	
開　催　期　日	2008 年 11 月 17 日 ～ 2008 年 11 月 21 日		
開　催　場　所	（国名）ブラジル	（都市名）サンパウロ	
ﾁｪｱﾏﾝ／ｺﾝﾍﾞﾅ	J. M. Woodgate	幹事国　日本	
参　加　国及び 参　加　人　数	1ヶ国、主な国名 日本、参加人数（6）		
日　本　人 出席者名（会社名）	[○：補助対象者･･･（例）：○ 電子太郎(JEITA 電子)] ○大賀(芝浦工大)、○稲永(ソニー)、○原(ソニー)、江崎(ソニー)、古川(ケンウッド)、古川(ソニー)		

議事概要（背景･目的･成果･問題点など）（この欄は、見かけは1行ですが、所定欄に改行しながら最大28 行まで記入できます。）

MT60268-7：”ヘッドホンおよびイヤホン”規格の改正に関しては、日本の大賀がプロジェクトリーダとして作業を推進している。すでに CDV が配布され、各国の討論が集約されつつある。また TC108 での審議に関連して規格内容の詳細化、精度向上が要請されている。このため、今回の会議に出席して日本を含む各国のエキスパートと改訂のポイントの最終的な集約を行うため、今回の GMT に参加した。

CDV 投票の締め切りまで 3 ヶ月の余裕があるため、現在コメント提出を表明しているのは日本だけだったので、プロジェクトリーダの経過報告の後、日本エキスパートよりコメント提出予定の事項の技術的内容が紹介された。今回の改正では特性評価の制度を格段に向上させる技術が日本より提案され、CDV に反映されている。今回の紹介はその技術的根拠と、これを解説した学会論文に関するものであった。

審議の結果、今回採用した評価方法の技術的根拠の情報として、この学会論文を規格の参考文献に加えることが議決された。この件は GMT 決定として承認された。

[注]：1. 該当者は、出席会議終了後［6週間以内］に国際会議担当委員経由で、国際標準化対応支援委員会事務局宛ご提出下さい。
国際会議出席報告書の審議・承認の後に補助金を支払う。
会議終了後速やかに提出し、直近の運営委員会にて審議・承認を受けることが望ましい。
2. 本報告書は、同一会議に2名以上出席の場合、代表者が提出してください。
3. WG が TC/SC/TA と同時開催の場合は、WG 会議内容は TC/SC 報告に含めて報告書を提出して下さい。
4. 報告書の追加、訂正が生じた場合は、運営委員会開催後1週間以内に事務局に提出して下さい。
5. この報告書は、手続き完了後、JEITA ホームページ「国際標準化対応支援委員会」に掲載し、会員企業への報告に替えます。

国際標準化対応支援委員会事務局：(社)電子情報技術産業協会　知的基盤部標準･安全グループ
〒101-0065 東京都千代田区西神田 3-2-1（千代田ファーストビル南館）　Tel：03-5275-7259　Fax：03-5212-8122

(TSC-06 様式 2008.1)

様式 4

（社）電子情報技術産業協会　　運営委員会・資料番号：5-3／TC100-④（事務局記入）
国際標準化対応支援委員会　御中　　提出日：2008 年 11 月 28 日

（報告者記載）整理番号：H20TC100⑥、⑨

国際会議出席報告書

国際会議担当委員名：向井幹雄　報告書作成者氏名：古川雅通　（会社名）(株) ケンウッド

出席会議名（半角）	区分	組織番号 (TC/SC/TA)	TC100/MT61606-1, -2 (半角)
TC100/ MT 61606-1, -2	☐TC ☐SC ☐TA ☐WG ☒PT ☐その他		
	☐TC ☐SC ☐TA ☐WG ☐PT ☐その他	名称 (日本語)	デジタルオーディオ測定方法 パート１一般およびパート２コンシューマ用途
	☐TC ☐SC ☐TA ☐WG ☐PT ☐その他		
	☐TC ☐SC ☐TA ☐WG ☐PT ☐その他	☐単独開催 ☒同時開催	

開催期日	2008 年 11 月 20 日 ～ 2008 年 11 月 20 日	
開催場所	（国名）ブラジル	（都市名）サンパウロ
ﾁｪｱﾏﾝ／ｺﾝﾍﾞﾅ	Jhon Woodgate	幹事国 日本
参加国及び参加人数	3ヶ国、主な国名 UK, US, 日本、参加人数 (4)	
日本人出席者名（会社名）	[○：補助対象者･･･（例）：○ 電子太郎(JEITA 電子)] ○古川洋(ソニー)、○古川雅通(ケンウッド／PL)	

議事概要（背景･目的･成果･問題点など）（この欄は、見かけは1行ですが、所定欄に改行しながら最大28行まで記入できます。）

現在、デジタルオーディオ信号の測定方法としては 61606-1 から-4 まで 4 つの規格が制定されている。
この中で -1 General と -2 Consumer use の 2 規格が MT61606-1, -2 としてメインテナンス作業に入っている。
両方とも現在 CDV の配布中である。
今回の会議では以下の議論を行った。
① エキスパートのコメント検討
③ CDV に関する各国コメントの検討
締切日間際だったので、2 カ国からのコメントが有り、それを検討した。（その後コメント無し）
③ IEC 事務局からの CDV チェックコメント検討
審議結果
①に関して：提案通り採用
②に関して：一部コメントの意図が不明な部分が有ったので、提案国と会話して結論を得ることにした。
他の件は採用
③に関して：一部疑問な点が有ったので、事務局へ問い合わせることにした。
他の部分はそのまま採用
今後の予定
2008 年末までに FDIS 文書を作成し、IEC 事務局に提出することにした。

[注]：1. 該当者は、出席会議終了後［6週間以内］に国際会議担当委員経由で、国際標準化対応支援委員会事務局宛ご提出下さい。
国際会議出席報告書の審議・承認の後に補助金を支払う。
会議終了後速やかに提出し、直近の運営委員会にて審議・承認を受けることが望ましい。
2. 本報告書は、同一会議に2名以上出席の場合、代表者が提出してください。
3. WG が TC/SC/TA と同時開催の場合は、WG 会議内容は TC/SC 報告に含めて報告書を提出して下さい。
4. 報告書の追加、訂正が生じた場合は、運営委員会開催後1週間以内に事務局に提出して下さい。
5. この報告書は、手続き完了後、JEITA ホームページ「国際標準化対応支援委員会」に掲載し、会員企業への報告に替えます。

国際標準化対応支援委員会事務局：(社)電子情報技術産業協会 知的基盤部標準･安全グループ
〒101-0062 東京都千代田区神田駿河台 3-11（三井住友海上別館ビル） Tel：03-3518-6435 Fax：03-3295-8727

様式 4

（社）電子情報技術産業協会　　運営委員会・資料番号：5-3／TC100TA1-①（事務局記入）
国際標準化対応支援委員会　御中

提出日：200 年　月　日

（報告者記載）予算番号：H20TC100TA1②

国際会議出席報告書

国際会議担当委員名：伊賀弘幸　報告書作成者氏名：伊賀弘幸　（会社名）株式会社東芝

出席会議名（半角）	区分	組織番号 (TC/SC/TA)	TC100/TA1（半角）
TC100/TA1 TA1 会議 62087 メンテナンス会議	□TC □SC ☒TA □WG □PT □その他		
	□TC □SC □TA □WG ☒PT □その他	名称（日本語）	放送用エンドユーザ機器
	□TC □SC □TA □WG □PT □その他		
	□TC □SC □TA □WG □PT □その他	□単独開催 ☒同時開催	
開催期日	2008 年 11 月 19 日 ～ 2008 年 11 月 20 日		
開催場所	（国名）ブラジル	（都市名）サンパウロ	
ﾁｪｱﾏﾝ／ｺﾝﾍﾞﾅ	Mr. Favid Felland	幹事国　日本	
参加国及び参加人数	TA1 会議　4ヶ国、主な国名 日、米、韓、仏　参加人数（14） 62087 メンテナンス会議　5ヶ国、主な国名 日、独、米、中、豪　参加人数（13）		
日本人出席者名（会社名）	[○：補助対象者…（例）：○ 電子太郎(JEITA 電子)] ○伊賀弘幸（東芝）		

議事概要（背景・目的・成果・問題点など）（この欄は、見かけは1行ですが、所定欄に改行しながら最大28行まで記入できます。）

TC100 総会に合わせて開催された TA1 会議にテクニカルセクレタリとして出席した。また、IEC 62087 のメンテナンス会議には日本から二名エキスパートを出すことで補助を承認頂いていたが、その後の進捗状況と予算とを勘案して、別件で同行された TC100 国内委員会の稲垣氏に出席頂くことで、上記二名の出席は取りやめた。IEC62087 のメインテナンス会議にも TA1 のテクニカルセクレタリとして出席したので、両会議の概要を報告する。

1. TA1 会議

今年の 10 月に IS となった 62087 Ed2(TV 消費電力測定法)の報告が PL よりされた。

62087 Ed2 のメンテナンス(STB 消費電力測定法)に関して、用語を定義する TC111 の 62542 とリエゾンをとることが決まった。

韓国を中心にサービスされている T-DMB の OS と Middle Ware 間の I/F として、Common API の規格化の必要性が韓国から提示された。T-DMB 限定として、今後 NP 提案(62516-3)に進むことが承認された。

今後のブロードバンドを見据えて TA1 の Scope を広げるべきとの提案があった。

2. 62087 Maintetnance(STB 消費電力測定法)会議(主催)

STB の定義は前回のパリ会議で見直したが、略語は STB のままとすることに決った。

動作時(On mode)主体に各モードの整理に着手した。他方、単語を定義する TC111 の 62542 や Standby 中心の TC59 の 62031 Ed2 では、On mode とは言わず Active mode となっている。これらの委員会とリエゾンを取る必要性が確認された。最終日の TC100 総会で本件は承認された。

EPG 等のダウンロード状態を On mode とすべきか Standby mode とすべきかが、課題として認識された。

今後は、日本では朝 6:00 からの早朝電話会議を三度行い、CES 期間中の 2009/1/9 にラスベガスで会議を持ち、Working Draft をまとめて、委員会回覧(CD)を目指す。次回のラスベガス会議が CD への山となる見込み。

CES での会議では米国 Cable 関係者の出席を期待したく、TC100 から ITU 経由で Cable 関係者の出席を要請することが総会で合意された。

[注]：1. 該当者は、出席会議終了後［6週間以内］に国際会議担当委員経由で、国際標準化対応支援委員会事務局宛ご提出下さい。
国際会議出席報告書の審議・承認の後に補助金を支払う。
会議終了後速やかに提出し、直近の運営委員会にて審議・承認を受けることが望ましい。
2. 本報告書は、同一会議に2名以上出席の場合、代表者が提出してください。
3. WG が TC/SC/TA と同時開催の場合は、WG 会議内容は TC/SC 報告に含めて報告書を提出して下さい。
4. 報告書の追加、訂正が生じた場合は、運営委員会開催後1週間以内に事務局に提出して下さい。
5. この報告書は、手続き完了後、JEITA ホームページ「国際標準化対応支援委員会」に掲載し、会員企業への報告に替えます。

国際標準化対応支援委員会事務局：(社)電子情報技術産業協会　知的基盤部標準・安全グループ

様式 4

（社）電子情報技術産業協会　　運営委員会・資料番号：5-3／TC100TA2-①（事務局記入）
国際標準化対応支援委員会　御中

提出日：2008 年 11 月 28 日

（報告者記載）予算番号：H20TC100TA2①

国際会議出席報告書

国際会議担当委員名：杉浦博明　報告書作成者氏名：杉浦博明　（会社名）三菱電機(株)

出席会議名（半角）	区分	組織番号 (TC/SC/TA)	TC100/TA2 (半角)
TC100/AGM	☒TC ☐SC ☐TA ☐WG ☐PT ☐その他		
PT61966-12	☐TC ☐SC ☐TA ☐WG ☒PT ☐その他	名称 (日本語)	AV 及びマルチメディアシステム・機器/色彩測定およびカラーマネジメント
TC100/TA2	☐TC ☐SC ☒TA ☐WG ☐PT ☐その他		
TC100/Plenary	☒TC ☐SC ☐TA ☐WG ☐PT ☐その他	☐単独開催 ☒同時開催	
開催期日	2008 年 11 月 17 日 ～ 2008 年 11 月 12 日		
開催場所	（国名）ブラジル	（都市名）サンパウロ	
ﾁｪｱﾏﾝ／ｺﾝﾍﾞﾅ	杉浦博明 (日本)	幹事国 米国	
参加国及び参加人数	4ヶ国、主な国名 日本、米国、フランス、英国、参加人数（8）		
日本人出席者名（会社名）	[○：補助対象者･･･（例）：○ 電子太郎(JEITA 電子)] ○杉浦博明(三菱電機)、○加藤直哉(ソニー)、齋鹿尚史(シャープ)、Mr. Taisuke Matsumoto(米パナソニック)		

議事概要（背景･目的･成果･問題点など）（この欄は、見かけは1行ですが、所定欄に改行しながら最大28 行まで記入できます。）

1．フランスから提案のあった Gamut ID メタデータ(コンテンツの色域を表すメタデータ)の WD(プロジェクト番号 61966-12)に対して、日本から事前に JEITA カラーマネジメント標準化 G にて作成の案を示した。PT 会議の結果、日仏の議論は合意に至ることなく次回以降に持ち越しとなった。

2．フランス代表から、トムソン社が上記提案に関する特許を 3 件出願中であると発言があった。

3．フランス案が、IS(International Standard)となると信号を受ける立場のテレビは、Gamut Mapping(広い色域のコンテンツを狭い色域のディスプレイに表示する技術)のようなリアルタイム処理が難しい技術を導入する必要がある。この技術導入は、大幅なコスト増となる。

4．12 月に Expert に配布される予定の 2nd WD(Working Draft)において、日本案が聞き入れられていない場合は、xvYCC(IEC61966-2-4; 日本から提案して 2006 年に成立した動画用拡張色空間)に日本案を Annex として追加することとした。

5．日本の主要なテレビメーカからの Expert が参加しやすくするため次回のプロジェクト会議を日本で開催してみてはどうかとの提案があった。JEITA が会議のスポンサーとなることを持ち帰り検討することとした。日本開催する場合の時期は、2009 年 6 月の ICC(International Color Consortium)会議前後の可能性が高い。

6．その他、TA2 会議での結論は、TC100 プレナリー会議において全て承認された。

[注]：1. 該当者は、出席会議終了後［6週間以内］に国際会議担当委員経由で、国際標準化対応支援委員会事務局宛ご提出下さい。
国際会議出席報告書の審議・承認の後に補助金を支払う。
会議終了後速やかに提出し、直近の運営委員会にて審議・承認を受けることが望ましい。
2. 本報告書は、同一会議に2名以上出席の場合、代表者が提出してください。
3. WG が TC/SC/TA と同時開催の場合は、WG 会議内容は TC/SC 報告に含めて報告書を提出して下さい。
4. 報告書の追加、訂正が生じた場合は、運営委員会開催後1週間以内に事務局に提出して下さい。
5. この報告書は、手続き完了後、JEITA ホームページ「国際標準化対応支援委員会」に掲載し、会員企業への報告に替えます。

国際標準化対応支援委員会事務局：(社)電子情報技術産業協会　知的基盤部標準･安全グループ
〒101-0065 東京都千代田区西神田 3-2-1（千代田ファーストビル南館）　Tel：03-5275-7259　Fax：03-5212-8122

(TSC-06 様式 2008.1)

様式 4

（社）電子情報技術産業協会　　運営委員会・資料番号：5-3／TC100TA4-①（事務局記入）
国際標準化対応支援委員会　御中　　提出日：2008 年 11 月 26 日

（報告者記載）予算番号：H20TC100TA4③

国際会議出席報告書

国際会議担当委員名：蔭山　惠　　報告書作成者氏名：　江島 直樹　（会社名）パナソニック株式会社

出席会議名（半角）	区　分	組織番号 (TC/SC/TA)	TC100/TA4 (半角)
MT 61937-2	☐TC ☐SC ☐TA ☐WG ☐PT ☒その他		
	☐TC ☐SC ☐TA ☐WG ☐PT ☐その他	名　称 (日本語)	圧縮デジタルオーディオ・インターフェース：データ・タイプ
	☐TC ☐SC ☐TA ☐WG ☐PT ☐その他		
	☐TC ☐SC ☐TA ☐WG ☐PT ☐その他	☒単独開催 ☐同時開催	
開　催　期　日	2008 年 10 月 3 日 ～ 200 年　月　日		
開　催　場　所	（国名）米国	（都市名）サンフランシスコ	
ﾁｪｱﾏﾝ／ｺﾝﾍﾞﾅ	江島 直樹	幹事国　韓国	
参　加　国及び 参　加　人　数	5ヶ国、主な国名 米国、英国、ドイツ、オランダ、日本、参加人数（13）		
日　本　人 出席者名（会社名）	[○：補助対象者…（例）：○ 電子太郎(JEITA 電子)] ○江島直樹（パナソニック）、由雄淳一（パイオニア）、市村元（ソニー）、原田登（NTT）、川村明久（パナソニック）		

議事概要（背景･目的･成果･問題点など）（この欄は、見かけは1行ですが、所定欄に改行しながら最大28 行まで記入できます。）

背景・目的：

本規格の改訂は、圧縮デジタルオーディオフォーマット毎にメンテナンスが行われてきた各パートの改訂内容をパート２に集約するとともに、新たな圧縮デジタルオーディオフォーマットを追加規定することを目的としている。

ここで新規に追加されようとしているオーディオフォーマットは、世界各国で開始されるＤＴＶ放送サービスにも採用されることから各種民生機器への機能搭載が期待され、早急な国際規格化が望まれるため日本としても円滑に規格化を推進すべきである。関連する AES 規格のＰＬ、メンバーと連携をとりつつ注意深く規格整備を進める必要があるため、関連のエキスパートが集まる AES 規格会議に併設する形でプロジェクト準備会議をＰＬ候補として開催した。

成果：

追加規定すべき新データ・タイプとしては、①ＡＬＳおよび②MPEG-4 audio in LATM/LOAS が候補であることが確認できた。また、データ・タイプの拡張にともなうフィールド定義の変更、具体的にはＰＣビットの使用方法については、将来に渡って互換性をキープする必要性があるため、サブデータ・タイプと PC bit 8-12 についての使用方法を明確にする文言の追加が重要であることを確認した。　また、これらの明示的な前例を作るため、直面する①ＡＬＳおよび②MPEG-4 audio in LATM/LOAS のデータ・タイプ等の具体アサインについて関係するＰＬとの間で調整し合意できた。 これら検討案について全員でレビューし内容を確認・合意できたので、これらの内容をDraft に盛り込む予定である。

今後の予定：

ＩＳ化までのスケジュール案は以下の通り、

メインテナンスプロジェクト起案　2009/04　、ＣＤＶ　　2009/06　、ＩＳ　　2010/03

次回開催：

MT 61937-2：2009 年５月（ミュンヘン）開催予定。

[注]：1. 該当者は、出席会議終了後 [6週間以内] に国際会議担当委員経由で、国際標準化対応支援委員会事務局宛ご提出下さい。
国際会議出席報告書の審議・承認の後に補助金を支払う。
会議終了後速やかに提出し、直近の運営委員会にて審議・承認を受けることが望ましい。
2. 本報告書は、同一会議に2名以上出席の場合、代表者が提出してください。
3. WG が TC/SC/TA と同時開催の場合は、WG 会議内容は TC/SC 報告に含めて報告書を提出して下さい。
4. 報告書の追加、訂正が生じた場合は、運営委員会開催後1週間以内に事務局に提出して下さい。
5. この報告書は、手続き完了後、JEITA ホームページ「国際標準化対応支援委員会」に掲載し、会員企業への報告に替えます。

国際標準化対応支援委員会事務局：(社)電子情報技術産業協会　知的基盤部標準･安全グループ
〒101-0065 東京都千代田区西神田 3-2-1（千代田ファーストビル南館）　Tel：03-5275-7259　Fax：03-5212-8122

様式 4

（社）電子情報技術産業協会　　運営委員会・資料番号：5-3／TC100TA4-②（事務局記入）

国際標準化対応支援委員会　御中

提出日：2008 年 12 月 8 日

（報告者記載）予算番号：H20TC100TA4④

国際会議出席報告書

国際会議担当委員名：　蔭山　惠　　報告書作成者氏名：　蔭山　惠　（会社名）パナソニック株式会

出席会議名（半角）	区　分	組織番号 (TC/SC/TA)	TC100/TA4 (半角)
TA100/TA4	□TC □SC ☒TA □WG □PT □その他		
	□TC □SC □TA □WG □PT □その他	名　称 (日本語)	デジタルシステムインタフェース&プロトコル
	□TC □SC □TA □WG □PT □その他		
	□TC □SC □TA □WG □PT □その他	□単独開催 ☒同時開催	
開　催　期　日	2008 年 11 月 18 日 ～ 2007 年 11 月 18 日		
開　催　場　所	（国名）ブラジル	（都市名）サンパウロ	
ﾁｪｱﾏﾝ／ｺﾝﾍﾞﾅ	Ed Barrett	幹事国　韓国	
参　加　国及び 参　加　人　数	6ヶ国、主な国名　日本、中国、韓国、UK、US 参加人数（20）		
日　本　人 出席者名（会社名）	[○：補助対象者・・・（例）：○ 電子太郎(JEITA 電子)] ○ 蔭山　惠（パナソニック）、由雄淳一（パイオニア）、古川雅通（ケンウッド）、江島直樹（パナソニック）、濱崎公男（NHK）、他		

議事概要（背景･目的･成果･問題点など）（この欄は、見かけは1行ですが、所定欄に改行しながら最大28 行まで記入できます。）

背景･目的

TA4 には日本から開発・改定提案中の規格案件が多数ある。（準備中含め５件）これらはいずれも日本が主導的に事業を推進しているＡＶ機器の重要なインターフェースとして使用が予定されている。早期規格改定の推進は日本国にとって非常に重要である。

成果

今回の会議で日本改定提案として特に重要なインタフェースである IEC 60958-3 に関して PL から進捗が告され、承認された。
また、新たに組み入れるチャンネルアサインメントの詳細が報告されメンバーに共有化された。
その他現在規格開発、改定中のプロジェクトに関して状況・課題の共有化が行われた。
更に有効期限が迫った規格に対する方向付けが議論され TC100 プレナリー会議に報告された。
さらに、TA のスコープ、リエゾン関係の見直しが行われたが特に変更はなかった。
また、 Stabilized Project の議論を行ったが、TA4 では該当プロジェクトはなかった。

問題点

特になし

次回開催

2008.10.18-22 TC100 Plenary 会議（テルアビブ）に合わせて実施予定。

[注]：1. 該当者は、出席会議終了後 [6週間以内] に国際会議担当委員経由で、国際標準化対応支援委員会事務局宛ご提出下さい。
国際会議出席報告書の審議・承認の後に補助金を支払う。
会議終了後速やかに提出し、直近の運営委員会にて審議・承認を受けることが望ましい。
2. 本報告書は、同一会議に2名以上出席の場合、代表者が提出してください。
3. WG が TC/SC/TA と同時開催の場合は、WG 会議内容は TC/SC 報告に含めて報告書を提出して下さい。
4. 報告書の追加、訂正が生じた場合は、運営委員会開催後1週間以内に事務局に提出して下さい。
5. この報告書は、手続き完了後、JEITA ホームページ「国際標準化対応支援委員会」に掲載し、会員企業への報告に替えます。

国際標準化対応支援委員会事務局：(社)電子情報技術産業協会　知的基盤部標準･安全グループ
〒101-0065 東京都千代田区西神田 3-2-1（千代田ファーストビル南館）　Tel：03-5275-7259　Fax：03-5212-8122

様式 4

（社）電子情報技術産業協会　　運営委員会・資料番号：5-3／TC100TA5-①（事務局記入）
国際標準化対応支援委員会　御中

提出日：2008 年 11 月 12 日

（報告者記載）整理番号：H20TC100TA5 予算無①

国際会議出席報告書

国際会議担当委員名：濵田　靖司　　報告書作成者氏名：　濵田　靖司　（会社名）NEC

出席会議名（半角）	区　分	組織番号 (TC/SC/TA)	TC100/TA5 (半角)
PT 60728-13 MT 60728-6 MT 60728-1-1,-2	☐TC ☐SC ☐TA ☐WG ☒PT ☐その他		
	☐TC ☐SC ☐TA ☐WG ☒PT ☐その他	名　称 (日本語)	ケーブルネットワーク
	☐TC ☐SC ☐TA ☐WG ☒PT ☐その他		
	☐TC ☐SC ☐TA ☐WG ☐PT ☐その他	☐単独開催 ☒同時開催	
開催期日	2008 年 10 月 14 日 ～ 2008 年 10 月 16 日		
開催場所	（国名）ドイツ	（都市名）フランクフルト	
ﾁｪｱﾏﾝ／ｺﾝﾍﾞﾅ	PT60728-13 Mr.Matsumoto, JP MT60728-1-1,-2 Prof.Mussino, IT MT60728-6 Dr.Schuwarzenau DE	幹事国　TC100：日本	
参加国及び参加人数	6ヶ国、主な国名ﾄﾞｲﾂ、ﾌｨﾝﾗﾝﾄﾞ、ｲﾀﾘｱ、ｲｷﾞﾘｽ、ﾉﾙｳｪｲ、日本、参加人数（16）		
日本人出席者名（会社名）	[○：補助対象者･･･（例）：○ 電子太郎(JEITA 電子)] ○松本檀（日本ケーブルラボ）、○松本卓三（古河電気工業株式会社）、○濵田靖司（NEC）		

議事概要（背景･目的･成果･問題点など）（この欄は、見かけは1行ですが、所定欄に改行しながら最大28行まで記入できます。）

TC100/TA5 の PT60728-13，MT60728-1-1,-2　MT60728-6 がドイツ　フランクフルト市の DKE(Deutsche Kommission Elektrotechnik Elektronik)で開催され出席した。主な内容は以下の通り。

1．PT60728-13(放送信号の FTTH ｼｽﾃﾑ)の審議

CD 文書（100/1418/CD）に対して、ドイツ、イタリア、ノルウェイ、SC86B/86C より全 59 項目のコメントが寄せられ、それに対するリゾリューション(補足説明追加、エディトリアル修正)を行った。殆どすべてのコメントが解消され、内容の最終確認が行われた結果、CDV 化が了承された。その後最終文書をコメント回答と共に IEC コラボレーションツールにアップロードした。今後、エキスパートメンバで最終チェック（エディトリアル）を行い、１１月初旬に最終文書をコンベナーから TA5 TS に提出、CDV 文書が発行される運びとなった。

2．MT60728-1-1(双方向 RF ﾎｰﾑﾈｯﾄﾜｰｸ),MT60728-1-2(運用状態におけるｼｽﾃﾑ性能)の審議

（本会合は CENELEC TC209 ／WG4 との合同ミーティングという位置づけで行われた）

2-1 MT60728-1-1

CD 文書（100/1417/CD）についてドイツ、フランスからのコメントについて議論した。いずれもエディトリアル修正で対応可能であるため CDV 文書化が合意された。

2-2 MT60728-1-2

ドイツ、イタリア、日本は CDV(100/1416/CDV)に賛成表明しているが、ノルウェーはオペレーション時のシステムアウトレットの性能規定に反対しており、デジタル信号のみの規定にして欲しい等要望が出された。CDV(投票期限 12/5)後審議する。
また、ドイツ エキスパートより HNI (Home Network Interface)関連について説明があり、課題を議論した。

3．MT60728-6 の審議

60728-13 から 60728-6 に移管することとなった FTTH 機器の性能仕様について、日本より提案した光送信器、光受信器、光増幅器規定について説明を行った。本 MT では主として FTTH 機器を追加規定することであるが、現行 Ver 箇所についても適宜見直しを行った。例えば現 IS 規定の光送信器（下り用、上り用）に対して新たに RIN 規定を追加することおよび光送信器のカテゴリ分けの明確化など。

4．今後の予定　　次回 PT/MT 会合を 2009 年 5 月にヘルシンキで行うことが決定された。　　以上

[注]：1. 該当者は、出席会議終了後 [6週間以内] に国際会議担当委員経由で、国際標準化対応支援委員会事務局宛ご提出下さい。
国際会議出席報告書の審議・承認の後に補助金を支払う。
会議終了後速やかに提出し、直近の運営委員会にて審議・承認を受けることが望ましい。
2. 本報告書は、同一会議に2名以上出席の場合、代表者が提出してください。
3. WG が TC/SC/TA と同時開催の場合は、WG 会議内容は TC/SC 報告に含めて報告書を提出して下さい。

様式 4

（社）電子情報技術産業協会　　運営委員会・資料番号：5-3／TC100TA6-①（事務局記入）
国際標準化対応支援委員会　御中　　提出日：2008 年 12 月 5 日

（報告者記載）予算番号：H20TC100TA6①

国際会議出席報告書

国際会議担当委員名：向井　幹雄　　報告書作成者氏名：　野谷　正明　（会社名）パナソニック(株)

出席会議名（半角）	区　分	組織番号 (TC/SC/TA)	TC100/TA6（半角）
TC100/TA6	☐TC ☐SC ☒TA ☐WG ☐PT ☐その他		
	☐TC ☐SC ☐TA ☐WG ☐PT ☐その他	名　称 (日本語)	放送･業務用ストレージ
	☐TC ☐SC ☐TA ☐WG ☐PT ☐その他		
	☐TC ☐SC ☐TA ☐WG ☐PT ☐その他	☐単独開催　☒同時開催	
開　催　期　日	2008 年 11 月 19 日 ～ 2008 年 11 月 19 日		
開　催　場　所	（国名）ブラジル	（都市名）サンパウロ市	
ﾁｪｱﾏﾝ／ｺﾝﾍﾞﾅ	(出席した会議のﾁｪｱﾏﾝ or ｺﾝﾍﾞﾅの氏名) Mr. Masaaki Notani	幹事国　（国際幹事の国名） 日本	
参　加　国及び 参　加　人　数	2ヶ国、主な国名 ｱﾒﾘｶ、日本　参加人数（10）		
日　本　人 出席者名（会社名）	[○：補助対象者･･･（例）：○ 電子太郎(JEITA 電子)] ○向井　幹雄（ソニー）、○鈴木　輝彦(ソニー)、○野谷　正明(パナソニック)		

議事概要（背景･目的･成果･問題点など）（この欄は、見かけは1行ですが、所定欄に改行しながら最大28 行まで記入できます。）

背　景：放送設備の HD 化、ディジタル化に伴い関係規格の対応求められ、また、
関連技術の進化により規格の改定が急務になってきている。

目　的：タイトルとスコープの改定、改定作業の見直し、新規プロジェクトの立案と検討、
メインテナンス及びスタビライズド規格の見直しなどを行う。

成　果：1．タイトルとスコープの改定を終える。
2．現状規格化作業の見直しと確認。
3．新規プロジェクトとして 2 件を承認。
4、Database の同期化手法の検討。

問題点：SMPTE との Liaison について、担当者の退職により今後の関係が、懸念される。
今後の善後策について検討した。TA100 としても今後の関連が多く、全体的な関係強化が
望まれる。

[注]：1. 該当者は、出席会議終了後［6週間以内］に国際会議担当委員経由で、国際標準化対応支援委員会事務局宛ご提出下さい。
国際会議出席報告書の審議・承認の後に補助金を支払う。
会議終了後速やかに提出し、直近の運営委員会にて審議・承認を受けることが望ましい。
2. 本報告書は、同一会議に 2 名以上出席の場合、代表者が提出してください。
3. WG が TC/SC/TA と同時開催の場合は、WG 会議内容は TC/SC 報告に含めて報告書を提出して下さい。
4. 報告書の追加、訂正が生じた場合は、運営委員会開催後1週間以内に事務局に提出して下さい。
5. この報告書は、手続き完了後、JEITA ホームページ「国際標準化対応支援委員会」に掲載し、会員企業への報告に替えます。

国際標準化対応支援委員会事務局：(社)電子情報技術産業協会　知的基盤部標準･安全グループ
〒101-0065 東京都千代田区西神田 3-2-1（千代田ファーストビル南館）　Tel：03-5275-7259　Fax：03-5212-8122

(TSC-06 様式 2008.1)

様式 4

（社）電子情報技術産業協会　　運営委員会・資料番号：5-3／TC100TA7-①（事務局記入）
国際標準化対応支援委員会　御中

提出日：2008 年 12 月 9 日

（報告者記載）予算番号：H20TC100TA7①

国際会議出席報告書

国際会議担当委員名：向井幹雄　報告書作成者氏名：杉崎公宣　（会社名）ソニー株式会社

出席会議名（半角） TC100/TA7	区　分 ☐TC ☐SC ☒TA ☐WG ☒PT ☐その他 ☐TC ☐SC ☐TA ☐WG ☐PT ☐その他 ☐TC ☐SC ☐TA ☐WG ☐PT ☐その他 ☐TC ☐SC ☐TA ☐WG ☐PT ☐その他	組織番号（TC/SC/TA） 名称（日本語） ☐単独開催 ☒同時開催	TC100/TA7（半角） AV マルチメディア民生用ストレージ
開催期日	2008 年 11 月 17 日 ～ 2008 年 11 月 21 日		
開催場所	（国名）ブラジル	（都市名）サンパウロ	
ﾁｪｱﾏﾝ／ｺﾝﾍﾞﾅ	向井幹雄	幹事国　日本	
参加国及び参加人数	4ヶ国、主な国名 日本、アメリカ、イギリス、ドイツ、参加人数（16）		
日本人出席者名（会社名）	[○：補助対象者・・・（例）：○ 電子太郎(JEITA 電子)] 向井幹雄(ソニー)、江崎正(ソニー)、由雄淳一(パイオニア)、○ 杉崎公宣(ソニー)、野谷正明、松下剛士(シャープ)、鈴木輝彦(ソニー)、榊原宏紀(富士通)、Mitsuru Tanabe、江島直樹(パナソニック)、蔭山恵(パナソニック)		

議事概要（背景・目的・成果・問題点など）（この欄は、見かけは1行ですが、所定欄に改行しながら最大28 行まで記入できます。）

TA7 会議概要

・前回会議の議事録について、異議なく承認された。
・各プロジェクトの報告
- MT61834-4 後述
- PT62952
　平林 PL が欠席のため、由雄委員より進捗と TA7 会議前に行われたプロジェクトミーティングにて、Technical Specification として仕様を提出することで合意された旨、報告がされた。
・将来のプロジェクトの情報共有として、由雄委員よりオーディオアーカイブ、iVDR の報告がされた。
・議長より TA7 のタイトルおよびスコープを TA6 とプロ用と民生用という区分けをつけるために変更をする件について説明があり、承認された。
・規格文書の改訂に対しての確認が行われ、承認された。
・規格化進捗状況のレビューおよび確認が行われた。
・各リエゾンからの関連事項に対しての報告が行われた。
・次回開催は、2009 年 10 月のイスラエルの TC100 総会と同時開催予定との連絡の後、閉会。

MT61834-4 進捗報告

各プロジェクトの報告の場で、プロジェクト立案の経緯、DC の投票結果の説明を行い、現在、MCR を経て CD のリリースを終え、コメントを待っている旨を報告した。
報告に対して各委員、出席者からのコメントなどはなく、今後、CDV, IS へのスケジュールについても承認された。

[注]：1. 該当者は、出席会議終了後［6週間以内］に国際会議担当委員経由で、国際標準化対応支援委員会事務局宛ご提出下さい。
国際会議出席報告書の審議・承認の後に補助金を支払う。
会議終了後速やかに提出し、直近の運営委員会にて審議・承認を受けることが望ましい。
2. 本報告書は、同一会議に2名以上出席の場合、代表者が提出してください。
3. WG が TC/SC/TA と同時開催の場合は、WG 会議内容は TC/SC 報告に含めて報告書を提出して下さい。
4. 報告書の追加、訂正が生じた場合は、運営委員会開催後1週間以内に事務局に提出して下さい。
5. この報告書は、手続き完了後、JEITA ホームページ「国際標準化対応支援委員会」に掲載し、会員企業への報告に替えます。

国際標準化対応支援委員会事務局：(社)電子情報技術産業協会　知的基盤部標準・安全グループ
〒101-0065 東京都千代田区西神田 3-2-1（千代田ファーストビル南館）　Tel：03-5275-7259　Fax：03-5212-8122

様式 4

（社）電子情報技術産業協会　　運営委員会・資料番号：5-3／TC100TA8-①（事務局記入）
国際標準化対応支援委員会　御中

提出日：2008 年 12 月 08 日

（報告者記載）予算番号：H20TC100TA8①

国際会議出席報告書

国際会議担当委員名：TC100/TA8　報告書作成者氏名：　松村秀一　（会社名）富士通（株）

出席会議名（半角） TC100/TA8	区　分 ☐TC ☐SC ☒TA ☐WG ☐PT ☐その他 ☐TC ☐SC ☐TA ☐WG ☐PT ☐その他 ☐TC ☐SC ☐TA ☐WG ☐PT ☐その他 ☐TC ☐SC ☐TA ☐WG ☐PT ☐その他	組織番号（TC/SC/TA） 名　称（日本語） ☐単独開催 ☒同時開催	TC100/TA8（半角） マルチメディアホームサーバシステム
開催期日	2008 年 11 月 17 日 ～ 2008 年 11 月 21 日		
開催場所	（国名）ブラジル	（都市名）サンパウロ	
ﾁｪｱﾏﾝ／ｺﾝﾍﾞﾅ	松村　秀一	幹事国　日本	
参加国及び参加人数	4ヶ国、主な国名 日本、中国、韓国、米国、参加人数（11）		
日本人出席者名（会社名）	[○：補助対象者･･･（例）：○ 電子太郎(JEITA 電子)] ○松村(富士通)、○榊原(富士通)、○松下(シャープ)、安田(東京電機大)、○飯田(電通)		

議事概要（背景･目的･成果･問題点など）（この欄は、見かけは1行ですが、所定欄に改行しながら最大28 行まで記入できます。）

背景・目的

TA8 会議としては2007 年10 月のフランスに次ぐ会議となり、今回、TS が富士通の榊原さんに交代したことを報告、以下の項目を審議することが主目的である。

1)　Project

- PT62291:TR Application Program Interface for UDF Based File Systems：ポーランド NC のコメントを反映した100/1452/DTR が2008 年9月に発行され、11 月21 が投票締め切りであることを説明した。現在、投票結果待ち。

- PT:62227 Digital Rights Permission Code：6 月に IS として正式に発行されたことを報告、新規に代表的な利用シーンからPermission Code をプロファイリングし、それらを固定長化にした内容のＴＲ案を審議、承認された。2008 年末を目標に作業中。

-PT62579 Conceptual Model For Domain Management ：2008 年2月に100/1296/NP が反対なしで承認され、５ヶ国8名のexpert でスタート、今回2ヶ国から受けたコメントを審議、修正案が確認された。残るオランダコメントを確認し、現在、追加修正案を検討中、2008 年末に向けＣＤ作成予定。

2) メンテナンス
- 本期間中は対象がないことを報告した。

3)　その他
- Revision of Strategic Business Plan(SBP) の修正案の審議、及び、スコープの確認を行った。

4) 次回会議
2009 年11 月イスラエル（テルアビブ）開催を報告し、確認された。

[注]：1. 該当者は、出席会議終了後［6週間以内］に国際会議担当委員経由で、国際標準化対応支援委員会事務局宛ご提出下さい。
国際会議出席報告書の審議・承認の後に補助金を支払う。
会議終了後速やかに提出し、直近の運営委員会にて審議・承認を受けることが望ましい。
2. 本報告書は、同一会議に2名以上出席の場合、代表者が提出してください。
3. WG が TC/SC/TA と同時開催の場合は、WG 会議内容は TC/SC 報告に含めて報告書を提出して下さい。
4. 報告書の追加、訂正が生じた場合は、運営委員会開催後1週間以内に事務局に提出して下さい。
5. この報告書は、手続き完了後、JEITA ホームページ「国際標準化対応支援委員会」に掲載し、会員企業への報告に替えます。

国際標準化対応支援委員会事務局：(社)電子情報技術産業協会　知的基盤部標準･安全グループ
〒101-0065 東京都千代田区西神田 3-2-1（千代田ファーストビル南館）　Tel：03-5275-7259　Fax：03-5212-8122

様式 4

（社）電子情報技術産業協会　　運営委員会・資料番号：5-3／TC100TA9-①（事務局記入）
国際標準化対応支援委員会　御中

提出日：2008 年 12 月 3 日

（報告者記載）予算番号：H20TC100TA9①

国際会議出席報告書

国際会議担当委員名：南　典政　報告書作成者氏名：　南　典政　（会社名）パナソニック(株)

出席会議名（半角） TC100/TA9	区　分 ☐TC ☐SC ☒TA ☐WG ☐PT ☐その他 ☐TC ☐SC ☐TA ☐WG ☐PT ☐その他 ☐TC ☐SC ☐TA ☐WG ☐PT ☐その他 ☐TC ☐SC ☐TA ☐WG ☐PT ☐その他	組織番号 (TC/SC/TA)	TC100/TA9 (半角)
		名　称 (日本語)	AV ｱﾝﾄﾞ ﾏﾙﾁﾒﾃﾞｨｱ機器・ｼｽﾃﾑ / ｴﾝﾄﾞﾕｰｻﾞ用 AV ﾏﾙﾁﾒﾃﾞｨｱｱﾌﾟﾘｹｰｼｮﾝ
		☐単独開催 ☒同時開催	
開　催　期　日	2008 年 11 月 20 日 ～ 200 年　月　日		
開　催　場　所	（国名）ブラジル	（都市名）サンパウロ	
ﾁｪｱﾏﾝ／ｺﾝﾍﾞﾅ	Mr.Barrett(US)/南（TS）	幹事国　日本	
参　加　国及び 参　加　人　数	7ヶ国、主な国名 米, 英, 独, 蘭, 中国、参加人数（20）		
日　本　人 出席者名（会社名）	[○：補助対象者･･･（例）：○ 電子太郎(JEITA 電子)] ○:南典政(パナソニック)		

議事概要（背景･目的･成果･問題点など）（この欄は、見かけは1行ですが、所定欄に改行しながら最大28 行まで記入できます。）

1，Technical Secretary として会議を主催・運営
2，日本提案 IS 発行完了（Multimedia home networks – Network interfaces for network adapter）
3，二つの NP 候補について内容調査
①韓国提案：Energy saving system for home appliances and home network devices
②中国提案（TC59 への NP）：Requirements for Household Appliances in the Home Network
提案者が PT62514（Requirements for home multimedia gateway devices）と同じ
白物機器の NW 提案であり PT62514 との関連性を調査

[注]：1. 該当者は、出席会議終了後 [6週間以内] に国際会議担当委員経由で、国際標準化対応支援委員会事務局宛ご提出下さい。
国際会議出席報告書の審議・承認の後に補助金を支払う。
会議終了後速やかに提出し、直近の運営委員会にて審議・承認を受けることが望ましい。
2. 本報告書は、同一会議に2名以上出席の場合、代表者が提出してください。
3. WG が TC/SC/TA と同時開催の場合は、WG 会議内容は TC/SC 報告に含めて報告書を提出して下さい。
4. 報告書の追加、訂正が生じた場合は、運営委員会開催後1週間以内に事務局に提出して下さい。
5. この報告書は、手続き完了後、JEITA ホームページ「国際標準化対応支援委員会」に掲載し、会員企業への報告に替えます。

国際標準化対応支援委員会事務局：(社)電子情報技術産業協会　知的基盤部標準･安全グループ
〒101-0065 東京都千代田区西神田 3-2-1（千代田ファーストビル南館）　Tel：03-5275-7259　Fax：03-5212-8122

(TSC-06 様式 2008.1)

様式 4

（社）電子情報技術産業協会　　運営委員会・資料番号：5-3／TC100TA10-①（事務局記入）
国際標準化対応支援委員会　御中　　提出日：2008 年 12 月 7 日

（報告者記載）予算番号：H20TC100TA10①

国際会議出席報告書

国際会議担当委員名：向井幹雄　報告書作成者氏名：　植村八潮　（会社名）東京電機大学

出席会議名（半角）	区　分	組織番号 (TC/SC/TA)	TC100/TA10 (半角)
TC100/TA10	□TC □SC ☒TA □WG □PT □その他		
	□TC □SC □TA □WG □PT □その他	名　称 (日本語)	AV マルチメディアシステム及び機器/マルチメディア電子出版及び電子書籍
	□TC □SC □TA □WG □PT □その他		
	□TC □SC □TA □WG □PT □その他	□単独開催 ☒同時開催	
開催期日	2008 年 11 月 17 日 ～ 2008 年 11 月 21 日		
開催場所	（国名）ブラジル	（都市名）サンパウロ	
ﾁｪｱﾏﾝ／ｺﾝﾍﾞﾅ	植村八潮	幹事国　日本	
参加国及び参加人数	5ヶ国、主な国名 日本，米国，英国，中国，ブラジル、参加人数（12）		
日本人出席者名（会社名）	[○：補助対象者…（例）：○ 電子太郎(JEITA 電子)] ○植村八潮（東京電機大学），○齋鹿尚史（シャープ）， 向井幹雄（ソニー），小町祐史（大阪工大），榊原宏紀（富士通）		

議事概要（背景･目的･成果･問題点など）（この欄は、見かけは1行ですが、所定欄に改行しながら最大28行まで記入できます。）

【背景】マルチメディアコンテンツの流通と増加を背景に，電子機器とシステムによる電子出版ビジネスが注目されてきた。

【目的】電子書籍リーダー及び電子出版システムの製品化が相次ぎ，普及促進とシステム間の互換性確保のため，電子書籍関連の標準化が求められてきた。

【経過】2006 年 5 月ヘルシンキの TC100/AGM 会議において，TA10 Multimedia e-Publishing and e-Book の新規設立が承認され，同年 9 月ベルリンで第 1 回，翌 2007 年 10 月アルザスで第 2 回 TA10 国際会議を開催した。2008 年 4 月バンコクでの TC100/AGM 会議で現在までの進捗状況を報告している。現在までに，TS 62229 で電子出版の市場形成及び電子書籍コンテンツの流通・交換のための標準概念モデルを，次いで，IS 62448 では 62229 で提案した Generic format を定義した。

【成果】

PT 62605（電子辞書フォーマット）　齋鹿 PL より PT 62605 電子辞書フォーマットにおける進捗状況が，資料に基づいて報告された。NP 投票のコメント内容とその対応案が検討され，引き続き CD 案の作成が承認された。

PT 62448（ジェネリックフォーマット改訂版）小町 PL より PT 62448 ジェネリックフォーマット改訂版における進捗状況が資料に基づいて報告された。CDV のコメント内容とその対応案が検討され承認された。

PT 62524（リーダーズフォーマット）齋鹿 PL より PT62524 リーダーズフォーマットにおける進捗状況が，資料に基づいて報告された。CDV のコメント内容とその対応案が検討され承認された。

PT62571（デジタルオーディオブック）PL の代理 Hayes さんが口頭により進捗状況を報告した。CD 投票が 10 月 17 日に締め切られてコメントが寄せられている。TS より PL によりコメントのレビューを行うよう伝えられた。

新規プロジェクト（Texture map for audio presentation of printed contents）印刷物用音声プレゼンテーションのための模様図について，深見氏に代わり小町副主査が報告をした。他の二つの 2 次元コードと関連について議論された。TC100 にふさわしいユニバーサルアクセス技術として NP 提案が期待された。

[注]：1. 該当者は、出席会議終了後［6週間以内］に国際会議担当委員経由で、国際標準化対応支援委員会事務局宛ご提出下さい。
国際会議出席報告書の審議・承認の後に補助金を支払う。
会議終了後速やかに提出し、直近の運営委員会にて審議・承認を受けることが望ましい。
2. 本報告書は、同一会議に2名以上出席の場合、代表者が提出してください。
3. WG が TC/SC/TA と同時開催の場合は、WG 会議内容は TC/SC 報告に含めて報告書を提出して下さい。
4. 報告書の追加、訂正が生じた場合は、運営委員会開催後1週間以内に事務局に提出して下さい。
5. この報告書は、手続き完了後、JEITA ホームページ「国際標準化対応支援委員会」に掲載し、会員企業への報告に替えます。

国際標準化対応支援委員会事務局：(社)電子情報技術産業協会　知的基盤部標準･安全グループ
〒101-0065 東京都千代田区西神田 3-2-1（千代田ファーストビル南館）　Tel：03-5275-7259　Fax：03-5212-8122

様式 4

（社）電子情報技術産業協会　　運営委員会・資料番号：5-3／TC100TA11-①（事務局記入）
国際標準化対応支援委員会　御中

提出日：2008 年 12 月 9 日

（報告者記載）予算番号：H20TC100TA11①

国際会議出席報告書

国際会議担当委員名：由雄淳一　報告書作成者氏名：由雄淳一　（会社名）パイオニア（株）

出席会議名（半角）	区分	組織番号（TC/SC/TA）	TC100/TA11（半角）
TC100/TA11	□TC □SC ☒TA □WG □PT □その他		
	□TC □SC □TA □WG □PT □その他	名称（日本語）	AV マルチメディアシステムの品質
	□TC □SC □TA □WG □PT □その他		
	□TC □SC □TA □WG □PT □その他	□単独開催 ☒同時開催	
開催期日	2008 年 11 月 17 日 ～ 2008 年 11 月 21 日		
開催場所	（国名）ブラジル	（都市名）サンパウロ	
チェアマン／コンベナ	由雄淳一	幹事国 日本	
参加国及び参加人数	4ヶ国、主な国名 日本、英国、米国、中国、参加人数（7）		
日本人出席者名（会社名）	[○：補助対象者・・・（例）：○ 電子太郎(JEITA 電子)] ○由雄淳一（パイオニア）		

議事概要（背景・目的・成果・問題点など）（この欄は、見かけは1行ですが、所定欄に改行しながら最大28 行まで記入できます。）

背景：TC100 で新たに発足した AV マルチメディアの品質を扱う TA11 の初会議。
目的：すでに発足したプロジェクト以外にこの後予定される新規提案について検討する。他の規格団体は品質関連規格化で先行しており TC100 としてそれらを考慮して戦略的に進める、また品質は AV コンテンツの制作、放送、送出側とエンドユーザー機器との総合でありこれらの調和をもって規格化を進めるための検討をおこなう。
成果：1．既存プロジェクト
6 つのプロジェクト進捗確認。なおこの中の AV シンクロ関連のすでに発行された PT 62312-1-1 及び-2、PT 62503 には SMPTE から詳細なコメントが出ており当会議に先立ち米国で TA11/TAM と SMPTE の会議を行った。この報告、検討を行い当規格の改定に反映することとした。
2．新規プロジェクト
以下の新規案件の NP が各国で検討されておりこの後 IEC に提案される、これらは関連規格団体規格と調和しまた TC100 として戦略的に進める必要がある、この方法、アクションプランを検討した。日本の検討に多くを期待されている。以下詳細。
（1）ラウドネス関連：送出側の問題の検討、またメタデータをエンドユーザーまで送る提案が予定されているがまずこれを JEITA 内の TA11 対応 G で検討する。
（2）ビデオ品質関連：ITU-T、VQEG がビデオ配信においてエンドユーザー機器まで含めた検討を開始しており TA11 はこれらとリエゾンをとっていく。また日本ではビデオ配信が始まっており上記同様 TA11 対応 G で検討をする。
（3）AV シンクロ、リップシンク関連：先の SMPTE 会議からも確認されたが他の規格団体もリップシンクの評価について検討を開始しているがまだ結果は出ていない。TC100 は IEC 62312、IEC 62503 規格を発行したがさらに JEITA で行ったリップシンク評価実験は他より先行している。規格改定に向け検討を進める。
（4）スピーカーアサインメントと音場関連：ドイツ提案予定のスピーカーアサインメントは音場品質に関し TA11 で扱うことに今回の AGM で決定した。提案を検討したが送出側、エンドユーザー側との連携が必要であり提案者に検討依頼するとともに関連団体と連携をとる。

[注]：1. 該当者は、出席会議終了後［6週間以内］に国際会議担当委員経由で、国際標準化対応支援委員会事務局宛ご提出下さい。
国際会議出席報告書の審議・承認の後に補助金を支払う。
会議終了後速やかに提出し、直近の運営委員会にて審議・承認を受けることが望ましい。
2. 本報告書は、同一会議に2名以上出席の場合、代表者が提出してください。
3. WG が TC/SC/TA と同時開催の場合は、WG 会議内容は TC/SC 報告に含めて報告書を提出して下さい。
4. 報告書の追加、訂正が生じた場合は、運営委員会開催後1週間以内に事務局に提出して下さい。
5. この報告書は、手続き完了後、JEITA ホームページ「国際標準化対応支援委員会」に掲載し、会員企業への報告に替えます。

国際標準化対応支援委員会事務局：(社)電子情報技術産業協会　知的基盤部標準・安全グループ
〒101-0065 東京都千代田区西神田 3-2-1（千代田ファーストビル南館）　Tel：03-5275-7259　Fax：03-5212-8122

様式 4

（社）電子情報技術産業協会　　運営委員会・資料番号：5-3／TC103-①（事務局記入）
国際標準化対応支援委員会　御中

提出日：2008 年 12 月 4 日

（報告者記載）予算番号：H20TC103②

国際会議出席報告書

国際会議担当委員名：高橋泰雄　報告書作成者氏名：高橋泰雄　（会社名）(株)東芝

出席会議名（半角）	区分	組織番号 (TC/SC/TA)	TC103 (半角)
TC103	☒TC ☐SC ☐TA ☐WG ☐PT ☐その他		
	☐TC ☐SC ☐TA ☐WG ☐PT ☐その他	名称 (日本語)	無線通信用送信装置専門委員会
	☐TC ☐SC ☐TA ☐WG ☐PT ☐その他		
	☐TC ☐SC ☐TA ☐WG ☐PT ☐その他	☒単独開催 ☐同時開催	

開催期日	2008 年 10 月 21 日 ～ 2008 年 10 月 22 日	
開催場所	（国名）ドイツ	（都市名）フランクフルト
ﾁｪｱﾏﾝ／ｺﾝﾍﾞﾅ	Michael Neubert（ドイツ）	幹事国　フランス
参加国及び参加人数	5ヶ国、主な国名 日、仏、独、英、スイス、参加人数（13）	
日本人出席者名（会社名）	[○：補助対象者･･･（例）：○ 電子太郎(JEITA 電子)] え 小川博世(国内委員長、NICT)、黒川 悟(AIST)、市川潤一郎(住友大阪セメント)、○高橋泰雄(東芝)	

議事概要（背景･目的･成果･問題点など）（この欄は、見かけは1行ですが、所定欄に改行しながら最大28行まで記入できます。）

1．標準化状況の確認：前回 IS として登録された 2 件の文書(62272-2 および 62273-1)が仏語版作成作業中と、事務局より報告あり。

2．103_62A/NP（デジタル TV 送信ネットワーク測定方法）の状況について：

PL の高橋より前回 TC 会合以降の状況を報告。「2008 年 1 月に Working Document を expert に提示し、意見を募る。仏より内容の一部追加を含む修正提案があり、国内作業班で協議した上 Working Document を改定し、CD として 10 月に Circulate した」

投票は 2009 年 1 月に締め切られる。

3．103/74/PAS および 103/75/NP について：

本案件は日本からの提案によるもので黒川委員が状況を報告。いずれも Mach-Zehnder 型光変調器の半波長測定法に関するもので、74/PAS は賛成多数で採択、75/NP は投票中（11/7 締め切り）である。現段階ではスケジュールどおり進んでいるとのこと。

4．新課題について：下記 3 テーマについて NP の準備を行なうことになった。

①光変調器の周波数特性測定方法(日本提案)：74/PAS、75/NP に引き続き特に高周波帯に適した光変調器の測定方法を提案し了承された。NP 案は日本(黒川委員、市川委員)が準備することとなった。

②スイスおよびドイツの委員より、デジタルラジオの送信システム測定方法の標準化が必要との意見が出され合意。NP 案をスイスおよびドイツが準備することになった。

③独仏の委員より、SNMP(Simple Network Management Protocol)を用いた送信システムの制御・監視システムについて提案があり了承された。NP 案は独仏で準備することとなった。

5．今後の活動方針：エリアごとに長期的な戦略を検討するための WG として新たに「Radio-over-Fiber Transmitter」を設置することが提案され了承された。Cnvener は小川氏。

7．次回会合：2009 年 10 月　イギリスまたはスイス

以上

[注]：1. 該当者は、出席会議終了後 [6週間以内] に国際会議担当委員経由で、国際標準化対応支援委員会事務局宛ご提出下さい。
国際会議出席報告書の審議・承認の後に補助金を支払う。
会議終了後速やかに提出し、直近の運営委員会にて審議・承認を受けることが望ましい。
2. 本報告書は、同一会議に2名以上出席の場合、代表者が提出してください。
3. WG が TC/SC/TA と同時開催の場合は、WG 会議内容は TC/SC 報告に含めて報告書を提出して下さい。
4. 報告書の追加、訂正が生じた場合は、運営委員会開催後1週間以内に事務局に提出して下さい。
5. この報告書は、手続き完了後、JEITA ホームページ「国際標準化対応支援委員会」に掲載し、会員企業への報告に替えます。

国際標準化対応支援委員会事務局：(社)電子情報技術産業協会　知的基盤部標準・安全グループ
〒101-0065 東京都千代田区西神田 3-2-1（千代田ファーストビル南館）　Tel：03-5275-7259　Fax：03-5212-8122

様式 4

（社）電子情報技術産業協会　　運営委員会・資料番号：5-3／TC110-①（事務局記入）
国際標準化対応支援委員会　御中

提出日：2008 年 12 月 16 日

（報告者記載）予算番号：H20TC110④

国際会議出席報告書

国際会議担当委員名：加藤慎祐　報告書作成者氏名：加藤慎祐　（会社名）シャープ株式会社

出席会議名（半角） TC110	区　分 ☒TC ☐SC ☐TA ☐WG ☐PT ☐その他 ☐TC ☐SC ☐TA ☐WG ☐PT ☐その他 ☐TC ☐SC ☐TA ☐WG ☐PT ☐その他 ☐TC ☐SC ☐TA ☐WG ☐PT ☐その他	組織番号（TC/SC/TA）	TC110（半角）
		名　称（日本語）	フラットパネルディスプレイ
		☐単独開催 ☒同時開催	
開催期日	2008 年 10 月 13 日 ～ 2008 年 10 月 15 日		
開催場所	（国名）韓国	（都市名）京畿道 高陽市	
ﾁｪｱﾏﾝ／ｺﾝﾍﾞﾅ	ﾁｪｱﾏﾝ：御子柴茂生	幹事国　日本	
参加国及び参加人数	4ヶ国、主な国名 日本、韓国、中国、米国、参加人数（36）		
日本人出席者名（会社名）	[○：補助対象者・・・（例）：○ 電子太郎(JEITA 電子)] ○御子柴茂生(電気通信大学)、○岩間英雄(日本 CMO)、○田中宏典(パナソニック)、安藤亨(パナソニック)、打土井正孝(パナソニック)、越後博幸(東芝松下ディスプレイテクノロジー)、石黒勝己(シャープ)、木下順一(ハリソン東芝ライティング)、前川雄一(コダック)、増田善友(ブリヂストン)、友永哲夫(コニカミノルタ)、斉藤トシオ(コニカミノルタ)、芝原嘉彦(富士フイルム)、篠田傳(篠田プラズマ)、		

議事概要（背景・目的・成果・問題点など）（この欄は、見かけは1行ですが、所定欄に改行しながら最大28 行まで記入できます。）

1.背景・目的

・IEC ディスプレイ国際規格の審議として、傘下の WG2(液晶)・WG4(プラズマディスプレイ)・WG5(有機 EL)の各推進状況を確認すると共に、新規テーマである液晶用バックライトユニット・電子ペーパーに関する審議、加えて各デバイス規格間のハーモナイズに関する審議を行う。

2.成果

(1)各 WG 活動状況報告(審議状況報告)

①WG2(液晶)：策定中の IEC61747-5-2(外観検査)、5-3(機械的強度)、6-2(反射型)、6-3(動画ボヤケ)について、CDV 又は FDIS 文書を確認し、投票を行うこととした。メンテナンス対象の IEC61747-5(環境試験)、-6(透過型)について次回のドラフト提案に向け、見直しの方針を審議した。

②WG4(PDP)：策定中の IEC61988-2-3(品質)、2-4(視覚特性)、3-2(電気的ｲﾝﾀｰﾌｪｲｽ)、5(一般仕様)についてそれぞれ CDV の承認または 1stCD へのコメント審議を行った。メンテナンス規格として IEC61988-1(用語と記号)、2-1(光学)、2-2（光電）の期限延長(2008 年→2010 年)等を審議した。

③WG5(有機 EL)：策定中の IEC62341-1-1(一般仕様)、5-1(環境試験)、6-1(光電ﾊﾟﾗﾒｰﾀｰ)、6-2(外観検査)について審議を行った。また IEC62341-5-2(機械的強度)の新規提案に向け審議を行った。

(2)新規標準化として下記 4 案件の提案が発表された。但しいずれも具体的な規格案は提示されなかった。

①フレキシブルディスプレイ（プロジェクトリーダー：韓国 Kim 氏）

・「用語と定義」「機械的強度・信頼性」「光学的測定法」などを想定。「フレキシブル」の定義は今後議論する。

②3D ディスプレイ（プロジェクトリーダー：韓国 Lee 氏）

・「用語と定義」「光学的測定法」「立体映像の視覚疲労(映像の安全性)測定法」などを想定。

③中小型用タッチパネルガラス（プロジェクトリーダー：米国 Williams 氏）※具体的な説明はなし。

④電子ペーパー　※日本側で JBMIA にて活動しており、1 年以内に新規提案する旨、説明した。

(3)次回開催予定　・2009 年 12 月宮崎にて予定(IDW に合わせて開催)。

[注]：1. 該当者は、出席会議終了後 [6週間以内] に国際会議担当委員経由で、国際標準化対応支援委員会事務局宛ご提出下さい。
国際会議出席報告書の審議・承認の後に補助金を支払う。
会議終了後速やかに提出し、直近の運営委員会にて審議・承認を受けることが望ましい。
2. 本報告書は、同一会議に 2 名以上出席の場合、代表者が提出してください。
3. WG が TC/SC/TA と同時開催の場合は、WG 会議内容は TC/SC 報告に含めて報告書を提出して下さい。
4. 報告書の追加、訂正が生じた場合は、運営委員会開催後1週間以内に事務局に提出して下さい。
5. この報告書は、手続き完了後、JEITA ホームページ「国際標準化対応支援委員会」に掲載し、会員企業への報告に替えます。

様式 4

（社）電子情報技術産業協会　　運営委員会・資料番号：5-3／TC110-②（事務局記入）
国際標準化対応支援委員会　御中

提出日：2008 年 12 月 16 日

（報告者記載）予算番号：H20TC110⑤

国際会議出席報告書

国際会議担当委員名：加藤慎祐　報告書作成者氏名：加藤慎祐　（会社名）シャープ株式会社

出席会議名（半角）	区分	組織番号 (TC/SC/TA)	TC110/WG2（半角）
TC110/WG2	☒TC ☐SC ☐TA ☒WG ☐PT ☐その他		
	☐TC ☐SC ☐TA ☐WG ☐PT ☐その他	名称（日本語）	フラットパネルディスプレイ／液晶グループ
	☐TC ☐SC ☐TA ☐WG ☐PT ☐その他		
	☐TC ☐SC ☐TA ☐WG ☐PT ☐その他	☐単独開催 ☒同時開催	
開催期日	2008 年 10 月 13 日 ～ 2008 年 10 月 15 日		
開催場所	（国名）韓国	（都市名）京畿道 高陽市	
ﾁｪｱﾏﾝ／ｺﾝﾍﾞﾅ	WG2 ｺﾝﾍﾞﾅ：石黒勝己	幹事国　日本	
参加国及び参加人数	4ヶ国、主な国名 日本、韓国、中国、アメリカ、参加人数（16）		
日本人出席者名（会社名）	[○：補助対象者･･･（例）：○ 電子太郎(JEITA 電子)] ○石黒勝己(シャープ)、○依田優台(大塚電子)、○芝原嘉彦(富士フイルム)、鳴瀧陽三(シャープ)		

議事概要（背景･目的･成果･問題点など）（この欄は、見かけは1行ですが、所定欄に改行しながら最大28 行まで記入できます。）

1.背景・目的

・液晶ディスプレイモジュールに関する各種測定法規格として、現在策定作業中の IEC61747-5-2、5-3、6-2、6-3 の審議、及び IEC61747-5、-6 のメンテナンス審議を行う。

2.成果

(1)策定審議中の下記 CDV 文書について内容を確認した。尚 CDV 投票締め切りはすべて 2009 年 2 月 27 日。

①IEC61747-5-2(アクティブマトリクス LCD モジュールの外観検査)

②IEC61747-5-3(ガラスの機械的強度と信頼性測定法)

・現在、FDIS のための仏語訳を待っている状況。

③IEC61747-6-2(反射型液晶モジュール測定法)

・日本(鳴瀧委員)より、IMID(同時期に開催されたディスプレイの国際学会)での発表資料(本規格に関する測定精度向上策で、規格の引用文献とする)のエッセンスを説明すると共に、CDV 投票の際に日本の NC からコメントを提出する旨、説明した。

④IEC61747-6-3(アクティブマトリクス液晶モジュールの動画ボヤケ測定法)

(2)下記 2 件のメンテナンス文書について審議を行った。

①IEC61747-5(環境、耐久性、機械的強度試験法)

・プロジェクトリーダーを米国コーニング社の Williams 氏とした。

・今回はドラフトの提案はなく、見直しの基本方針を審議した。方針として、「スコープの変更は行わない」「関連規格(61747-5-2、5-3)を考慮した内容とする」「参照文献は最新版とし発行日付は記載しない」等を決めた。

・次回 WG(2009 年 6 月)に向けてドラフトを提案することとした。

②IEC 61747-6(透過型液晶モジュールの測定法)

・プロジェクトリーダーである Henzen 氏は出席できず、電話でドラフトの説明を頂いた。

・ドラフト自体は未だ追加・修正が必要な段階であり、そのポイントをピックアップした。

・後日 Henzen 氏にコメントを送付し、それを反映させた 1stCD 案を同氏から岩間幹事宛に送付予定(1 月)。

(3)次回予定：SID2009 に合わせ、2009 年 6 月に開催予定。

[注]：1. 該当者は、出席会議終了後［6週間以内］に国際会議担当委員経由で、国際標準化対応支援委員会事務局宛ご提出下さい。
国際会議出席報告書の審議・承認の後に補助金を支払う。
会議終了後速やかに提出し、直近の運営委員会にて審議・承認を受けることが望ましい。
2. 本報告書は、同一会議に2名以上出席の場合、代表者が提出してください。
3. WG が TC/SC/TA と同時開催の場合は、WG 会議内容は TC/SC 報告に含めて報告書を提出して下さい。
4. 報告書の追加、訂正が生じた場合は、運営委員会開催後1週間以内に事務局に提出して下さい。
5. この報告書は、手続き完了後、JEITA ホームページ「国際標準化対応支援委員会」に掲載し、会員企業への報告に替えます。

様式 4

（社）電子情報技術産業協会　　運営委員会・資料番号：5-3／TC110-③（事務局記入）
国際標準化対応支援委員会　御中

提出日：2008 年 12 月 16 日

（報告者記載）予算番号：H20TC110⑥

国際会議出席報告書

国際会議担当委員名：加藤慎祐　報告書作成者氏名：加藤慎祐　（会社名）シャープ株式会社

出席会議名（半角）	区　分	組織番号 (TC/SC/TA)	TC110/WG4（半角）
TC110/WG4	☒TC ☐SC ☐TA ☒WG ☐PT ☐その他		
	☐TC ☐SC ☐TA ☐WG ☐PT ☐その他	名　称 (日本語)	フラットパネルディスプレイ／プラズマディスプレイグループ
	☐TC ☐SC ☐TA ☐WG ☐PT ☐その他		
	☐TC ☐SC ☐TA ☐WG ☐PT ☐その他	☐単独開催 ☒同時開催	
開催期日	2008 年 10 月 13 日 ～ 2008 年 10 月 15 日		
開催場所	（国名）韓国	（都市名）京畿道 高陽市	
ﾁｪｱﾏﾝ／ｺﾝﾍﾞﾅ	WG4 ｺﾝﾍﾞﾅ：篠田傳	幹事国　日本	
参加国及び参加人数	5ヶ国、主な国名 日本、韓国、中国、米国、オランダ、参加人数（15）		
日本人出席者名（会社名）	[○：補助対象者・・・（例）：○ 電子太郎(JEITA 電子)] ○篠田傳(篠田プラズマ)、○打土井正孝(パナソニック)、○安藤亨(パナソニック)、田中宏典(パナソニック)		

議事概要（背景・目的・成果・問題点など）（この欄は、見かけは1行ですが、所定欄に改行しながら最大28行まで記入できます。）

1.背景・目的

・プラズマディスプレイパネルに関する各種測定法規格として、現在策定作業中の、IEC61988-2-3、2-4、3-2、5 に対する審議、及びメンテナンスサイクルにある IEC61988-1、2-1 の審議を行う。

2.成果

(1)現在策定中の規格について下記審議を行った。

①IEC61988-2-3(プラズマディスプレイの測定法―品質)

・CDV を承認し、コメント審議を完了した。FDIS にてタイトルを変更予定(FDIS は 12 月に回付予定)。

②IEC61988-2-4(プラズマディスプレイの測定法―視覚特性)

・1stCD へのコメント審議を終了し、2ndCD のまとめ作業を行うこととした(今回会議後、回付する)。

③IEC61988-3-2(プラズマディスプレイの電気的インターフェイス)：

・CDV を承認し、コメント審議を完了した。FDIS にてタイトルを一部変更する(12 月に FDIS 回付予定)。

④IEC61988-5(プラズマディスプレイの一般仕様)：

・CDV を承認し、コメント審議を完了した。12 月に FDIS 回付予定。

(2)下記 2 規格についてメンテナンスの審議を行った。

①IEC61988-1(プラズマディスプレイの用語及び記号等)

・プロジェクトリーダーを(米国)Olin 氏とし、メンテナンス期限を 2008 年末から 2010 年に延長した。会議後に MCR と CD を回付予定。

②IEC61988-2-1(プラズマディスプレイの測定法―Optical and optoelectrical)

・プロジェクトリーダーを(日本)打土井氏とし、メンテナンス期限を 2008 年末から 2010 年に延長した。会議後に既存 2 規格(2-1 と 2-2)と MCR とを合体した文書を CD として回付予定。

(3)新規規格として下記 2 規格の提案がなされた。

①IEC61988-(プラズマディスプレイの測定法―パネル強度)

②IEC61988-(プラズマディスプレイの測定法―音響ノイズ)

(4)次回予定：12 月 7 日、新潟にて WG4 アドホック会議開催予定(IDW'08 に合わせて開催)。

[注]：1. 該当者は、出席会議終了後［6週間以内］に国際会議担当委員経由で、国際標準化対応支援委員会事務局宛ご提出下さい。
国際会議出席報告書の審議・承認の後に補助金を支払う。
会議終了後速やかに提出し、直近の運営委員会にて審議・承認を受けることが望ましい。
2. 本報告書は、同一会議に2名以上出席の場合、代表者が提出してください。
3. WG が TC/SC/TA と同時開催の場合は、WG 会議内容は TC/SC 報告に含めて報告書を提出して下さい。
4. 報告書の追加、訂正が生じた場合は、運営委員会開催後1週間以内に事務局に提出して下さい。
5. この報告書は、手続き完了後、JEITA ホームページ「国際標準化対応支援委員会」に掲載し、会員企業への報告に替えます。

国際標準化対応支援委員会事務局：(社)電子情報技術産業協会　知的基盤部標準・安全グループ

様式 4

（社）電子情報技術産業協会　　運営委員会・資料番号：5-3／TC110-④（事務局記入）
国際標準化対応支援委員会　御中

提出日：2008 年 12 月 16 日

（報告者記載）予算番号：H20TC110⑦

国際会議出席報告書

国際会議担当委員名：加藤慎祐　報告書作成者氏名：加藤慎祐　（会社名）シャープ株式会社

出席会議名（半角） TC110/WG5	区　分 ☒TC ☐SC ☐TA ☒WG ☐PT ☐その他	組織番号（TC/SC/TA）	TC110/WG5（半角）
	☐TC ☐SC ☐TA ☐WG ☐PT ☐その他	名　称（日本語）	フラットパネルディスプレイ／有機ELディスプレイグループ
	☐TC ☐SC ☐TA ☐WG ☐PT ☐その他		
	☐TC ☐SC ☐TA ☐WG ☐PT ☐その他	☐単独開催 ☒同時開催	
開催期日	2008 年 10 月 13 日 ～ 2008 年 10 月 15 日		
開催場所	（国名）韓国	（都市名）京畿道 高陽市	
ﾁｪｱﾏﾝ／ｺﾝﾍﾞﾅ	WG5 ｺﾝﾍﾞﾅ：Changhee Lee	幹事国　韓国	
参加国及び参加人数	5ヶ国、主な国名 日本、韓国、中国、米国、フィンランド、参加人数（20）		
日本人出席者名（会社名）	[○：補助対象者・・・（例）：○ 電子太郎(JEITA 電子)] ○前川雄一(コダック)、斉藤トシオ(コニカミノルタ)、友永哲夫(コニカミノルタ)		

議事概要（背景・目的・成果・問題点など）（この欄は、見かけは1行ですが、所定欄に改行しながら最大28行まで記入できます。）

1.背景・目的

・有機 EL ディスプレイモジュールに関する各種測定法規格として、現在策定作業中の IEC62341-1-1、5-1、5-2、6-1、6-2、6-3 に対する審議を行う。

2.成果

(1)現在策定中の規格について下記審議を行った。

①IEC62341-1-1(有機 EL ディスプレイの一般仕様)

・既に FDIS 段階にあり、今回審議を終了し規格として発行することとなった。

②IEC62341-5-1(有機 EL ディスプレイの環境試験法)

・CDV へのコメントを審議した。日本意見はすべて反映されており、今後 11 月末までに FDIS 原稿を回覧し、12 月 21 日までにセクレタリへ提出予定。

③IEC62341-6-1(有機 EL ディスプレイの Optical and Electro-optical パラメーター)

・審議を終了し、規格として発行することとなった。

④IEC62341-6-2(有機 EL ディスプレイの外観検査)

・NP 投票が 10 月締め切りでであり、日本からはコメント付で賛成投票を行った。

・次回会議(2009 年 6 月)にて 1stCD を審議予定。

(2)新規提案に向け下記審議を行った。

・IEC62341-5-2(有機 EL ディスプレイの機械的強度)

・原稿修正後に NP 提案を行う予定。これまでの準備期間が長かったので審議期間は短くなると期待している。

(3)次回予定

・SID2009 に合わせ、2009 年 6 月に開催予定。

[注]：1. 該当者は、出席会議終了後［6週間以内］に国際会議担当委員経由で、国際標準化対応支援委員会事務局宛ご提出下さい。
国際会議出席報告書の審議・承認の後に補助金を支払う。
会議終了後速やかに提出し、直近の運営委員会にて審議・承認を受けることが望ましい。
2. 本報告書は、同一会議に2名以上出席の場合、代表者が提出してください。
3. WG が TC/SC/TA と同時開催の場合は、WG 会議内容は TC/SC 報告に含めて報告書を提出して下さい。
4. 報告書の追加、訂正が生じた場合は、運営委員会開催後1週間以内に事務局に提出して下さい。
5. この報告書は、手続き完了後、JEITA ホームページ「国際標準化対応支援委員会」に掲載し、会員企業への報告に替えます。

国際標準化対応支援委員会事務局：(社)電子情報技術産業協会　知的基盤部標準・安全グループ
〒101-0065 東京都千代田区西神田 3-2-1（千代田ファーストビル南館）　Tel：03-5275-7259　Fax：03-5212-8122

様式 4

（社）電子情報技術産業協会　　運営委員会・資料番号：5-3／TC113-①（事務局記入）
国際標準化対応支援委員会　御中

提出日：2008 年 11 月 26 日

（報告者記載）予算番号：H20TC113④

国際会議出席報告書

国際会議担当委員名：春日壽夫　報告書作成者氏名：飯島賢二　（会社名）パナソニック㈱

出席会議名（半角）	区分	組織番号（TC/SC/TA）	TC113（半角）
TC113	☒TC ☐SC ☐TA ☐WG ☐PT ☐その他		
	☐TC ☐SC ☐TA ☐WG ☐PT ☐その他	名称（日本語）	電気・電子分野の製品及びシステムのナノテクノロジー
	☐TC ☐SC ☐TA ☐WG ☐PT ☐その他		
	☐TC ☐SC ☐TA ☐WG ☐PT ☐その他	☐単独開催 ☒同時開催	
開催期日	2008 年 11 月 13 日 ～ 200 年 月 日		
開催場所	（国名）米国	（都市名）ガイザースブルグ	
ﾁｪｱﾏﾝ／ｺﾝﾍﾞﾅ	Thomas Chapin(米国)	幹事国 ドイツ	
参加国及び参加人数	8ヶ国、主な国名 日本／米国／ドイツ／カナダ／ロシア／英国／イタリア／韓国、参加人数（30）		
日本人出席者名（会社名）	[○：補助対象者・・・（例）：○ 電子太郎(JEITA 電子)] ○開（東芝）、○飯島（パナソニック）、春日（NEC）、吉田（東芝）、粟野（富士通）		

議事概要（背景・目的・成果・問題点など）（この欄は、見かけは1行ですが、所定欄に改行しながら最大28行まで記入できます。）

1．目的：電気・電子分野の製品に資するナノテクノロジーに関わる標準化についての審議

2．成果：TC113 国際会議（11 月 13 日総会）

○標準化の進め方に関する主な決議事項

①CAG の決議事項が承認された・ナンバリングのシステム導入のためのコラボレーションツールを採用

・JWG1 で議論する ISOTC229 のターミノロジーの案件についてはIEC でも投票を行う。ターミノロジのプロジェクトは IEC/ISO8xxx-nn にリナンバーをする。

・NP 投票が終わって審議が進んでいる ISO-lead projects については、JWG2 ではバロットはしない

・電気・電子分野応用の標準化のロードマップを日本と韓国の原案に基づき検討する TG を創設する。メンバーは P.Brazis、W.Park、Y.Awano, H.Bennett.

②その他の決議事項

・IEC/ISO のジョイントプロジェクトに対するナンバリングを両団体において合理的に行う事を承認。CNT４端子測定のプロジェクトは PT80003 とする。

・TC113 は IEC/IEEE のデュアルロゴについて支持する。

○主な報告事項

①JWG1、JWG2、WG３の活動報告

JWG2 の活動で NWIP（４端子測定）について IEC、ISO どちらが主体となり議論するかを明確にするように要請あり

②TC113　Strategic Policy Statement(113/24/NF)の改定報告

・NWIP に関し、IEC と ISO でどのように取り扱うかの提案があったが、具体的な進め方については ISO の会議(上海 11 月 17 日～)においても議論することとなった

・IEC における標準化のプロセスがプロダクトドリブンであること、プレコンペティティブフェイズにおいては JWG2 の活動が重要であること

・TC113 における標準化については、（テクノロジー/プロダクト）軸、ライフサイクル軸、（パフォーマンス/信頼性/安全性）軸の三次元で考える事

・New P member:として南アフリカ（15 カ国目）が参加

3．次回会議 2009 年 10 月　イスラエルのテルアビブにて開催予定

[注]：1. 該当者は、出席会議終了後 [6週間以内] に国際会議担当委員経由で、国際標準化対応支援委員会事務局宛ご提出下さい。
国際会議出席報告書の審議・承認の後に補助金を支払う。
会議終了後速やかに提出し、直近の運営委員会にて審議・承認を受けることが望ましい。
2. 本報告書は、同一会議に2名以上出席の場合、代表者が提出してください。
3. WG が TC/SC/TA と同時開催の場合は、WG 会議内容は TC/SC 報告に含めて報告書を提出して下さい。
4. 報告書の追加、訂正が生じた場合は、運営委員会開催後1週間以内に事務局に提出して下さい。

様式 4

（社）電子情報技術産業協会　　運営委員会・資料番号：5-3／TC113-②（事務局記入）
国際標準化対応支援委員会　御中

提出日：2008 年 11 月 25 日

（報告者記載）予算番号：H20TC113⑤

国際会議出席報告書

国際会議担当委員名：春日壽夫　報告書作成者氏名：遠藤告幸　（会社名）NEC

出席会議名（半角）	区分	組織番号（TC/SC/TA）	TC113（半角）
TC113/WG3	☒TC ☐SC ☐TA ☒WG ☐PT ☐その他		
	☐TC ☐SC ☐TA ☐WG ☐PT ☐その他	名称（日本語）	電気・電子分野の製品及びシステムのナノテクノロジー
	☐TC ☐SC ☐TA ☐WG ☐PT ☐その他		
	☐TC ☐SC ☐TA ☐WG ☐PT ☐その他	☐単独開催 ☒同時開催	
開催期日	2008 年 11 月 10 日 ～ 2008 年 11 月 11 日		
開催場所	（国名）米国	（都市名）ガイザースブルグ	
ﾁｪｱﾏﾝ／ｺﾝﾍﾞﾅ	T.Chapin(米国)／W.Bergholz（ドイツ）	幹事国　ドイツ	
参加国及び参加人数	9ヶ国、主な国名 日本、カナダ、ドイツ、イタリア、韓国、ロシア、シンガポール、台湾、米国、参加人数（24）		
日本人出席者名（会社名）	[○：補助対象者…（例）：○ 電子太郎(JEITA 電子)] ○遠藤告幸（NEC）、開俊一（東芝、TC113国内委員会委員長）、吉田二朗（東芝、TC113/WG3 ココンビナ）、 ○粟野祐二(富士通)、春日壽夫（NEC エレクトロニクス、SC47A 国際幹事）、飯島賢二（パナソニック）		

議事概要（背景･目的･成果･問題点など）（この欄は、見かけは1行ですが、所定欄に改行しながら最大28行まで記入できます。）

1．目的：WG3 の定期委員会で、ナノエレクトロニクスの電子特性にかかわる IS,TS,新規提案の審議を実施する。

2．成果： TC113/WG3（ナノエレクトロニクス・パフォーマンス）国際会議(11/10～11)

●進行中のプロジェクトに関する審議

①Pj# IEC 62565 Ed.1.0（リーダ:ドイツ）：単層 CNT のエレクトロニクス応用のための特性表

ドイツから CD1 の改定案が提示された。審議中、二層、三層 CNT の混入の問題が指摘され、単層 CNT の副生物としてそれぞれの混入率を記載することが提案。多層 CNT については、従来どおり、別に審議する。

本会議の内容を基に CD2 を作成し、各国の CNT メーカーに意見を求めることとした。

②NWIP 113/35/NP（韓国）：CNT フィルムの４端子手法による電気特性評価

提案内容と各国からのコメントに対する対応を提案者が説明。提案自体は既に投票済みで新規プロジェクトとして承認された。プロジェクトチームにより内容の更なる充実を図る。（本件については、JWG2 の案件として、ISO 側でも投票済み。今後、どのように扱うか CAG、TC113 の Plenary、上海で開催される JWG2 でも議論することとした。）

●その他

①韓国ナノデバイスロードマップの講演：KANC の Park 氏が韓国のナノデバイスの実用化ロードマップを講演。

②太陽電池の講演：Tsakalakos(GE)氏による太陽電池へのナノテクノロジーの応用についての講演。

③CNT の講演：Segal(Nantelo)氏による CNT の製造法に関する講演。

●課題等

①ロードマップについては、日本からも CAG で進捗を報告。日米韓でタスクフォースをつくり進める。

②４端子法等の ISO も関与する提案についての進め方を Plenary、JWG で議論する。

●次回会議

2009 年春、米国シアトルで ISO/TC229　JWG1,2 と共同で開催予定。

[注]：1. 該当者は、出席会議終了後 6週間以内 に国際会議担当委員経由で、国際標準化対応支援委員会事務局宛ご提出下さい。
国際会議出席報告書の審議・承認の後に補助金を支払う。
会議終了後速やかに提出し、直近の運営委員会にて審議・承認を受けることが望ましい。
2. 本報告書は、同一会議に2名以上出席の場合、代表者が提出してください。
3. WG が TC/SC/TA と同時開催の場合は、WG 会議内容は TC/SC 報告に含めて報告書を提出して下さい。
4. 報告書の追加、訂正が生じた場合は、運営委員会開催後1週間以内に事務局に提出して下さい。
5. この報告書は、手続き完了後、JEITA ホームページ「国際標準化対応支援委員会」に掲載し、会員企業への報告に替えます。

国際標準化対応支援委員会事務局：(社)電子情報技術産業協会　知的基盤部標準･安全グループ
〒101-0065 東京都千代田区西神田 3-2-1（千代田ファーストビル南館）　Tel：03-5275-7259　Fax：03-5212-8122

様式 4

（社）電子情報技術産業協会　　運営委員会・資料番号：5-3／TC113-③（事務局記入）
国際標準化対応支援委員会　御中

提出日：2008 年 12 月 0 日

（報告者記載）予算番号：H20TC113②

国際会議出席報告書

国際会議担当委員名：春日壽夫　報告書作成者氏名：芝健夫　（会社名）日立

出席会議名（半角）	区分	組織番号（TC/SC/TA）	TC113（半角）
TC113/JWG1	☒TC ☐SC ☐TA ☒WG ☐PT ☐その他		
	☐TC ☐SC ☐TA ☐WG ☐PT ☐その他	名称（日本語）	電気・電子分野の製品及びシステムのナノテクノロジー
	☐TC ☐SC ☐TA ☐WG ☐PT ☐その他		
	☐TC ☐SC ☐TA ☐WG ☐PT ☐その他	☐単独開催 ☒同時開催	
開催期日	2008 年 11 月 17 日 ～ 2008 年 11 月 21 日		
開催場所	（国名）中国	（都市名）上海	
ﾁｪｱﾏﾝ／ｺﾝﾍﾞﾅ	P.Hatto(英国)／C.Willis（カナダ）	幹事国　カナダ	
参加国及び参加人数	26ヶ国、主な国名 日本、英国、ドイツ、カナダ、、オーストラリア、ノルウエー、イラン、米国、中国、スイス、フランス、マレーシア、メキシコ、他、、参加人数（20）		
日本人出席者名（会社名）	[○：補助対象者…（例）：○ 電子太郎(JEITA 電子)] ○芝健夫（日立）、阿部隆治（産総研、PG3 リーダー）、目崎令司（産総研、PG6 エキスパート）、他		

議事概要（背景・目的・成果・問題点など）（この欄は、見かけは1行ですが、所定欄に改行しながら最大28行まで記入できます。）

背景：ISO/TC229 専門委員会と IEC/TC113 専門委員会が、重複作業を避け効率的な国際標準化活動を行うため、密接な協力・連携の下で、「用語と命名法」「計測とキャラクタリゼーション」に関して合同 WG で審議を行う

1．目的：ISO/TC229 第 7 回国際会議に IEC/TC113 の委員として参加し、JWG1「用語と命名法」の審議に参加する。

2．成果： JWG1 での審議、決議、提案。審議期間(11/17～21)

●進行中のプロジェクトに関する審議

①TG1　命名法のモデル：対象物とそのパラメータの特定のため、アンケートによるサーベイ実施。この結果は TG1 内部情報とする。IUPAC との連携のための覚書を作成。今回の議論を入れて、報告書をまとめる。

②PG2　用語のフレームワーク：ナノテクノロジーの階層構造と各用語の定義を議論した。討議結果を原案に反映し、再度エキスパートの意見を求める

③PG5　Core terms：ナノテクノロジーとナノサイエンスの定義に関して集中討議し、合意を得た。最終日の総会決議において、TS 12144 に含まれる予定の作業定義として認知された

④PG6　ナノ構造材料：討議時間不足のため今後電話会議で、特にエキスパートのコメントに対する討議を進める

⑤PG3　カーボンナノ材料：今回の討議内容を草案に織り込み、最終案をまとめコンビーナに提出する

⑥PG7　バイオーナノインターフェース：今回初会合であり技術紹介の後討議。今後電話会議と Email で議論進める

⑦PG8　ナノ計測：アプリケーションからの情報付加が必要であることに同意が得られ、今後 Email で議論を進める

⑧PG9　医療、健康ケア：範囲が広いので新たな文章を作成することになった。ナノ構造の階層構造を検討する

●課題等

①JWG1 活動活性化のため、アプリケーションを明確にする努力をしながら、ISO と IEC の会話を促進する

②バイオーナノインターフェースの分野での議論は、今後電話会議に Email も加えて活性化を図る

●次回会議

2009 年 6/8～6/12、米国シアトル

[注]：1. 該当者は、出席会議終了後［6週間以内］に国際会議担当委員経由で、国際標準化対応支援委員会事務局宛ご提出下さい。
国際会議出席報告書の審議・承認の後に補助金を支払う。
会議終了後速やかに提出し、直近の運営委員会にて審議・承認を受けることが望ましい。
2. 本報告書は、同一会議に2名以上出席の場合、代表者が提出してください。
3. WG が TC/SC/TA と同時開催の場合は、WG 会議内容は TC/SC 報告に含めて報告書を提出して下さい。
4. 報告書の追加、訂正が生じた場合は、運営委員会開催後1週間以内に事務局に提出して下さい。
5. この報告書は、手続き完了後、JEITA ホームページ「国際標準化対応支援委員会」に掲載し、会員企業への報告に替えます。

国際標準化対応支援委員会事務局：(社)電子情報技術産業協会　知的基盤部標準・安全グループ
〒101-0065 東京都千代田区西神田 3-2-1（千代田ファーストビル南館）　Tel：03-5275-7259　Fax：03-5212-8122

様式 4

（社）電子情報技術産業協会　　運営委員会・資料番号：5-3／JISC/CENELEC-①（事務局記入）
国際標準化対応支援委員会　御中

提出日：2008 年 12 月 8 日

（報告者記載）予算番号：H20JISC/CENELEC①

国際会議出席報告書

国際会議担当委員名：平川秀治　報告書作成者氏名：平川秀治　（会社名）（株）東芝

出席会議名（半角）	区分	組織番号 (TC/SC/TA)	JISC/CENELEC (半角)
JISC/CENELEC 総会、ICT-WG	☐TC ☐SC ☐TA ☐WG ☐PT ☒その他		
	☐TC ☐SC ☐TA ☐WG ☐PT ☐その他	名称 (日本語)	日本規格調査会／欧州電気標準化委員会 情報交換会
	☐TC ☐SC ☐TA ☐WG ☐PT ☐その他		
	☐TC ☐SC ☐TA ☐WG ☐PT ☐その他	☐単独開催 ☒同時開催	
開催期日	2008 年 10 月 6 日 ～ 200 年 月 日		
開催場所	（国名）スペイン王国	（都市名）マドリード市	
ﾁｪｱﾏﾝ／ｺﾝﾍﾞﾅ	Julián Seseña	幹事国 CENELEC 側／スペイン	
参加国及び参加人数	3ヶ国、主な国名 スペイン、イタリア、日本、参加人数（12）		
日本人出席者名（会社名）	[○：補助対象者・・・（例）：○ 電子太郎(JEITA 電子)] ○平川 秀治、江崎 正（同時開催のAccessibility WGに参加した出席者は含めない）		

議事概要（背景・目的・成果・問題点など）（この欄は、見かけは1行ですが、所定欄に改行しながら最大28行まで記入できます。）

本WGは、前回と同様、前半をICT、後半をAccessibilityに割り当て、つなぎの部分はICT関連のAccessibilityについて議論する運営であった。

JISCからは、①IEC TC 100関連のICT関連規格の審議状況、②JEITAのホームネットワーク情報交換Ad-hocでのトピックス、③地上デジタル放送の普及度、④IPTV受信機関連の標準化でITU-T、JTC-1、ETSIを含めたTC 100 High Level会合、⑤AV機器の消費電力測定法について紹介した。

CENELECから、①英国が導入予定のDVT-T2、②衛星放送による携帯端末向け放送であるDVB-SH、③TC 206を中心にCENELECの活動内容紹介、④デジタル放送受信機の相互互換性、について紹介された。

本年度の一番大きな収穫は、欧州ではCENELECがデジタル放送受信機の要求条件を決める標準化団体であると判明したことである。毎年、EBU、DVB、CENELEC、ETSIがJTC (Joint Technical Committee)を毎年一月に開催して、デジタル放送関連の規格作業をETSI→ITUとするか、CENELEC→IECとするかを決めている。欧州の場合、放送事業者と受信機メーカのバランスが取れているDVBがETSIとCENELECを上手に使っている。

IEC TC 100は、幹事国がオランダであった時代はCENELECと「付かず離れず」で微妙な距離を保って活動してきた。2004年より幹事国が日本となり、CENELECとは、一時、疎遠になっていたが、このICT-WGの活動により、年に一回ではあるがF2F会合ができ、有効に活用している。CENELECはドレスデン協定により、IEC活動で特別のポジションを占めていることあり、情報交換会への参加は非常に有意義であり、今後も継続することは必須である。

[注]：1. 該当者は、出席会議終了後［6週間以内］に国際会議担当委員経由で、国際標準化対応支援委員会事務局宛ご提出下さい。
国際会議出席報告書の審議・承認の後に補助金を支払う。
会議終了後速やかに提出し、直近の運営委員会にて審議・承認を受けることが望ましい。
2. 本報告書は、同一会議に2名以上出席の場合、代表者が提出してください。
3. WGがTC/SC/TAと同時開催の場合は、WG会議内容はTC/SC報告に含めて報告書を提出して下さい。
4. 報告書の追加、訂正が生じた場合は、運営委員会開催後1週間以内に事務局に提出して下さい。
5. この報告書は、手続き完了後、JEITAホームページ「国際標準化対応支援委員会」に掲載し、会員企業への報告に替えます。

国際標準化対応支援委員会事務局：(社)電子情報技術産業協会　知的基盤部標準・安全グループ
〒101-0065 東京都千代田区西神田3-2-1（千代田ファーストビル南館）　Tel：03-5275-7259　Fax：03-5212-8122